

**魔王**に挑んだら

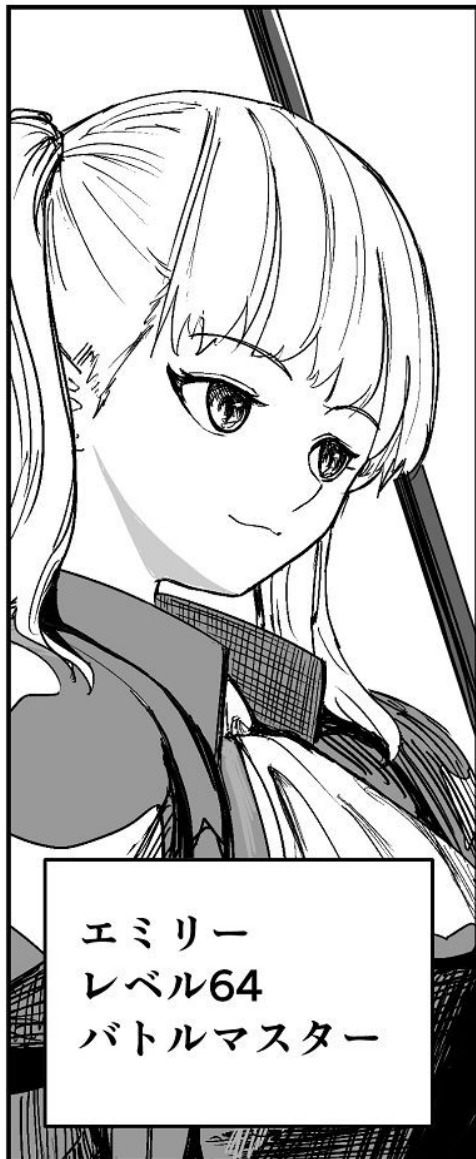
仲間を犯され

**洗脳**されて

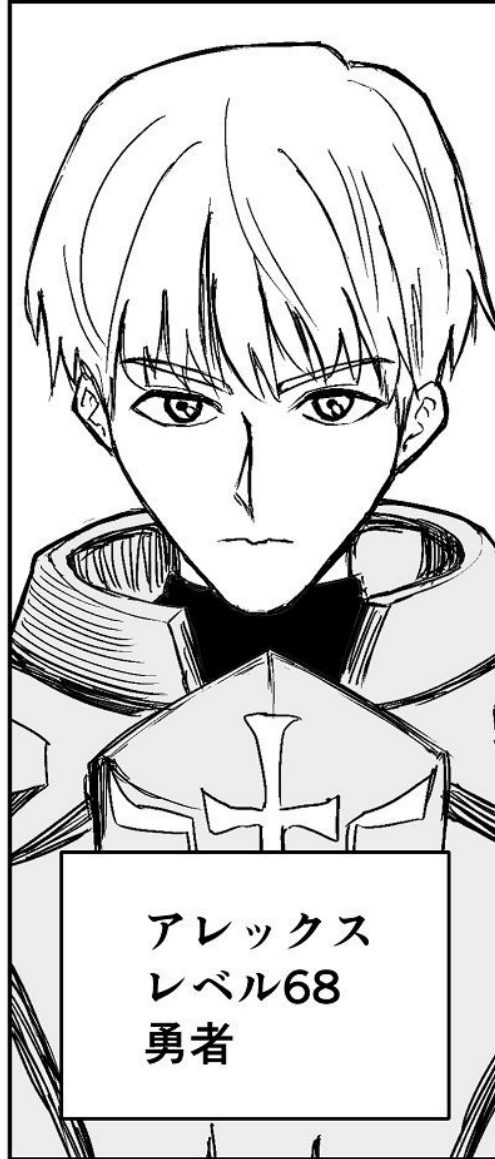
**魔王の妻**に

されてしまった話

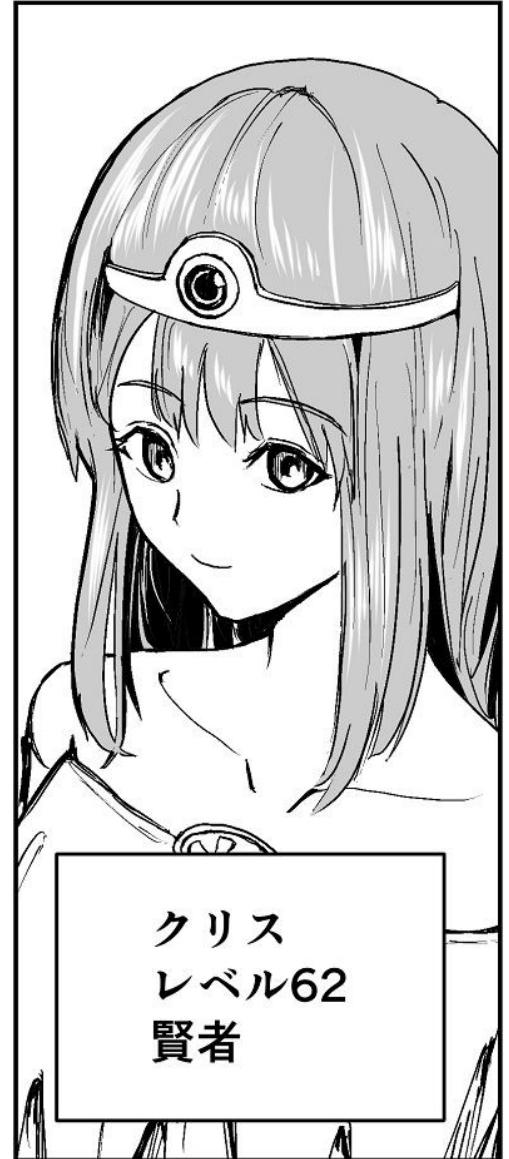




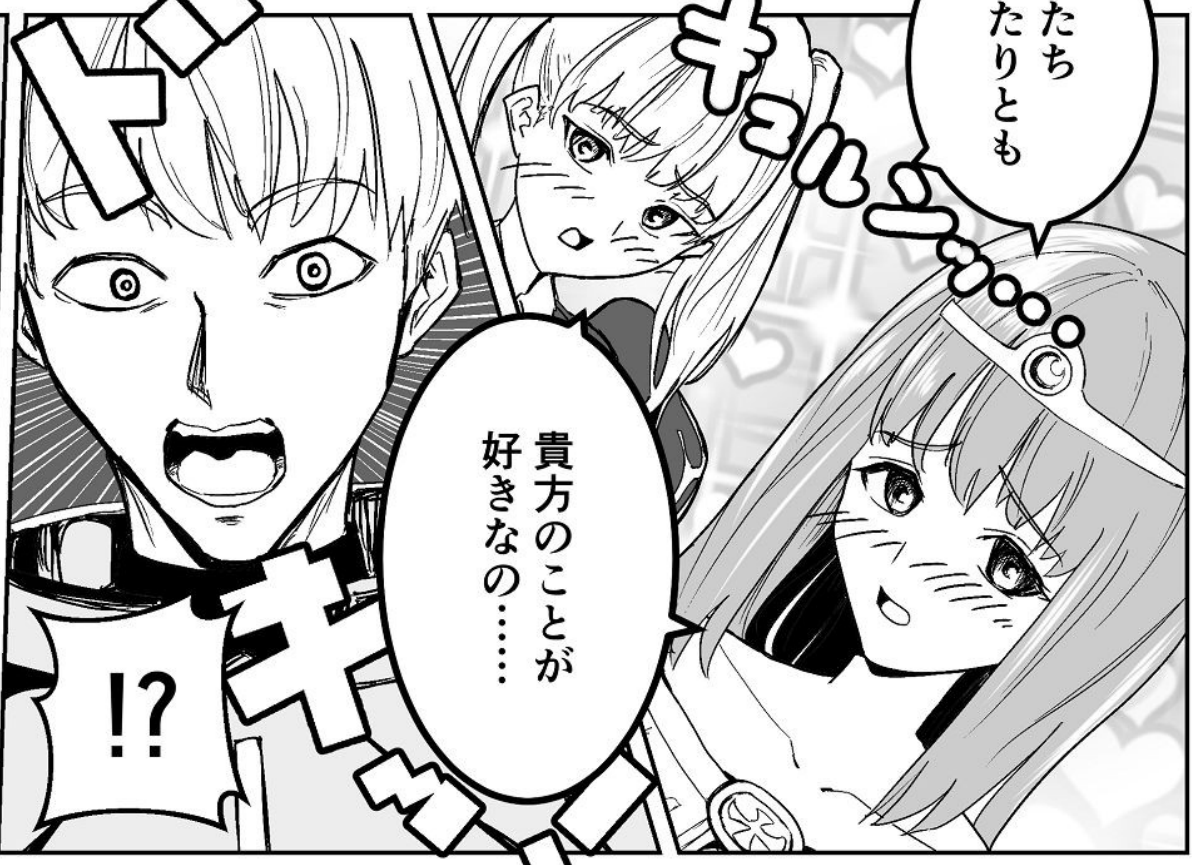
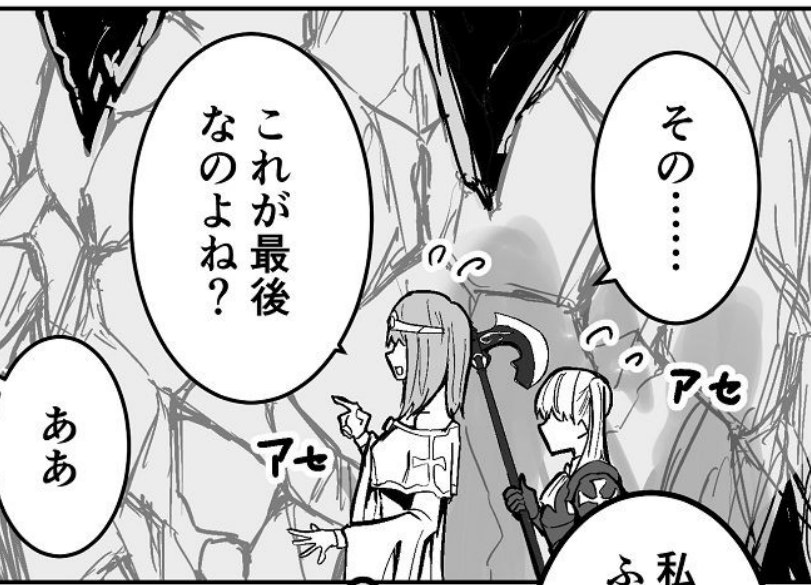
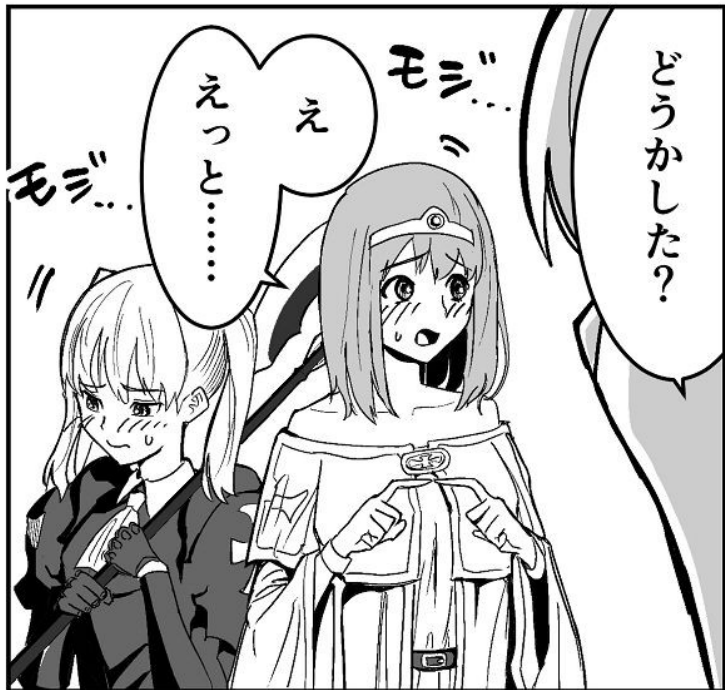
エミリー  
レベル64  
バトルマスター

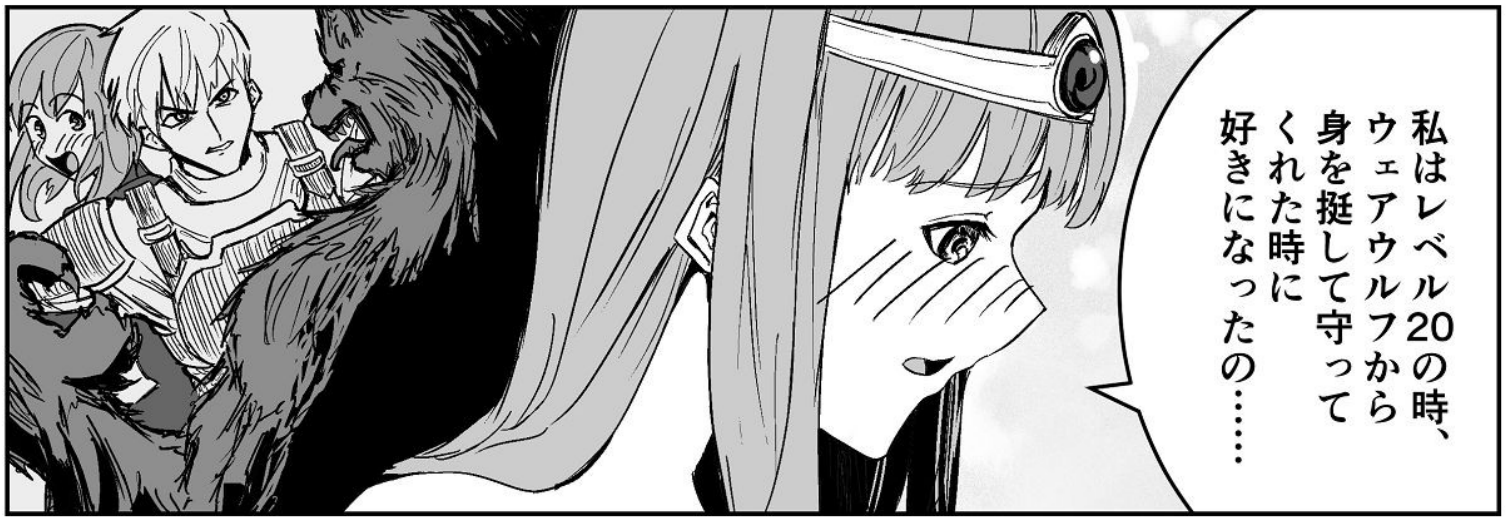


アレックス  
レベル68  
勇者

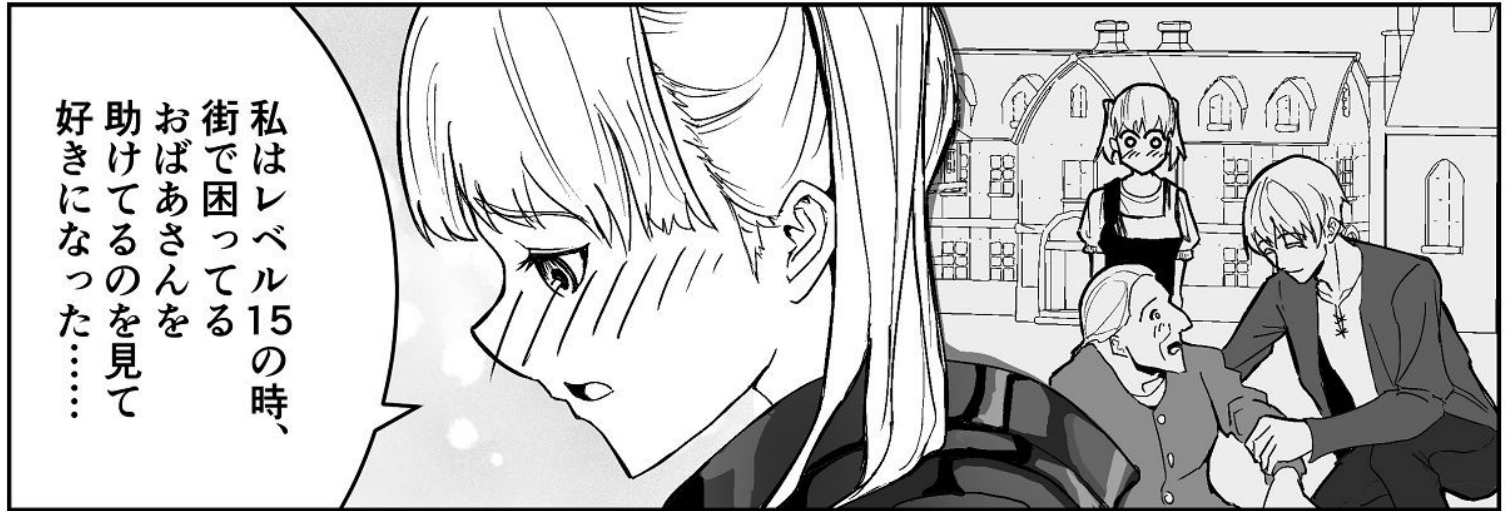


クリス  
レベル62  
賢者





私はレベル20の時、  
ウエアウルフから  
身を挺して守って  
くれた時に  
好きになったの……



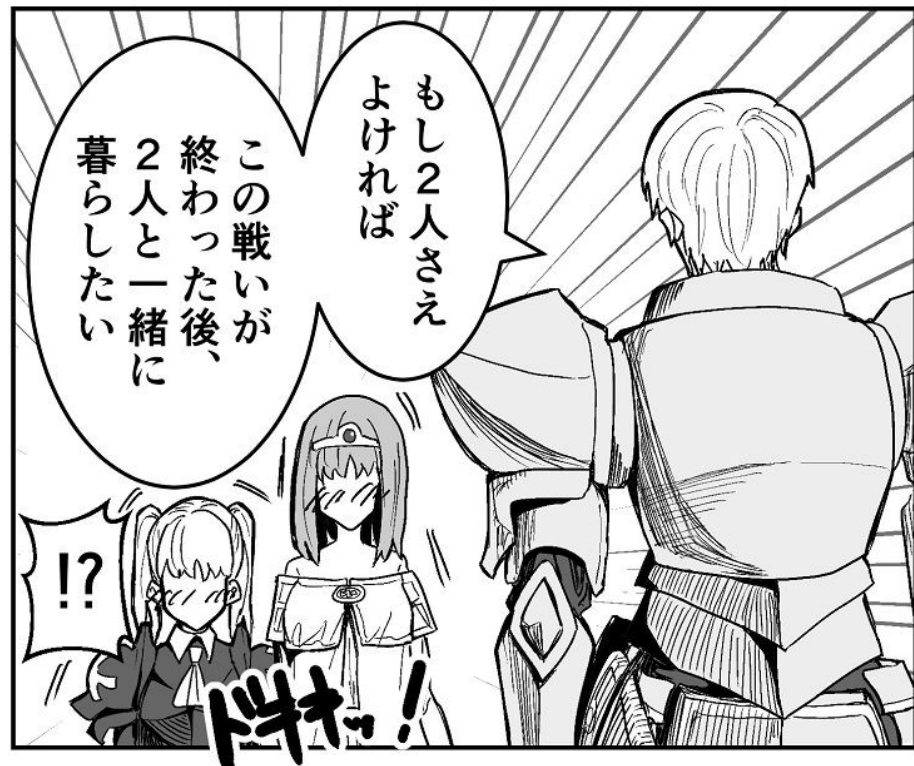
私はレベル15の時、  
街で困ってる  
おばあさんを  
助けてるのを見て  
好きになった……

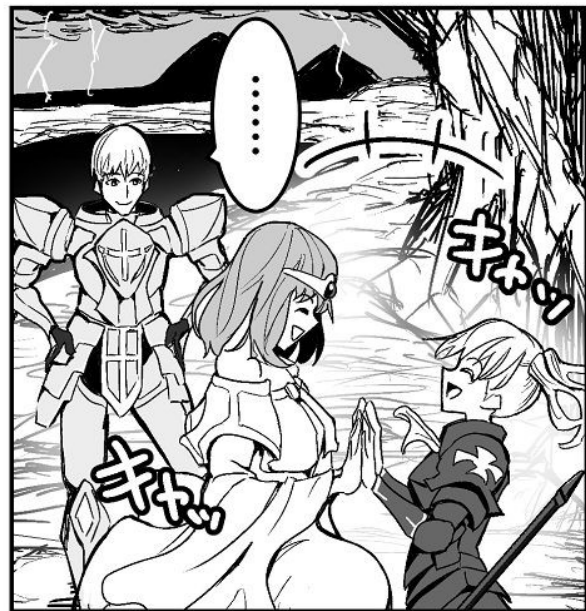
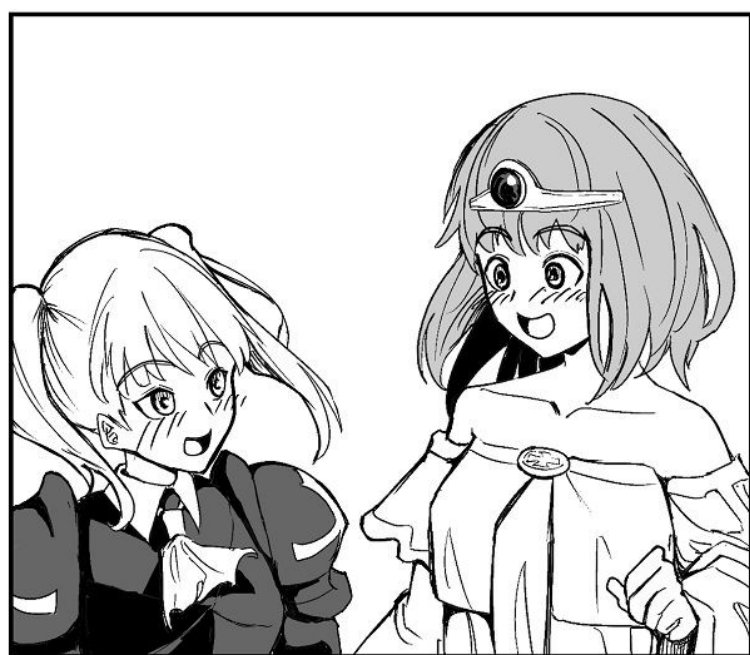
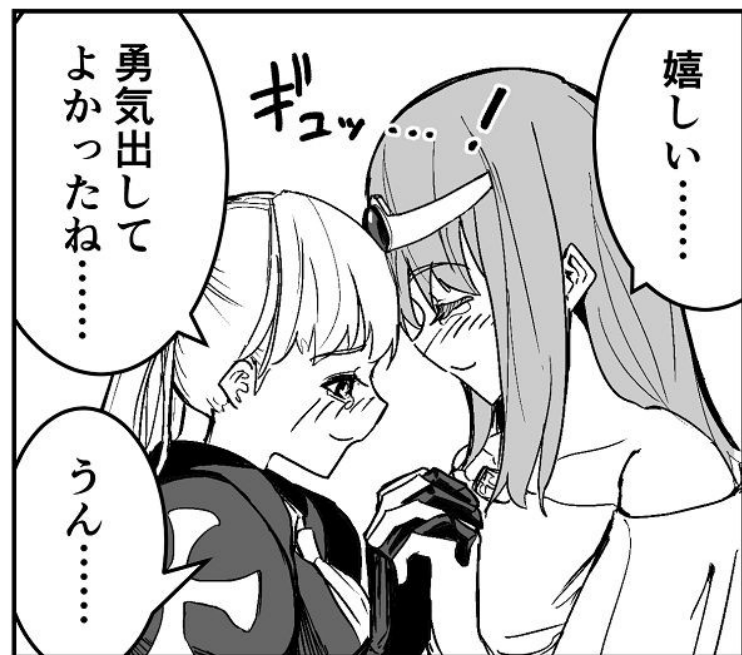
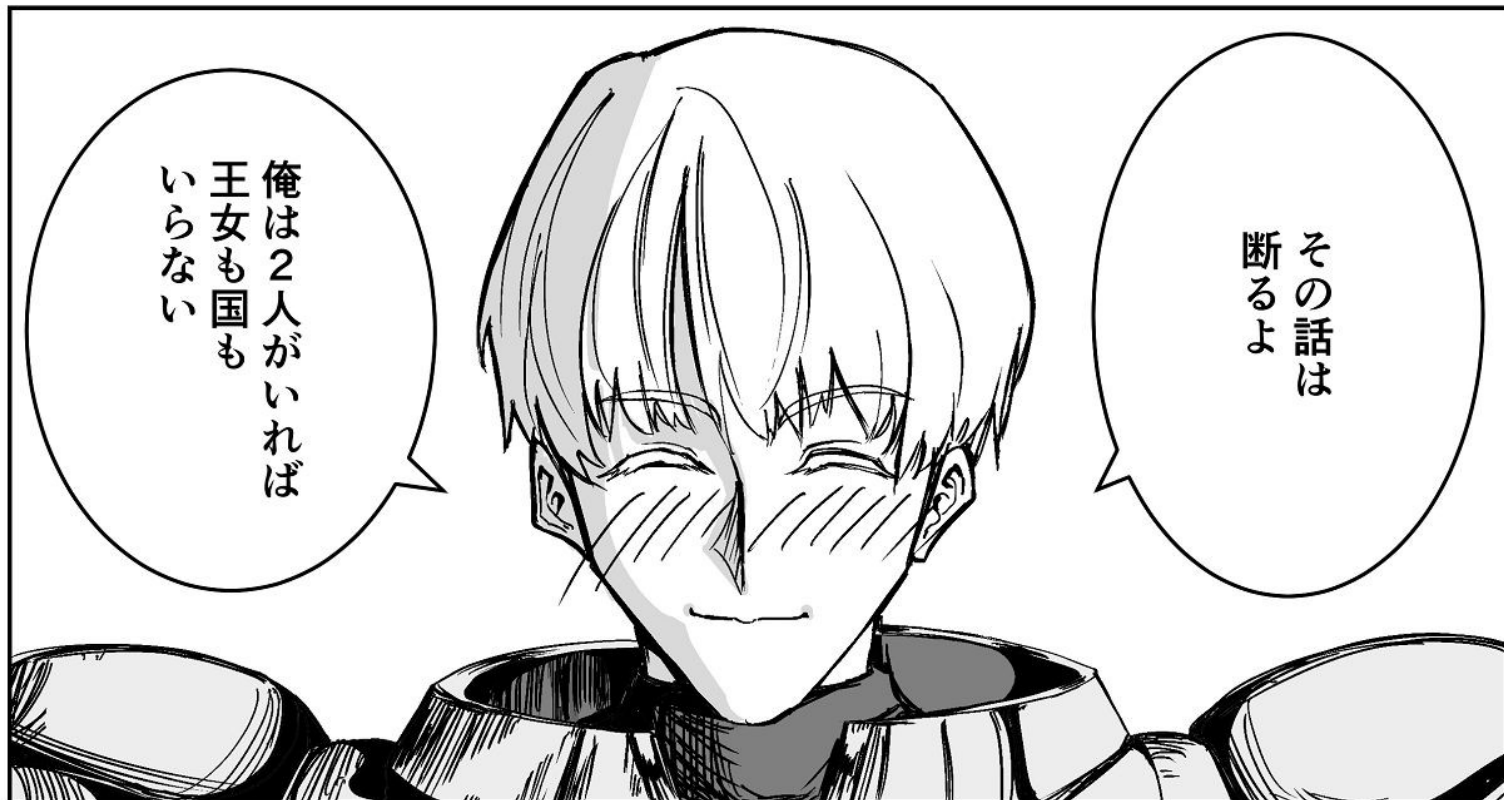


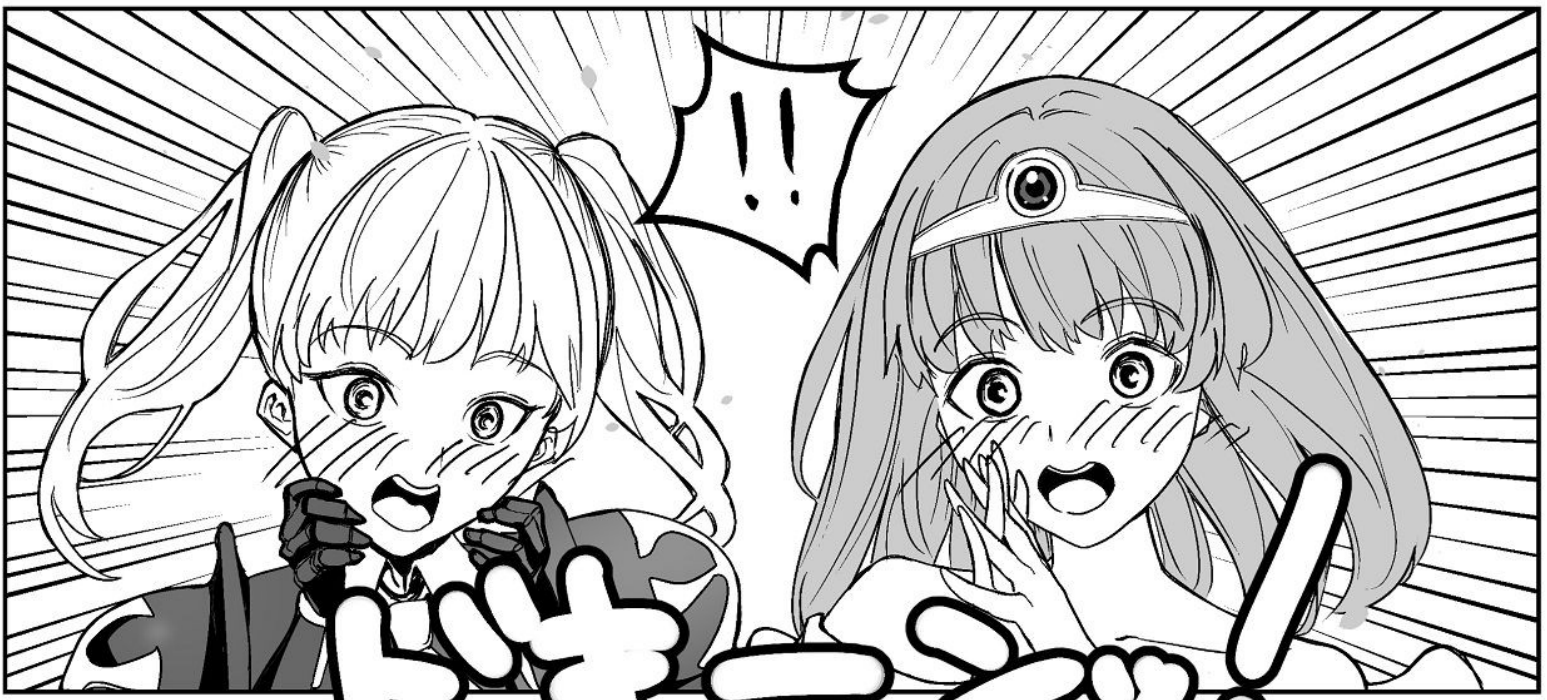
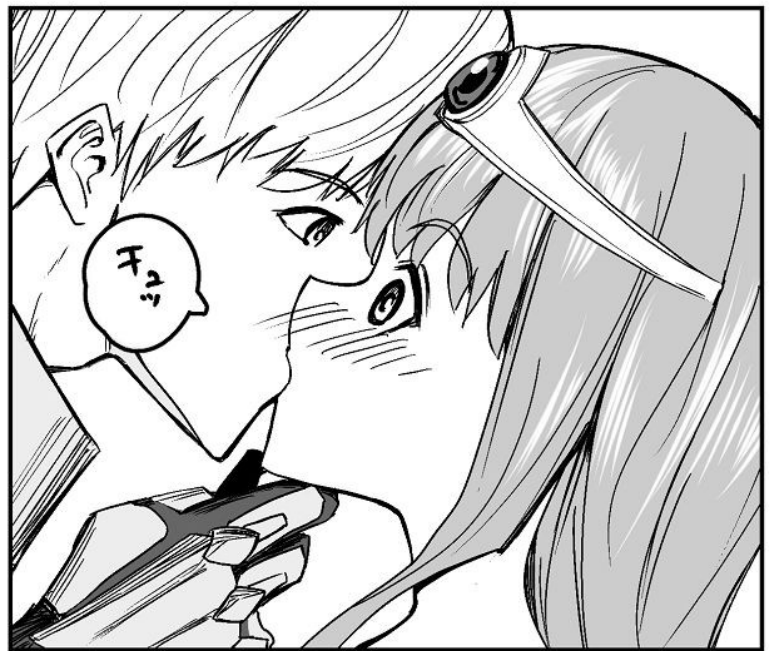
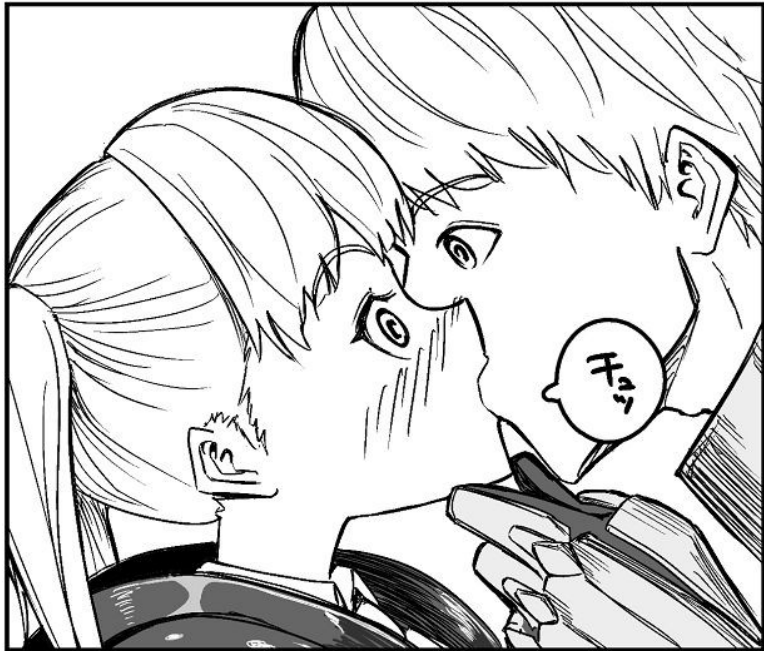
全てが終わったら、  
貴方がお姫様と  
結ばれるのは  
分かっている

ドキ

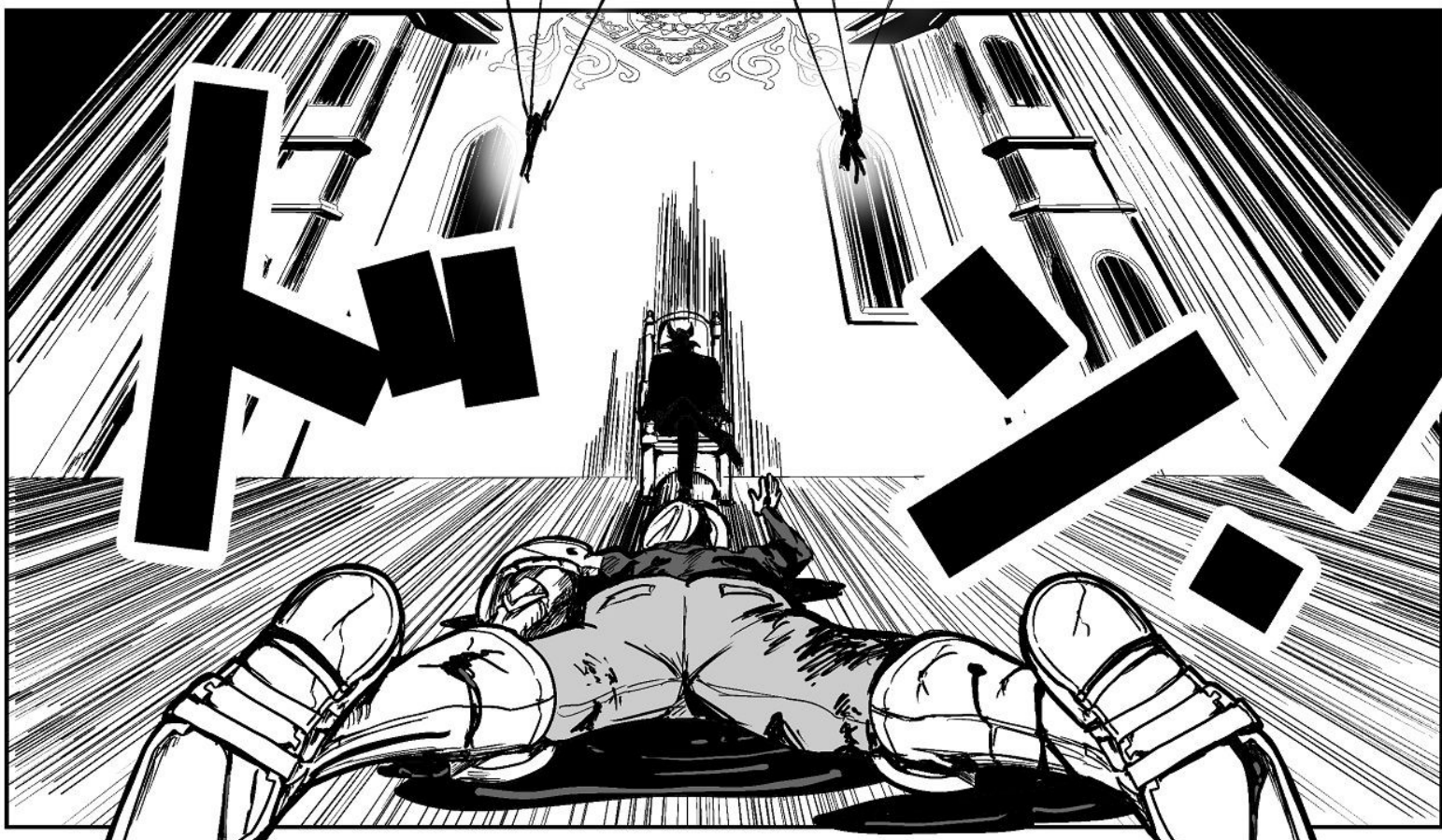
でも私たち、  
自分の気持ちだけは  
伝えたかったの







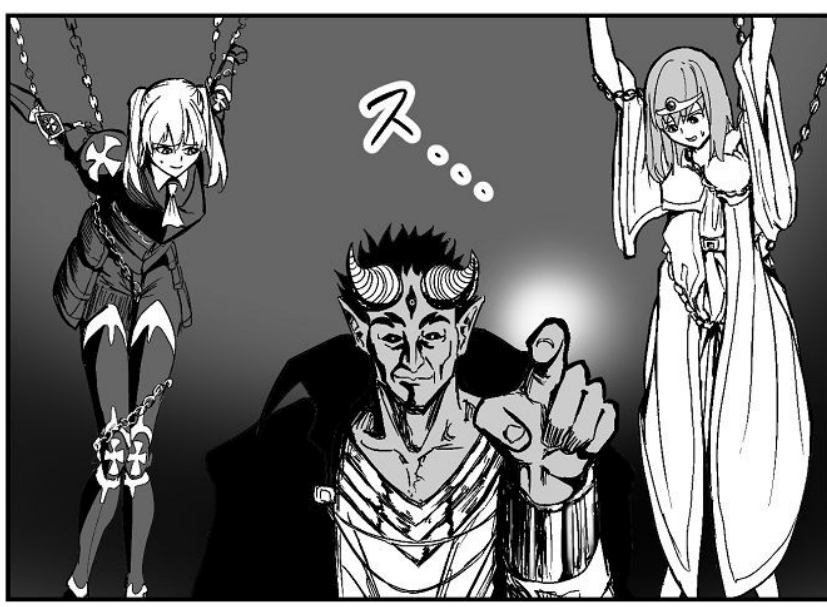


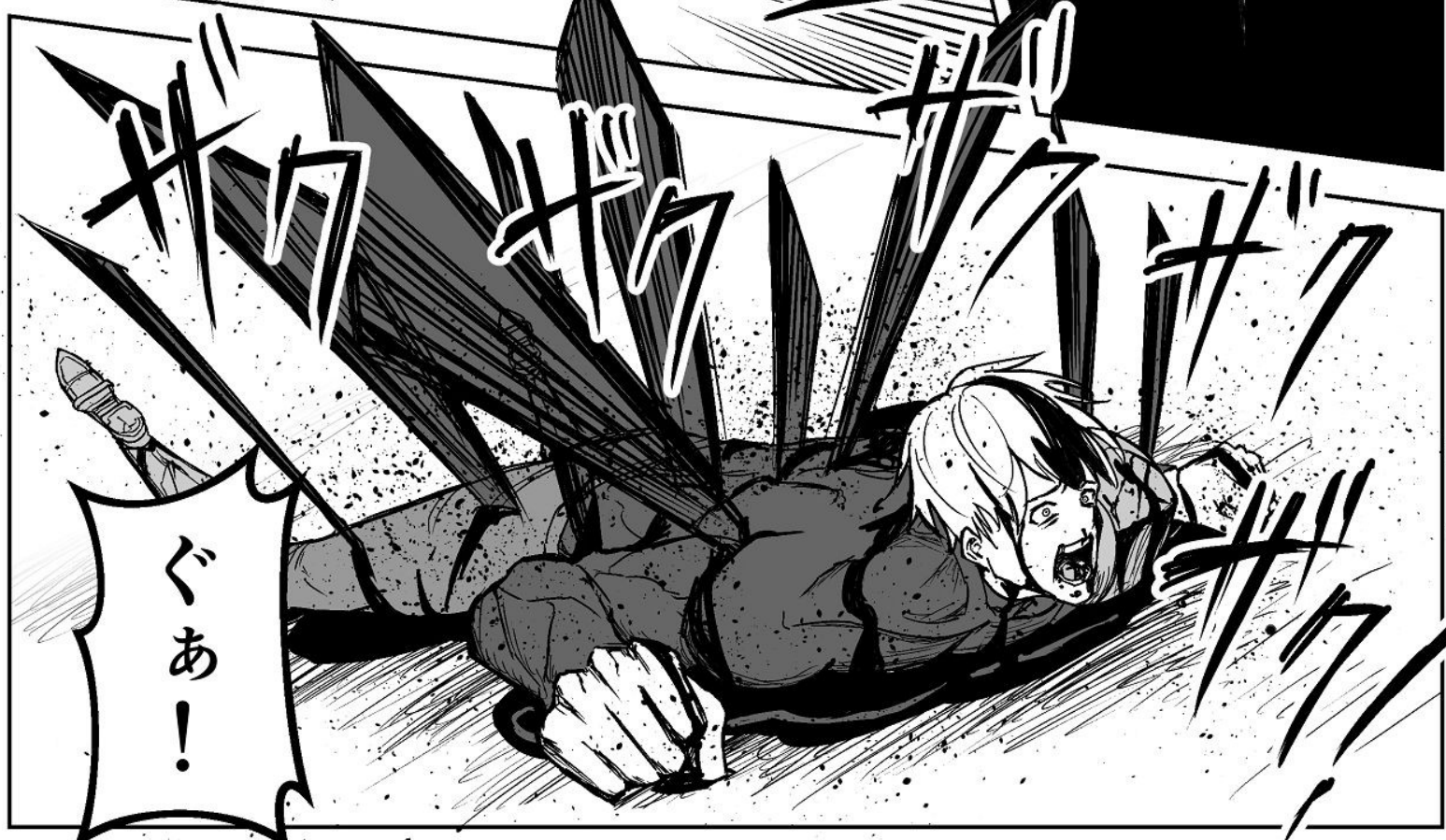


取るに  
足らんな……

こんなものか  
今代の勇者は

魔王  
レベル99





魔族の生態に ついてだ

うう...

さて

一つ講義を してやろう

アレックス！



魔族は  
人間のメスと  
交わらねば  
子を作れんのだ

つまり  
生殖本能は  
人間のオスと  
同じ

それがお前ら  
人間がまだ  
滅んでいない  
理由だ

お前らはメスが  
魔族の子を  
孕むためだけに  
生かされている



どういう意味か  
分かるか？

ビクッ!  
……!



舌を噛んで  
今すぐ死ぬわ！

そんなことにな  
るくらいなら



嫌よっ！

魔族とまぐわう  
なんて  
想像しただけで  
吐き気がする！



くつくつく



いいぞ  
その気丈さ

部下が献上  
してくる  
女どもとは  
モノが違うわ

そそそぞ



従わねば  
お前らの勇者は  
死ぬことになるぞ？

だがいいのか？



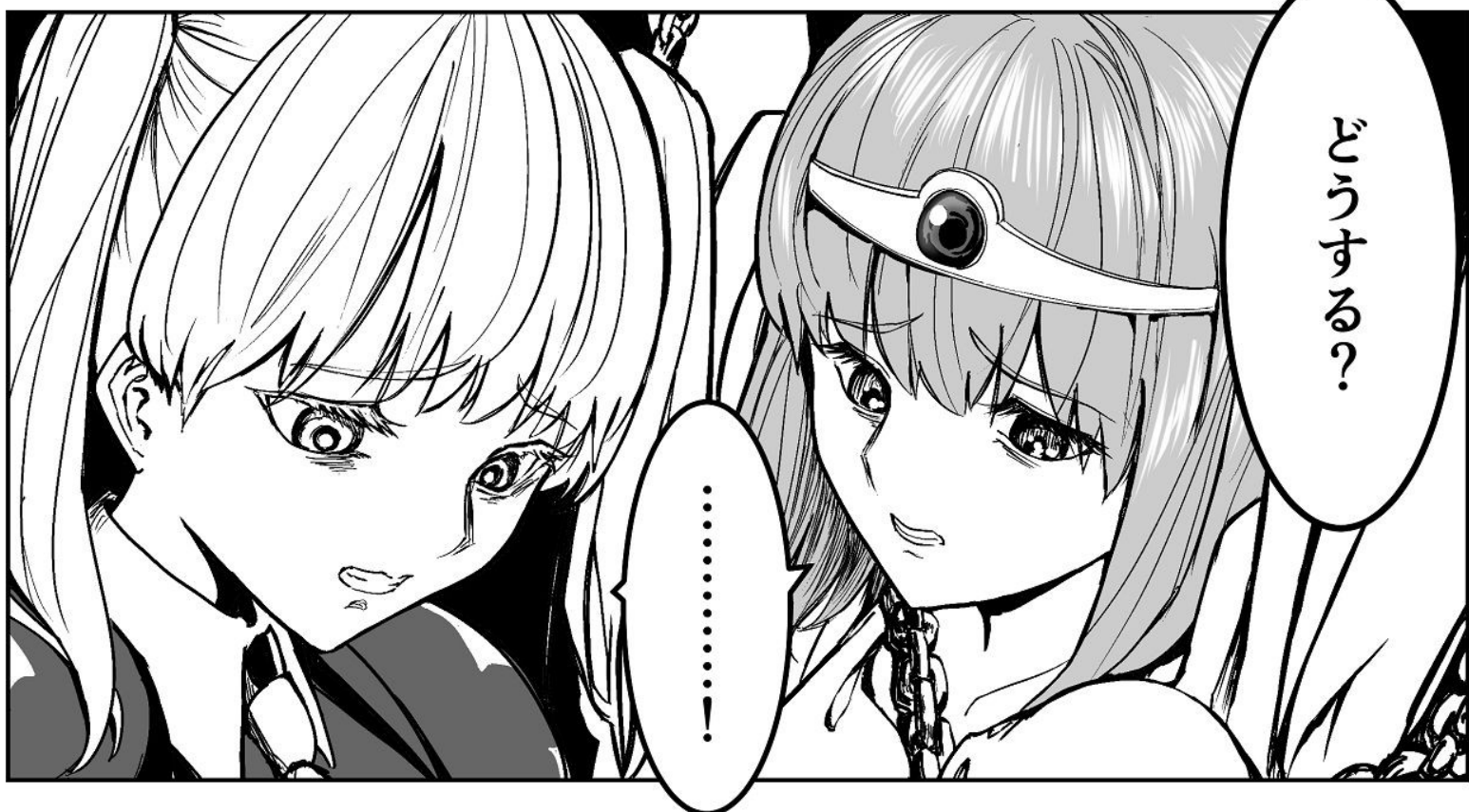
戦闘中に  
分かった

お前らは  
あの男の  
つがいだらう

うぐ…



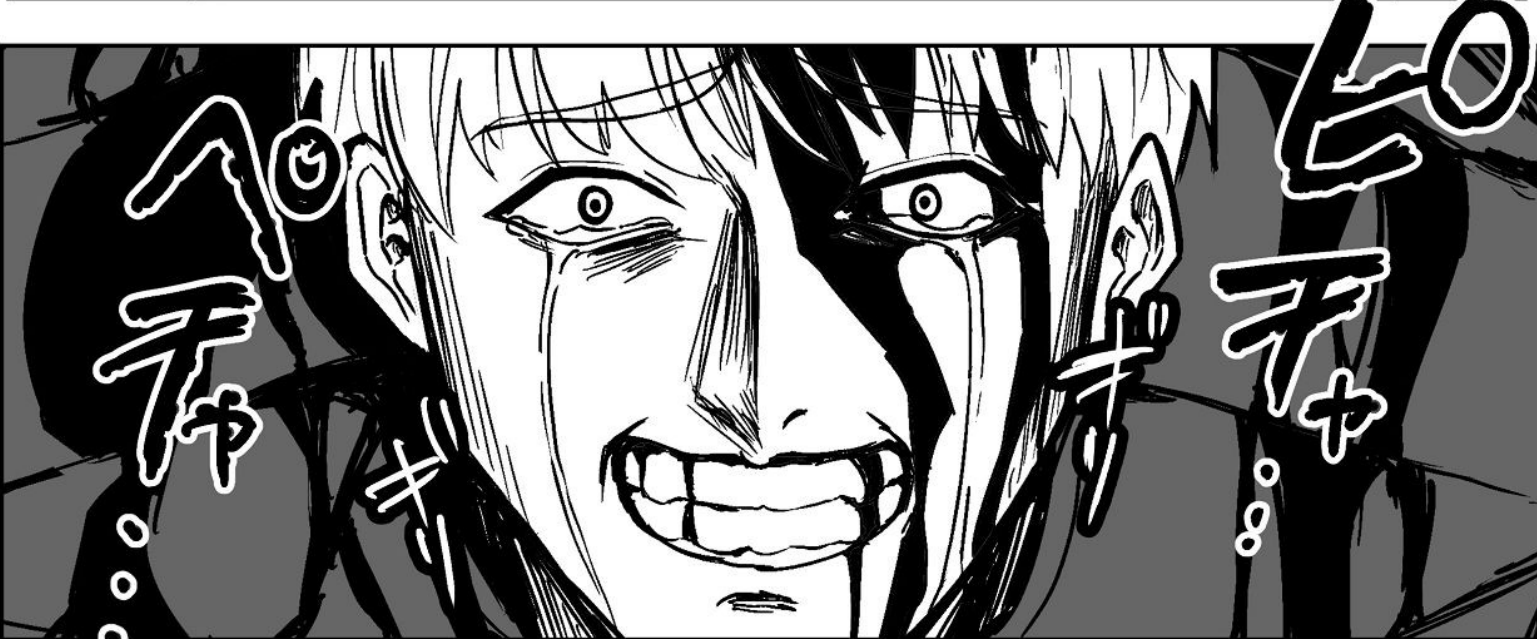
お前らが  
我に従うなら  
やつの命は  
保証しよう

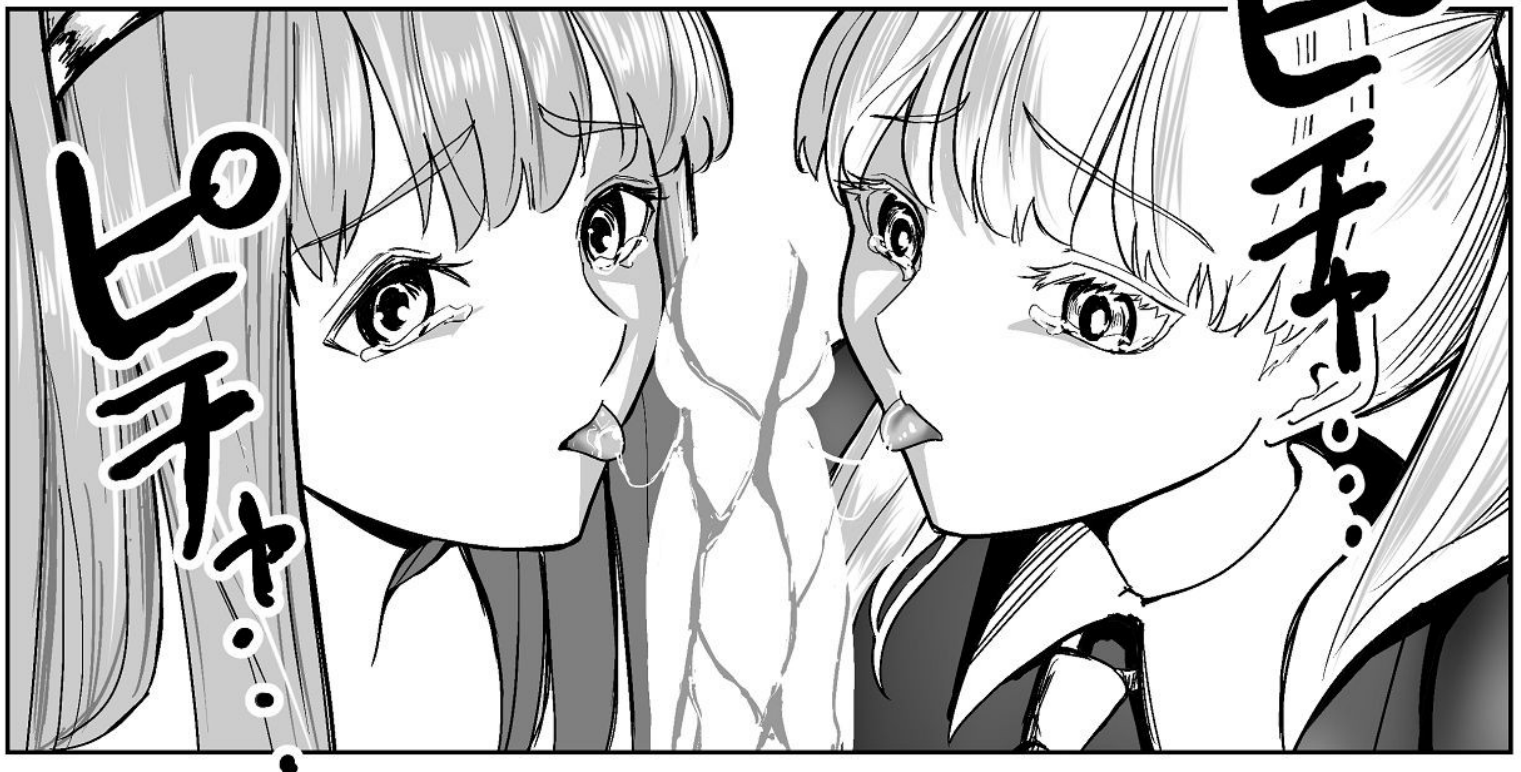


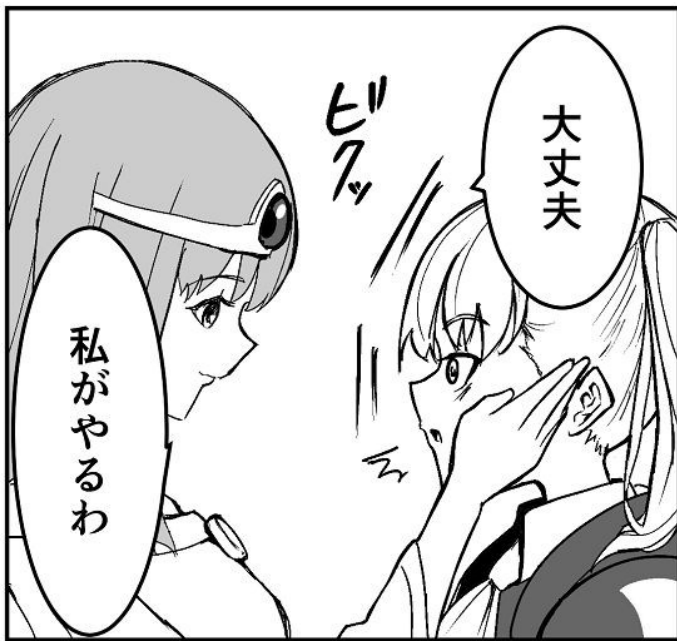
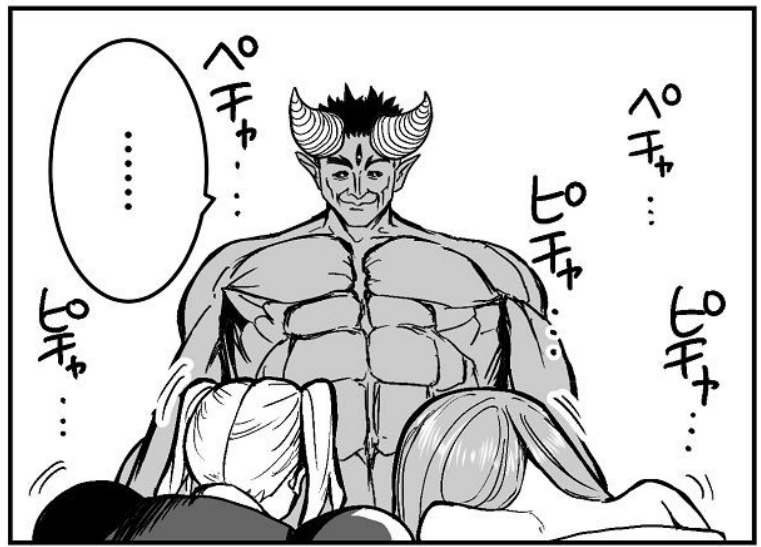
どうする？

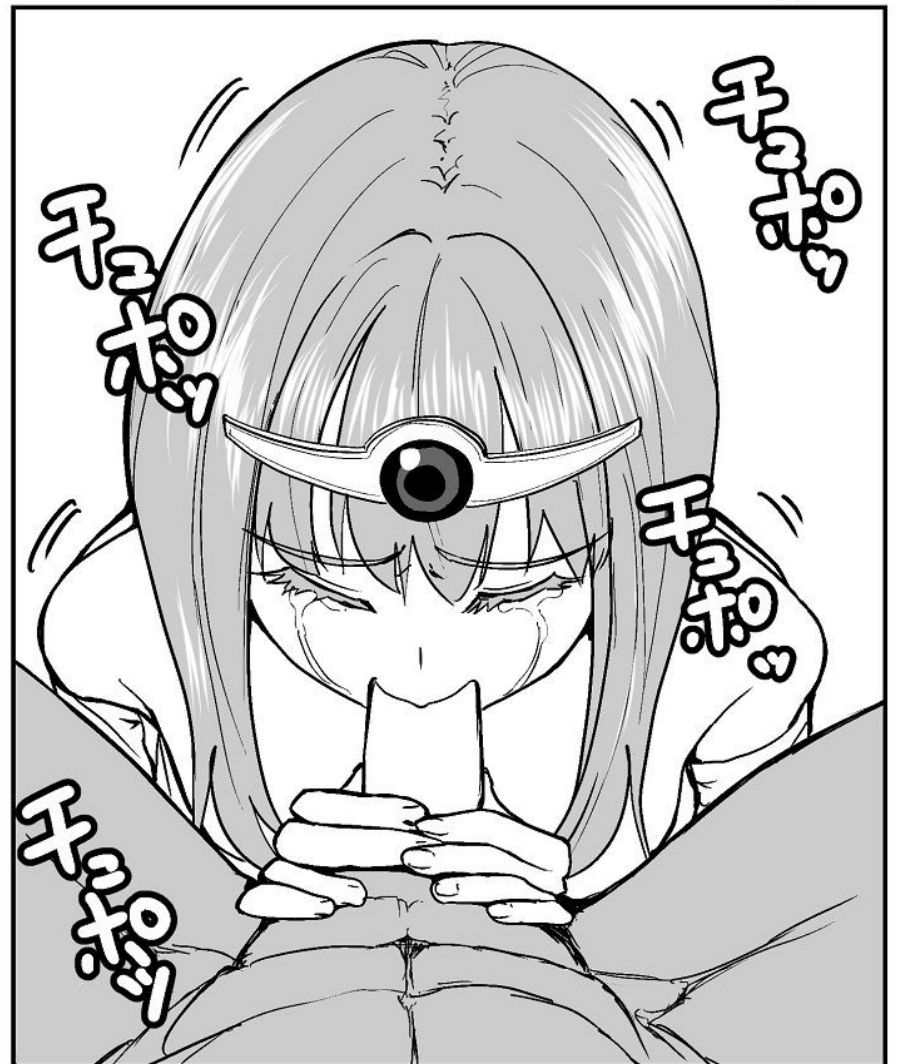
……！

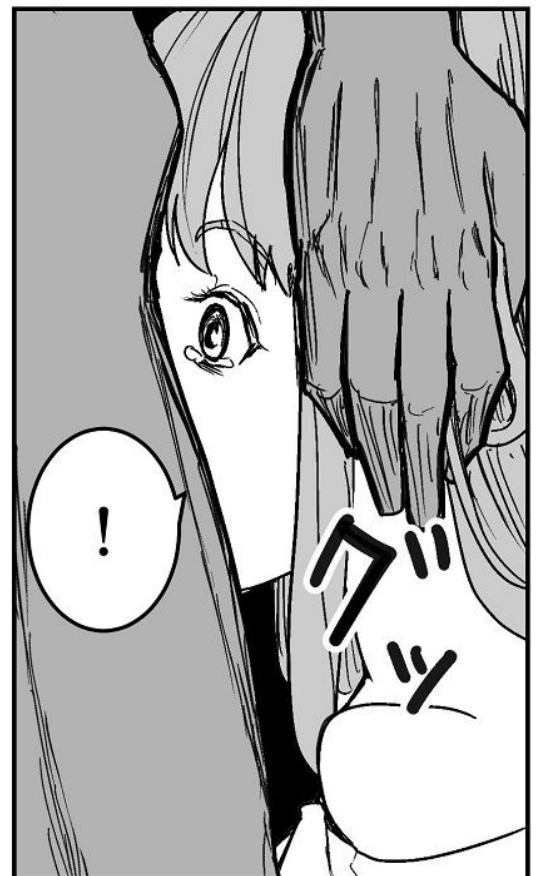
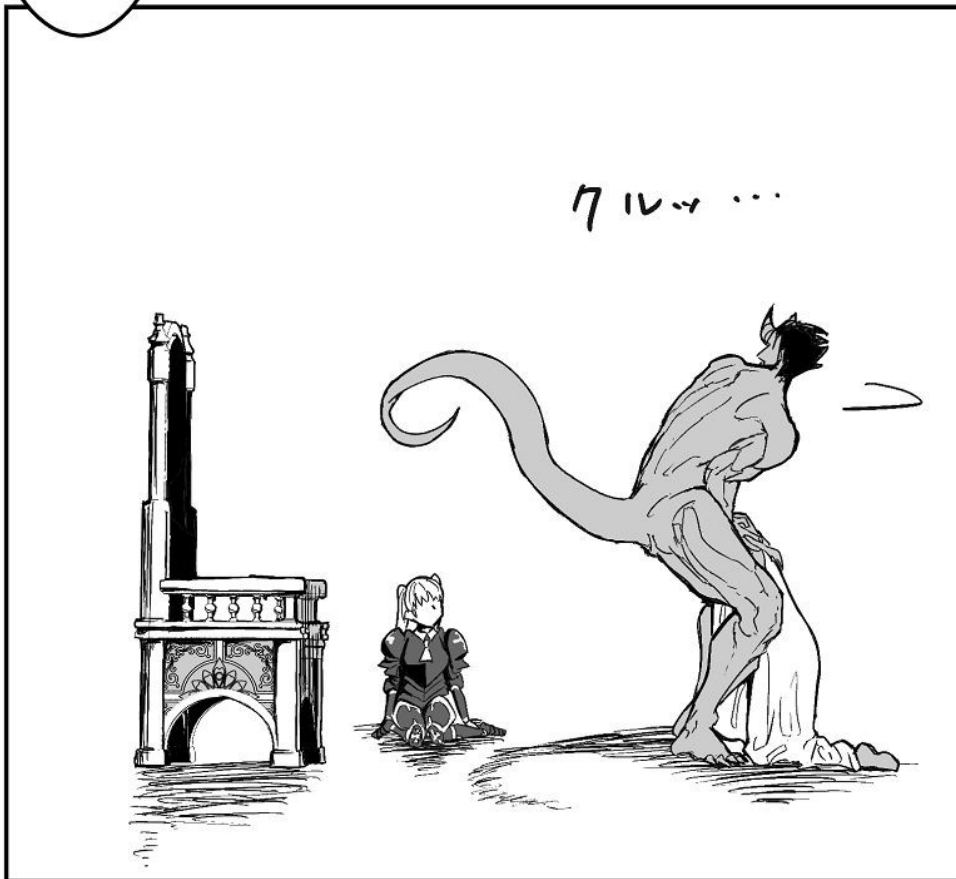
どう……  
したらいいの？

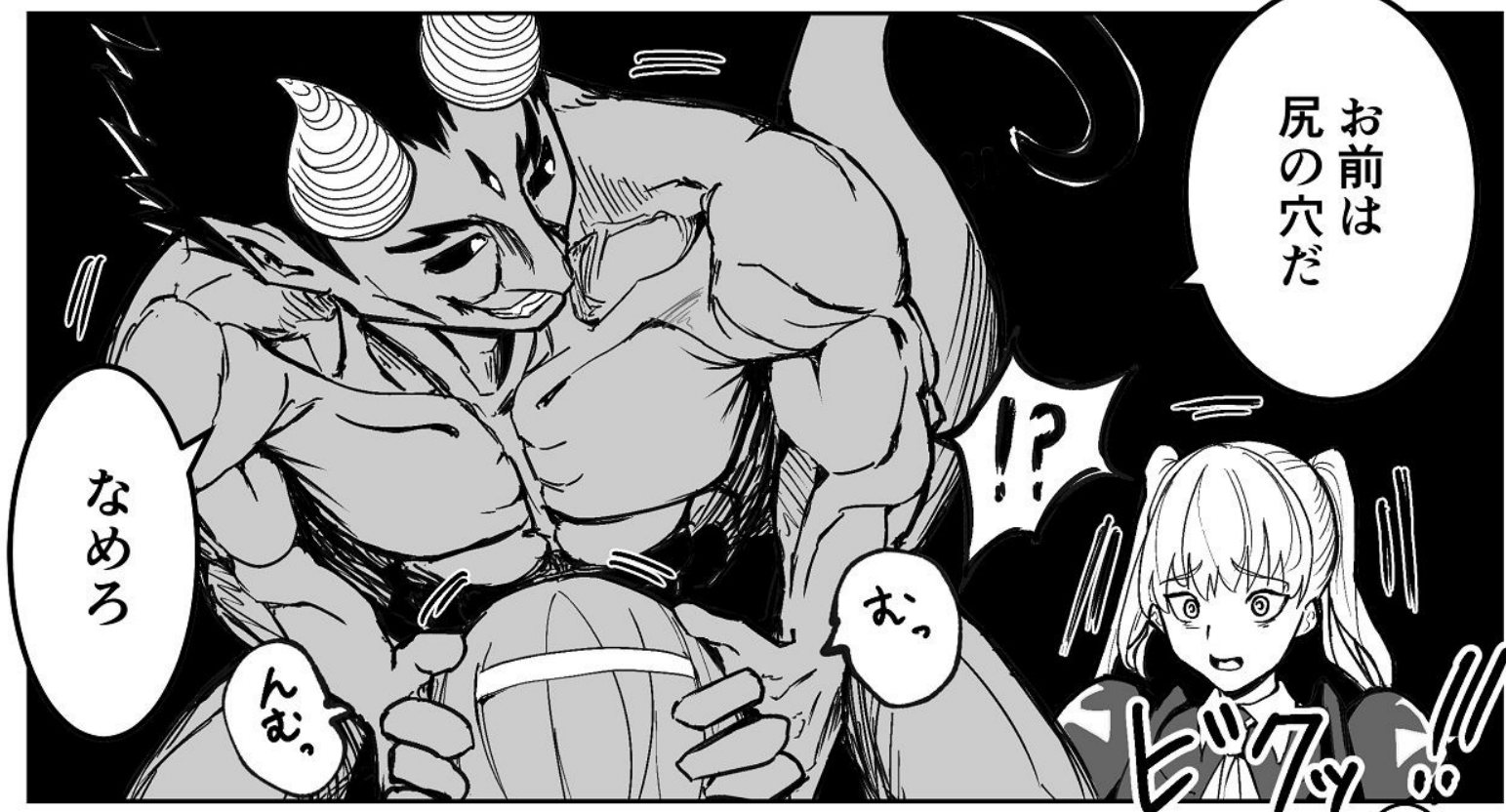












お前は  
尻の穴だ

なめろ

んむ。

むっ

!?

ヒョウウ



5

やらなきや  
アレックスが  
死んじゃう!

4

アレックスの  
ため……!

3

ハッ!



5秒以内だ

でなければ  
勇者を殺す

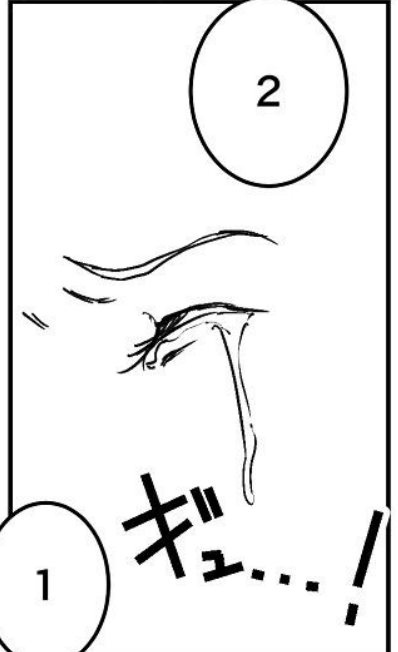
ムリッ

ムリッ

ひ



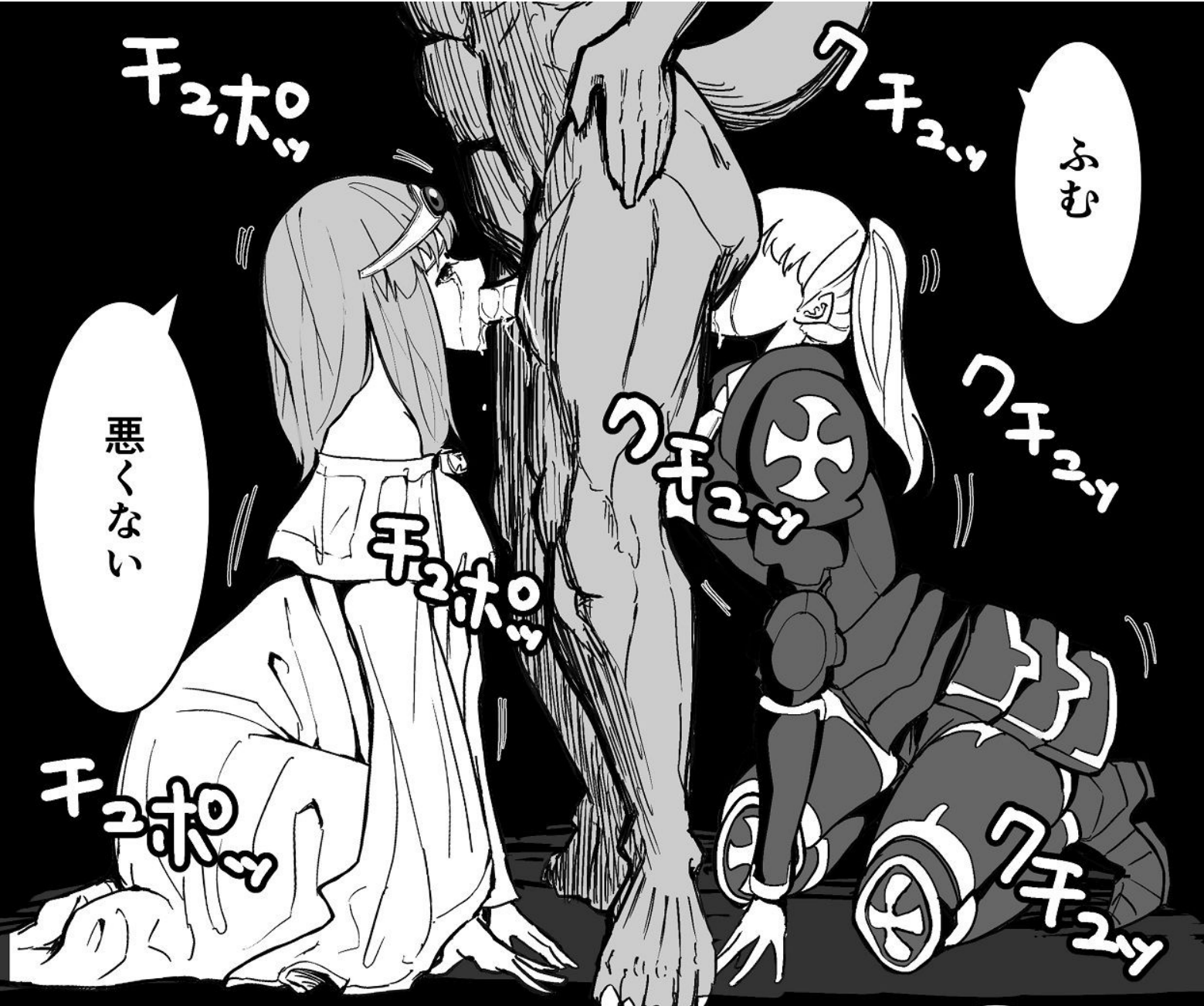
ソ...



2

キェ……!

1



ふむ

悪くない

フツッ

フツッ

フツッ

フツッ

フツッ

フツッ

フツッ



お前の女達は  
なかなか  
いいぞ

フツッ

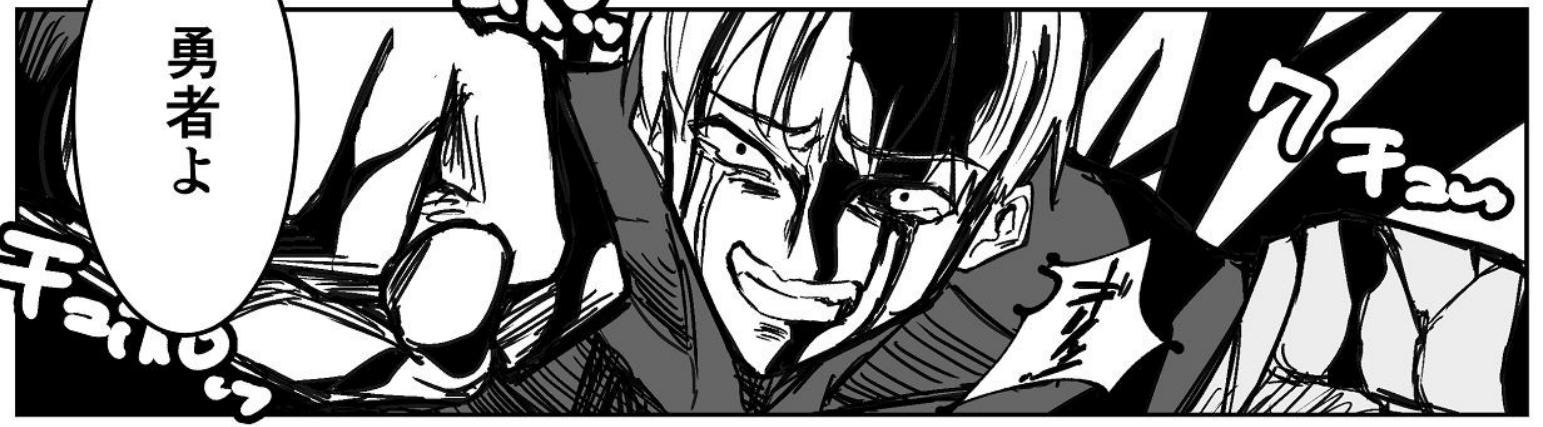
フツッ

フツッ

フツッ

フツッ

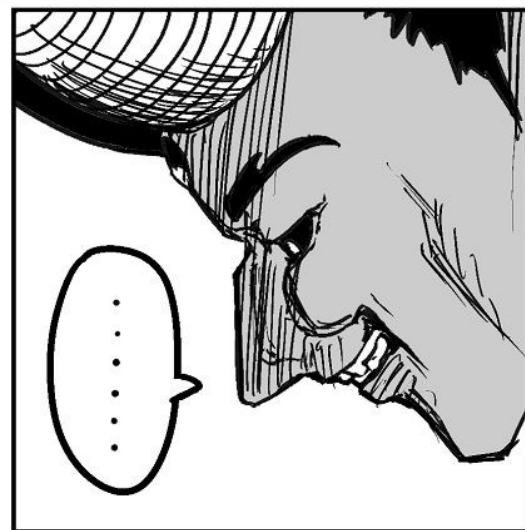
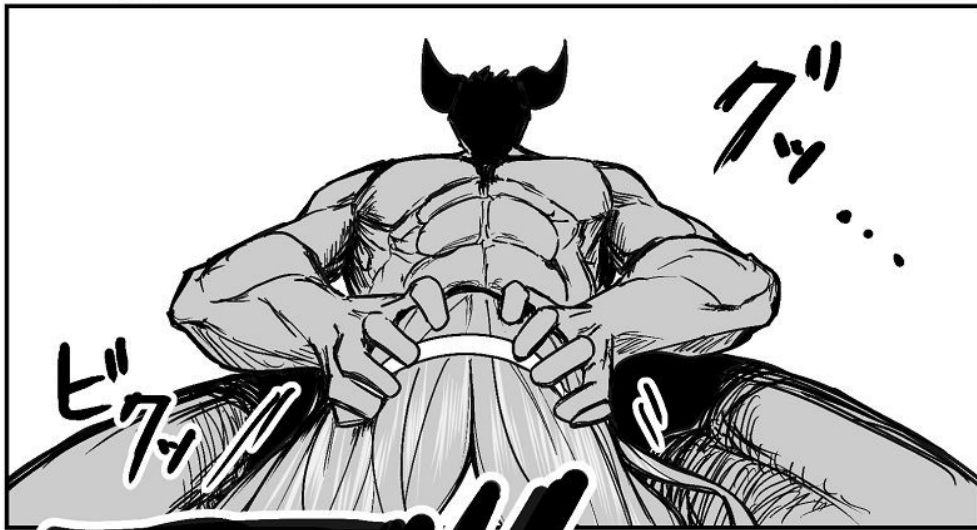
フツッ



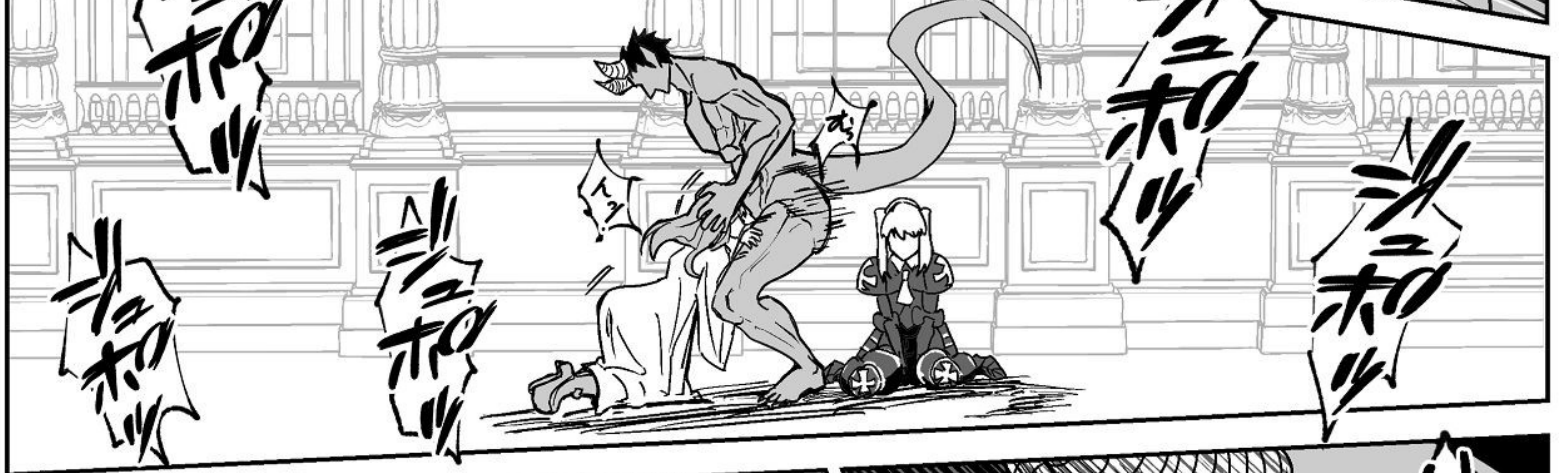
勇者よ

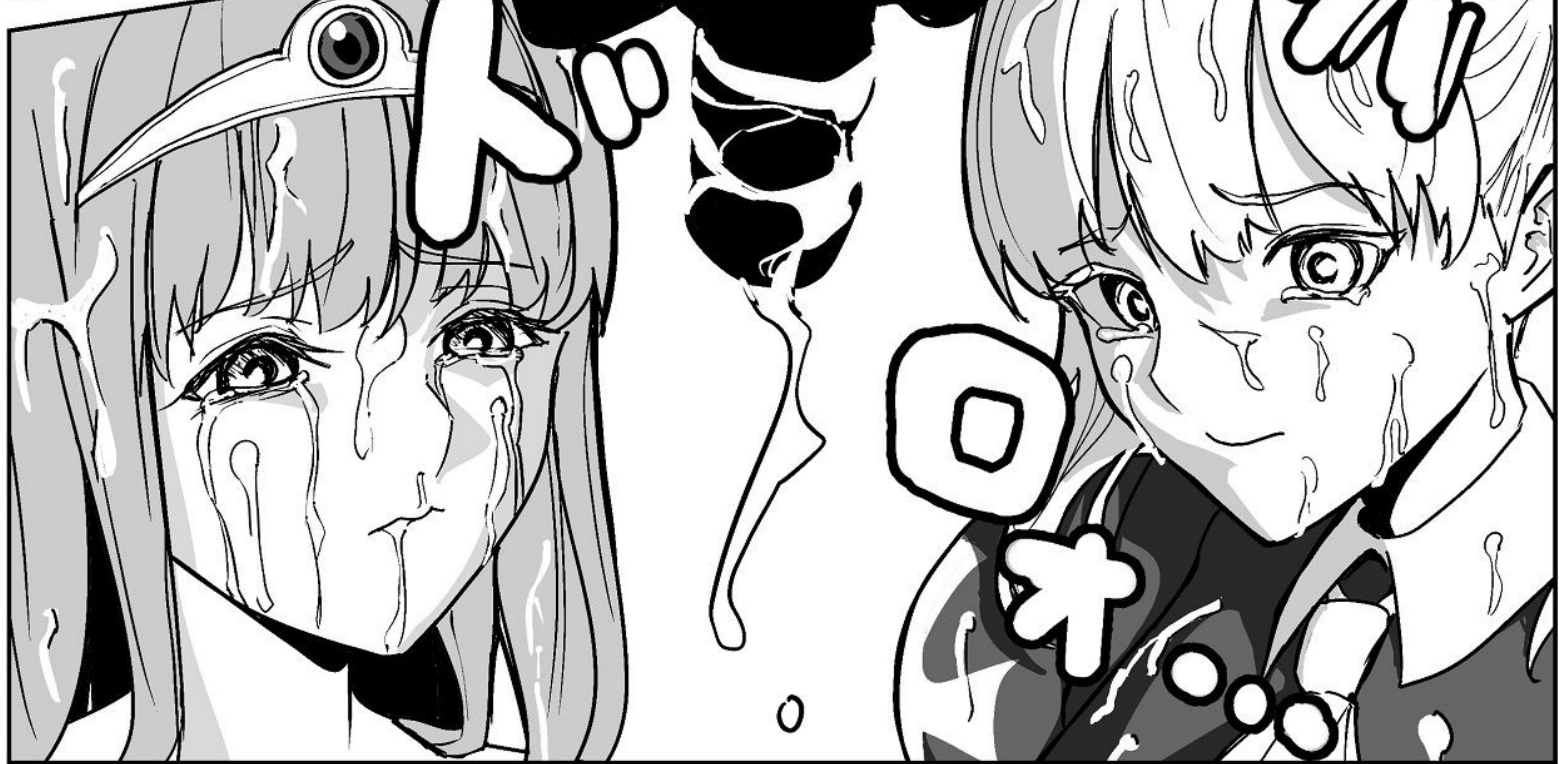
フツッ

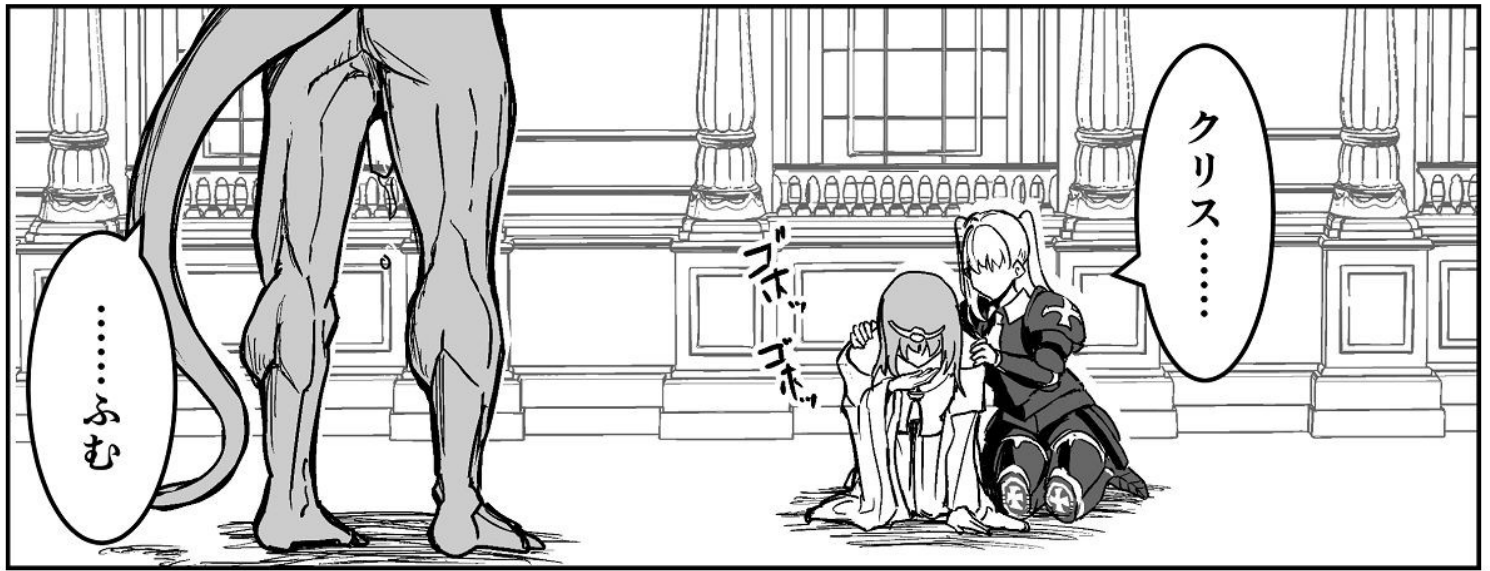
フツッ











クリス……

ゴッゴッ

.....



キッ!!

イ



なかなか  
良かったぞ

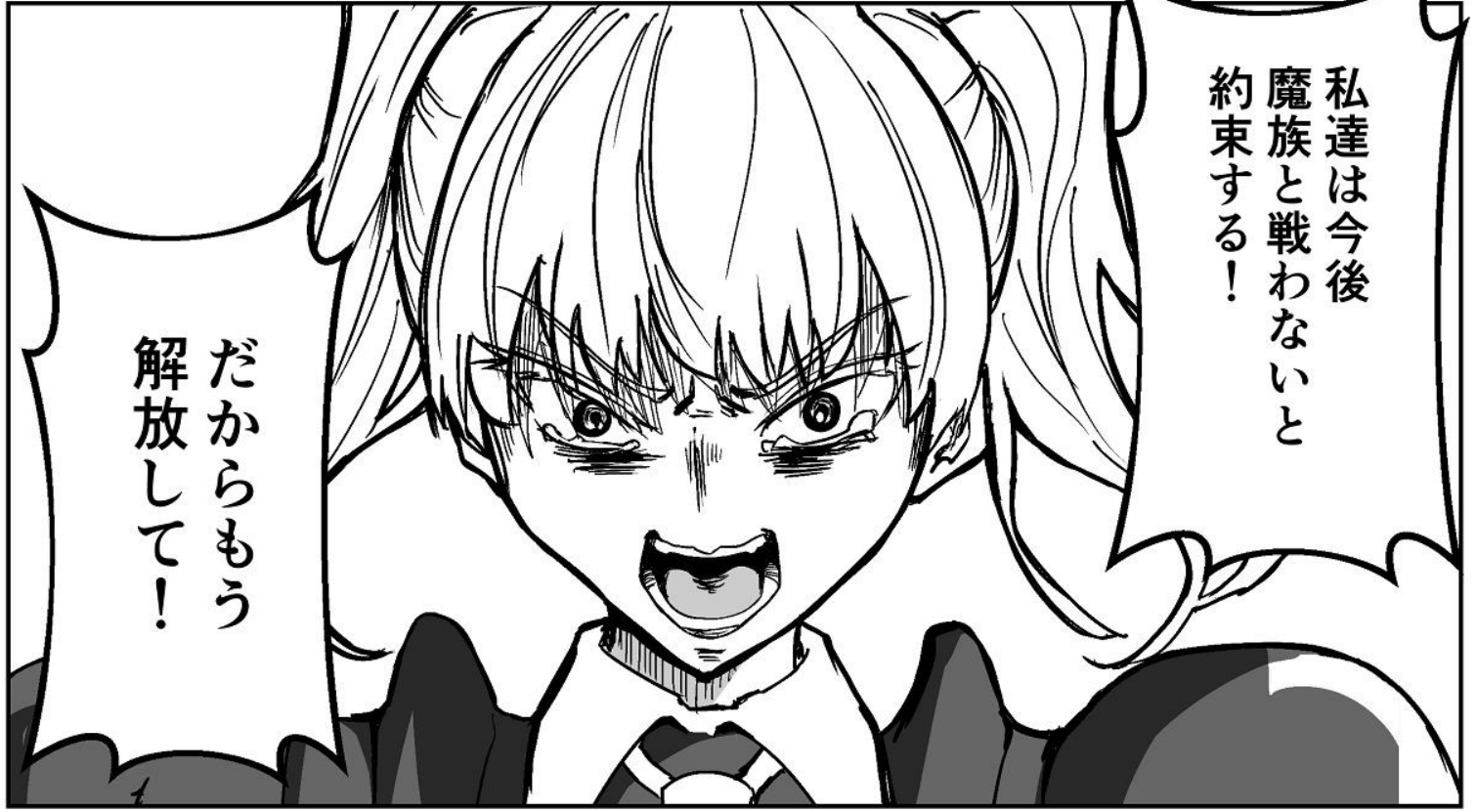
ニヤッ

何か褒美を  
やっても  
よいくらいだ



だったら早く  
アレックスを  
放しなさいよ!

もう満足  
でしょう!?

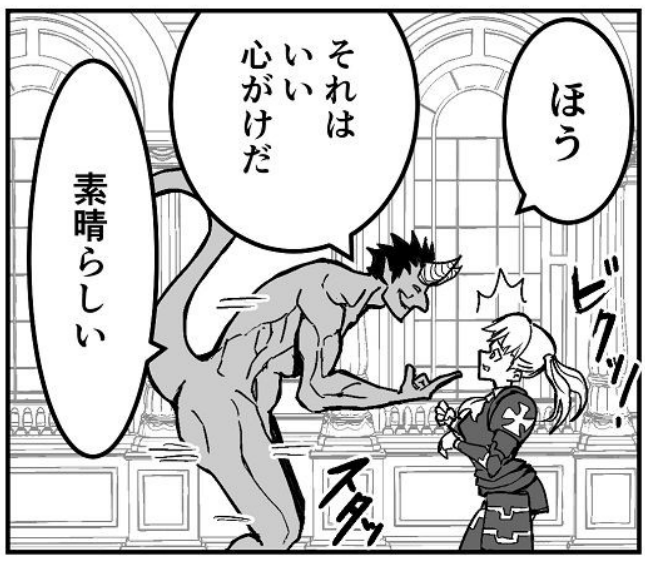


私達は今後  
魔族と戦わないと  
約束する！

だからもう  
解放して！



だが――



それは  
いい  
心がけだ

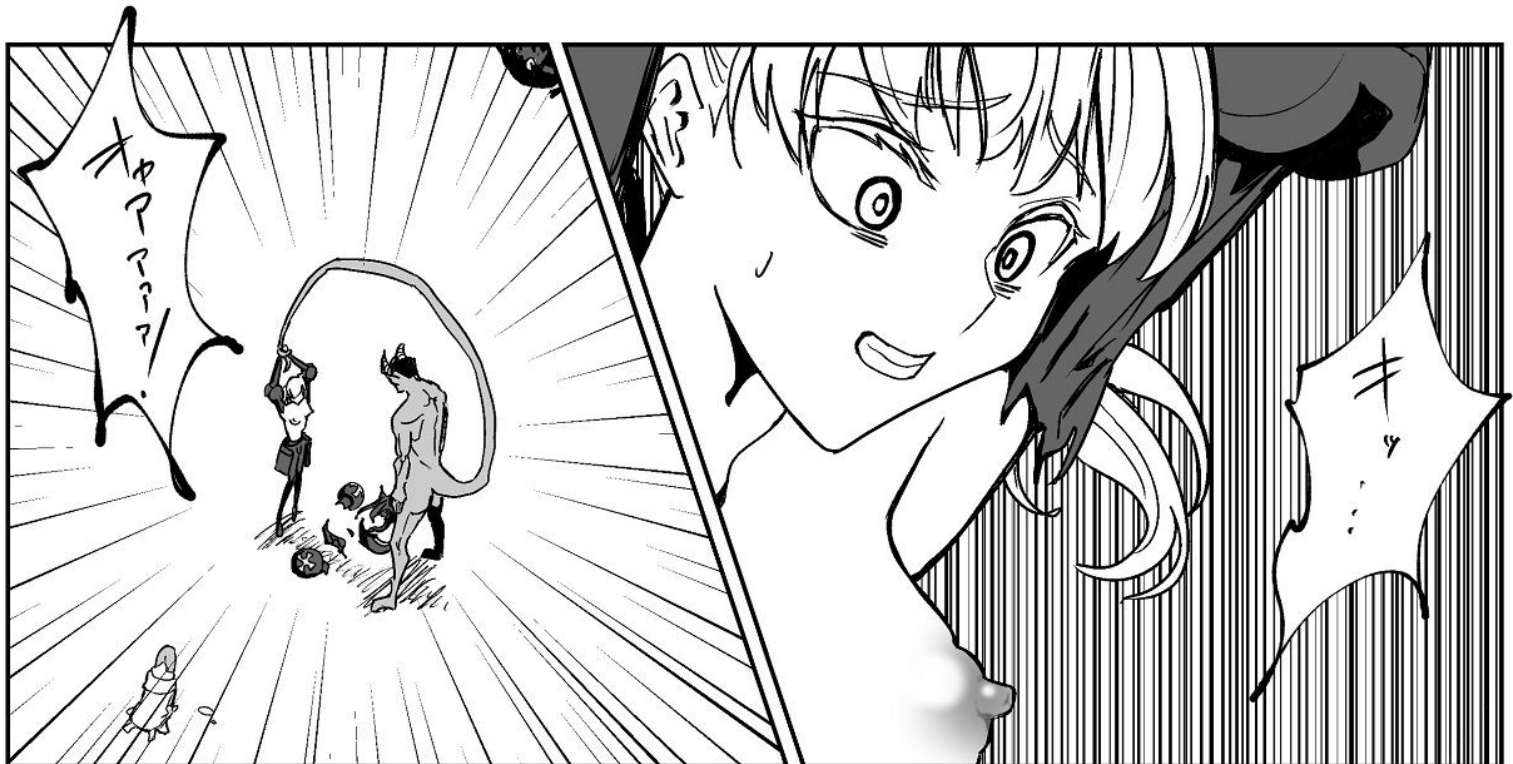
素晴らしい

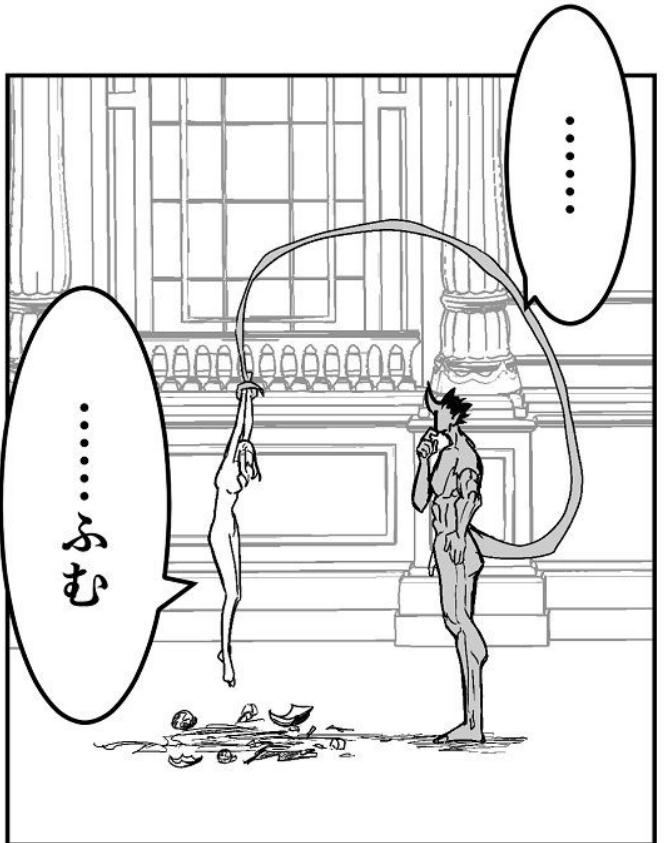
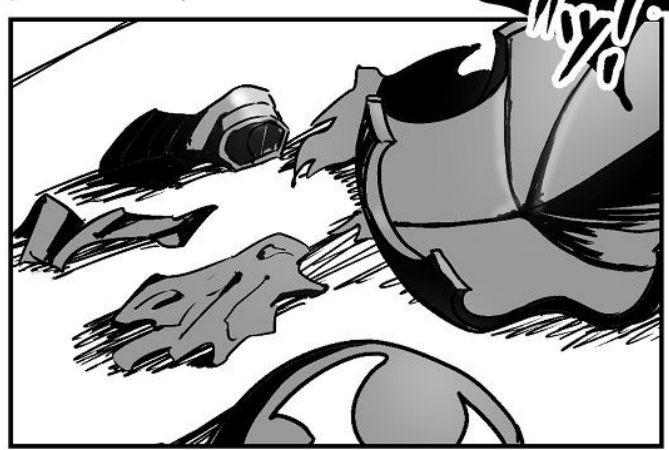
ほう

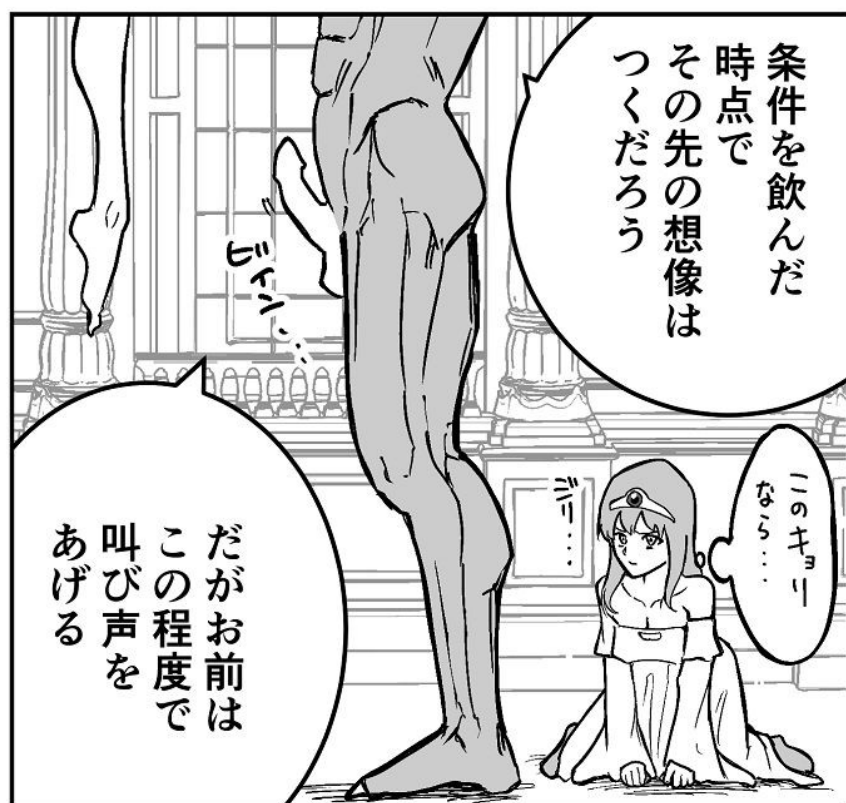


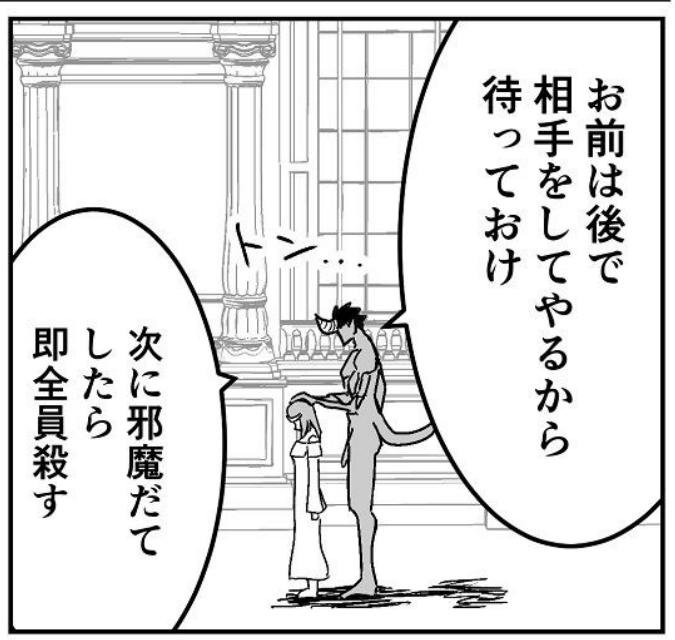
……



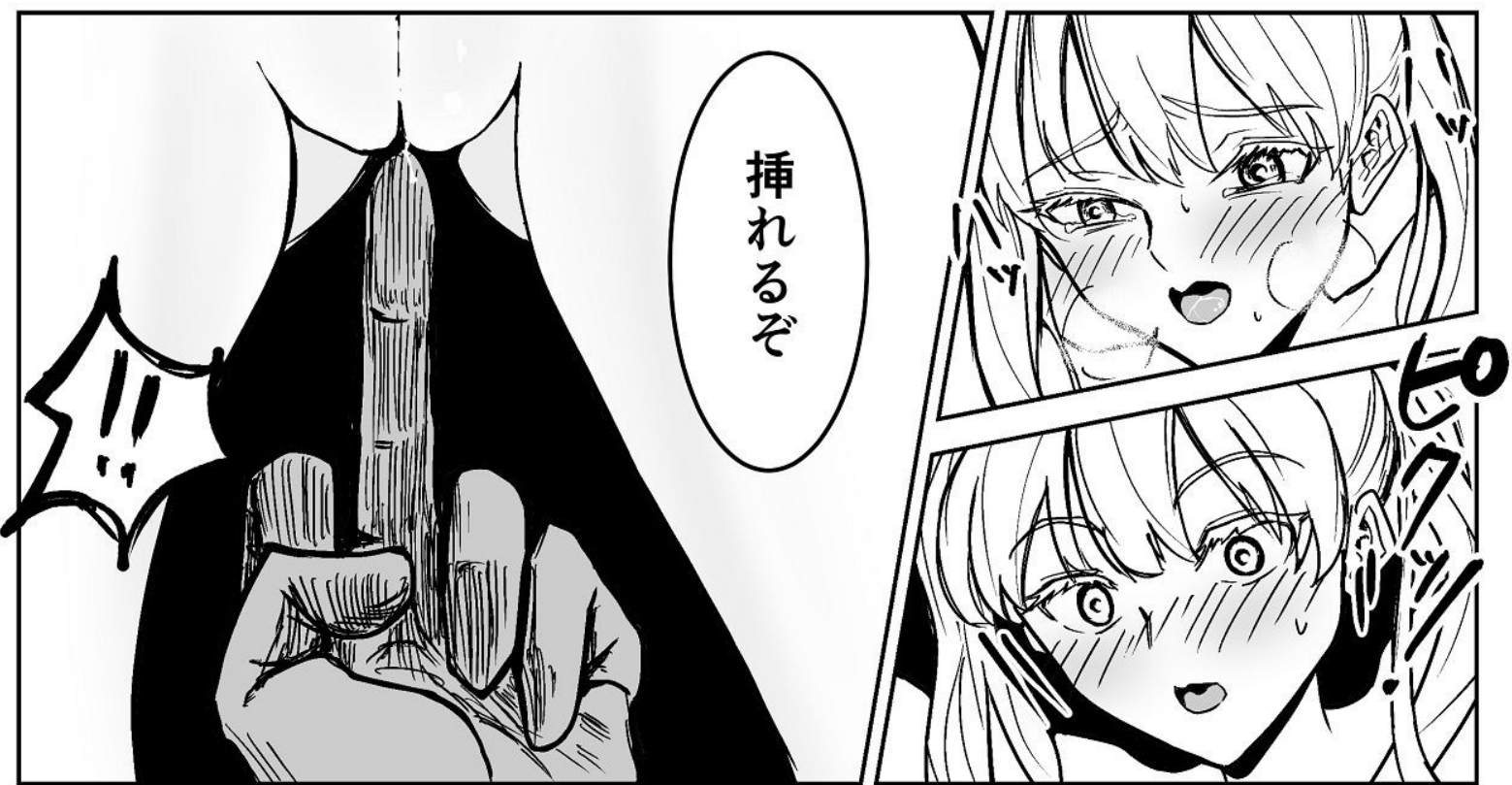
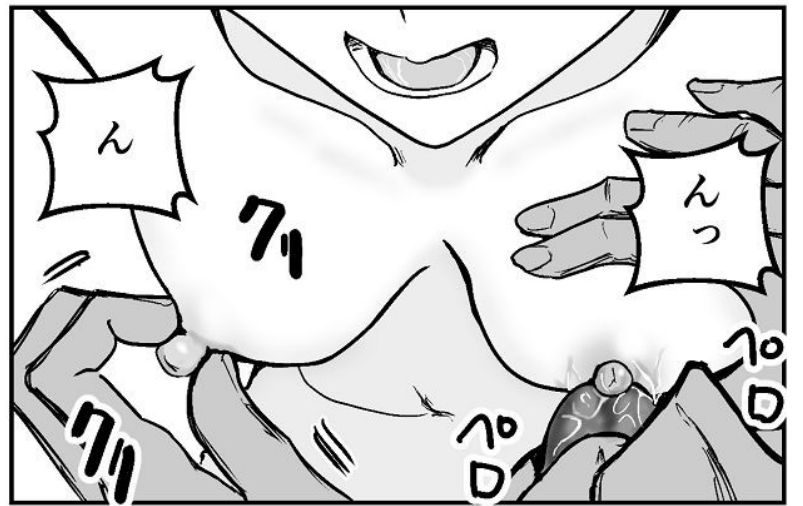
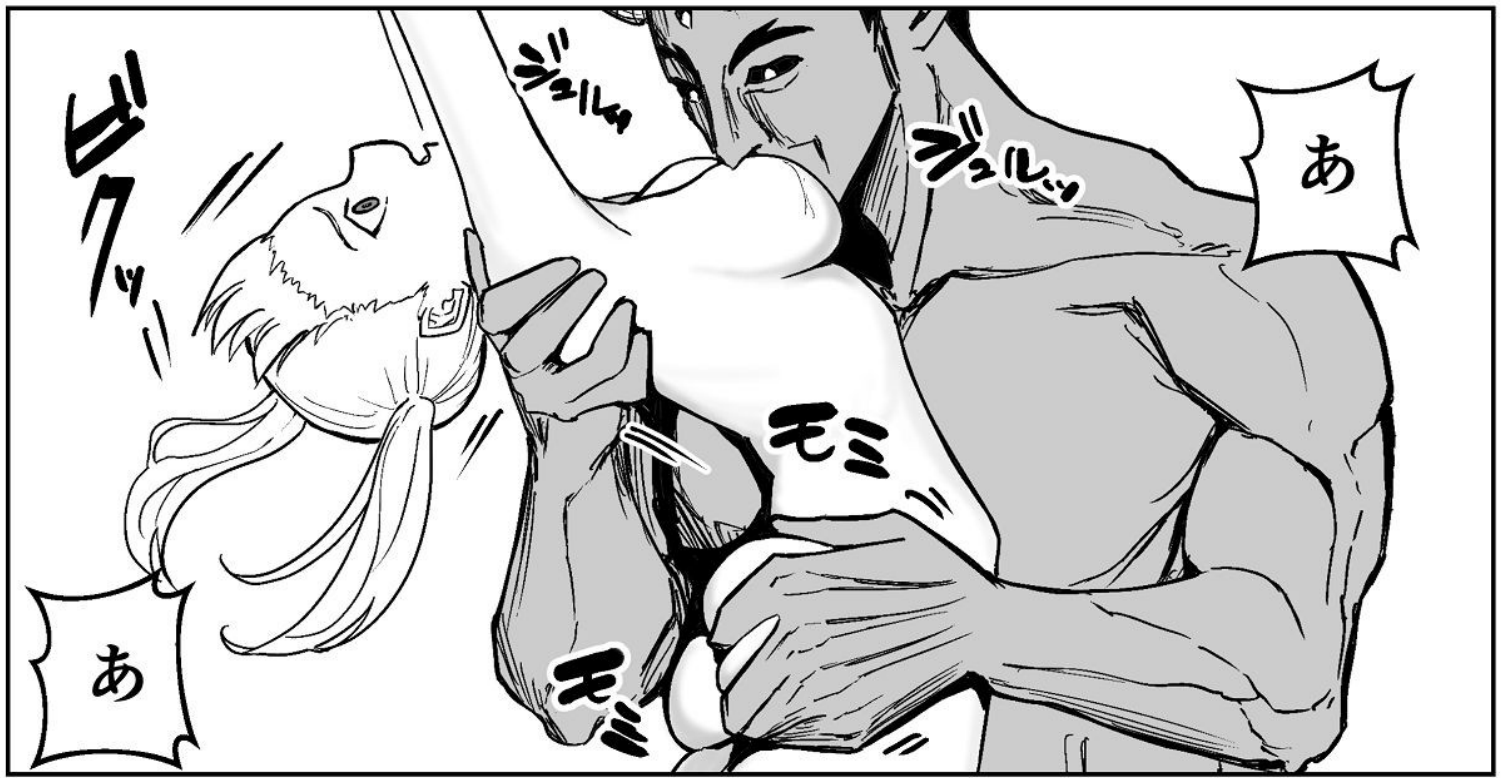


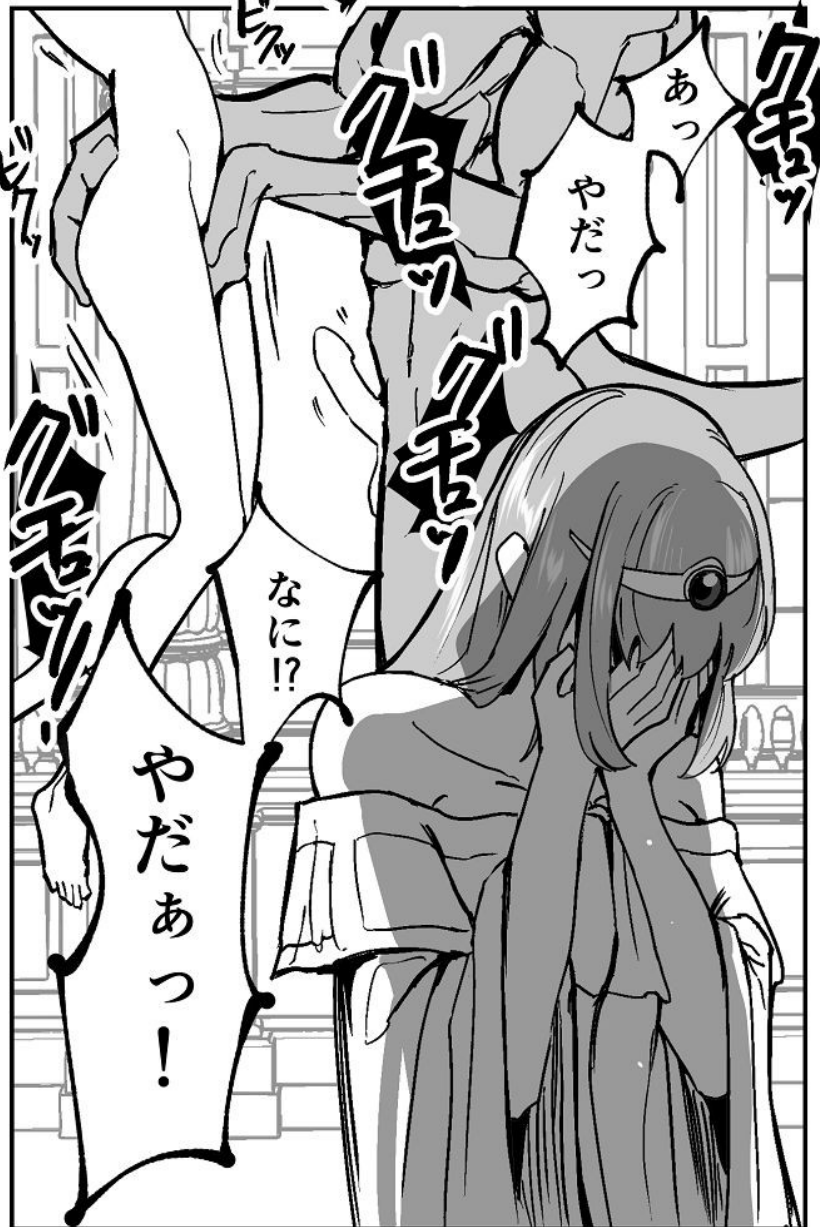
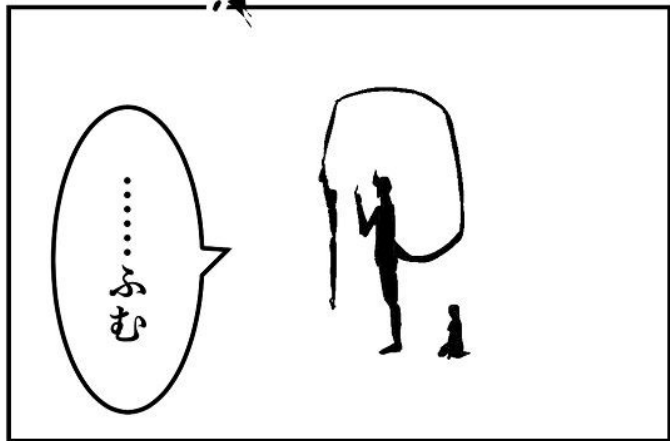


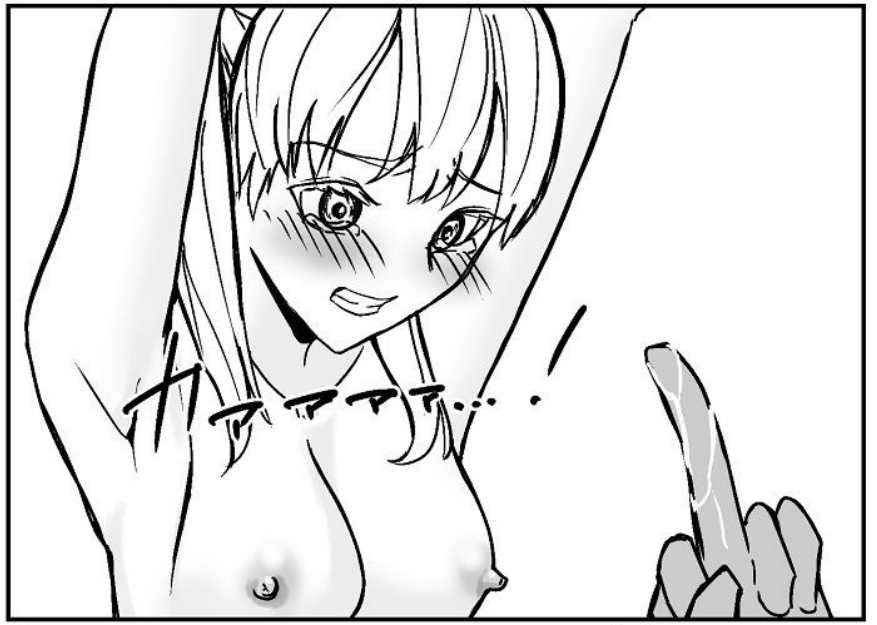








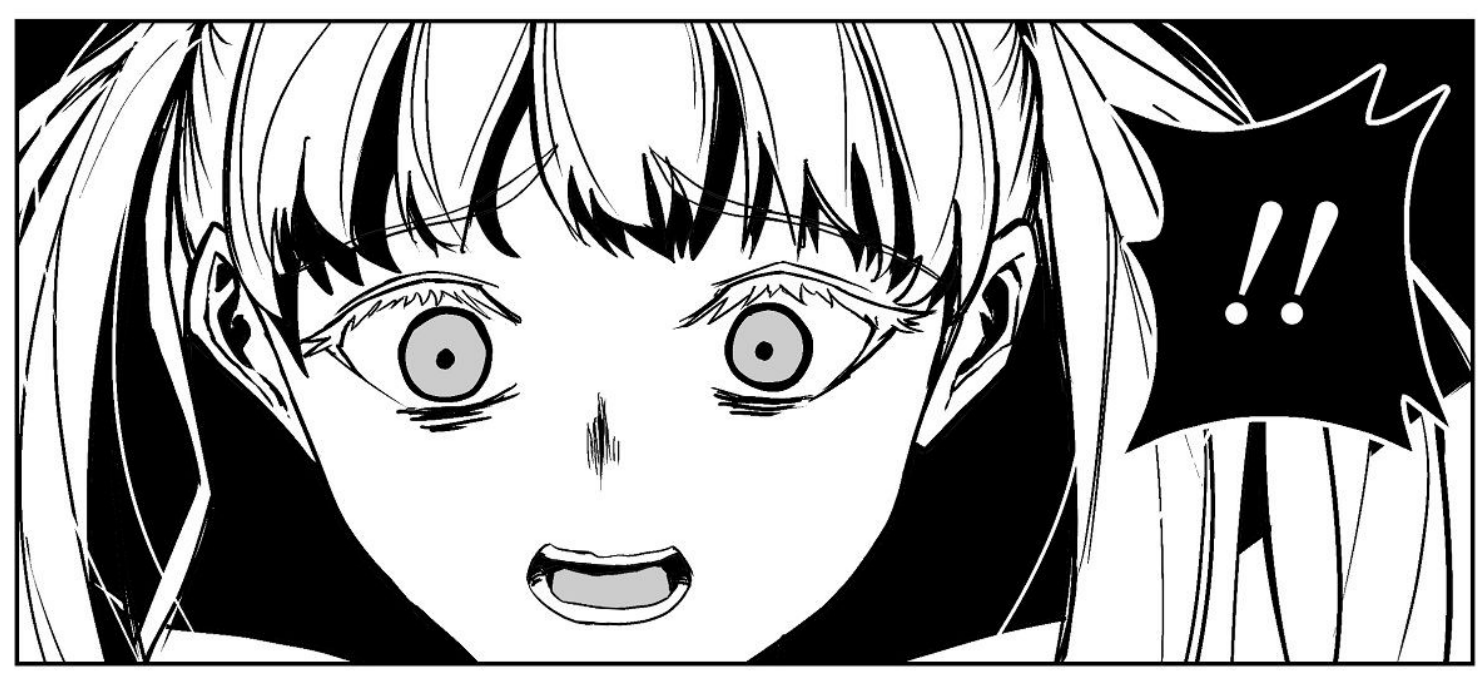




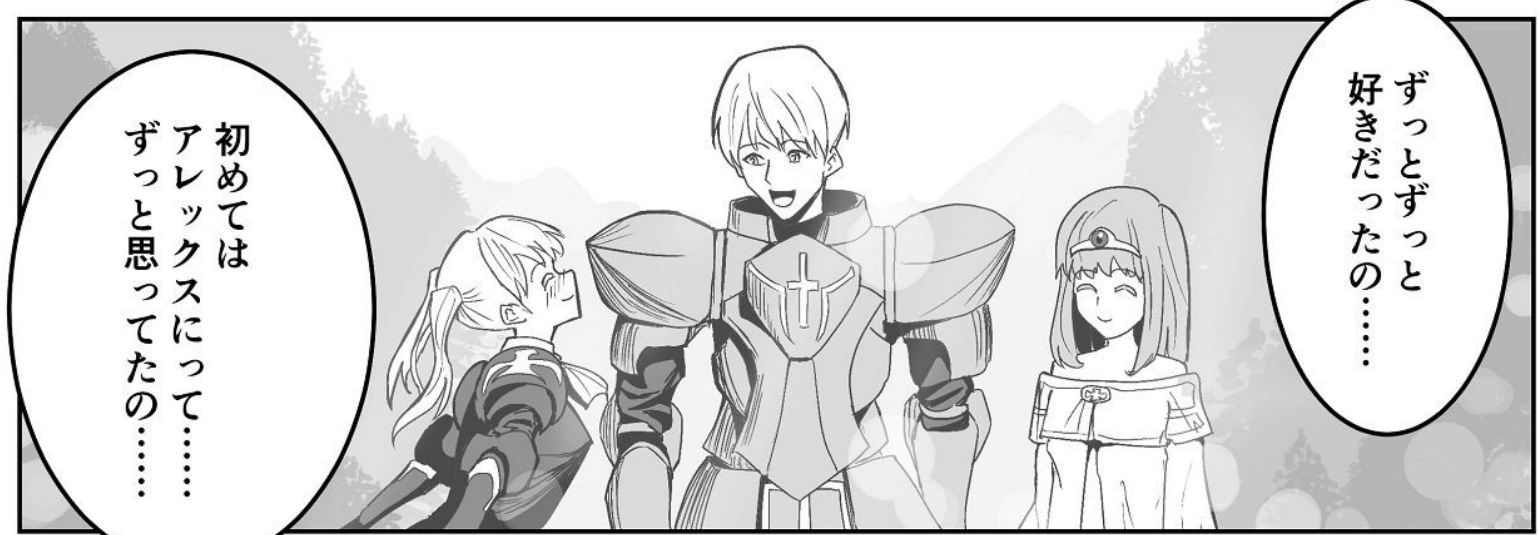
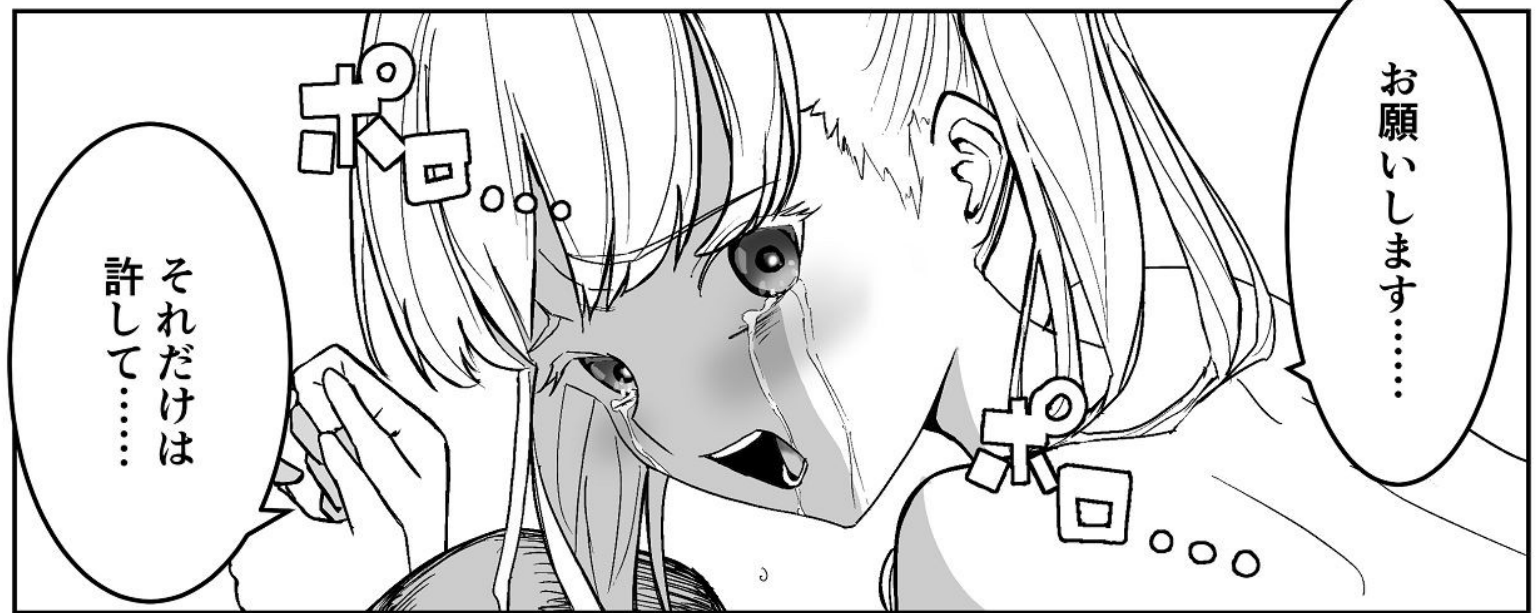
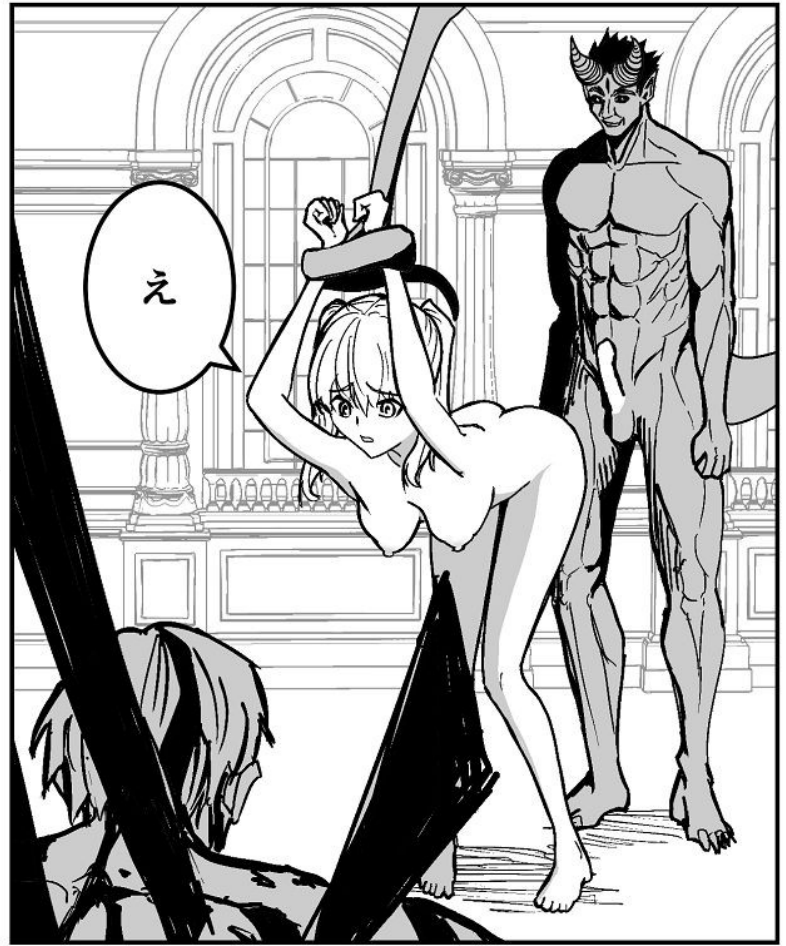


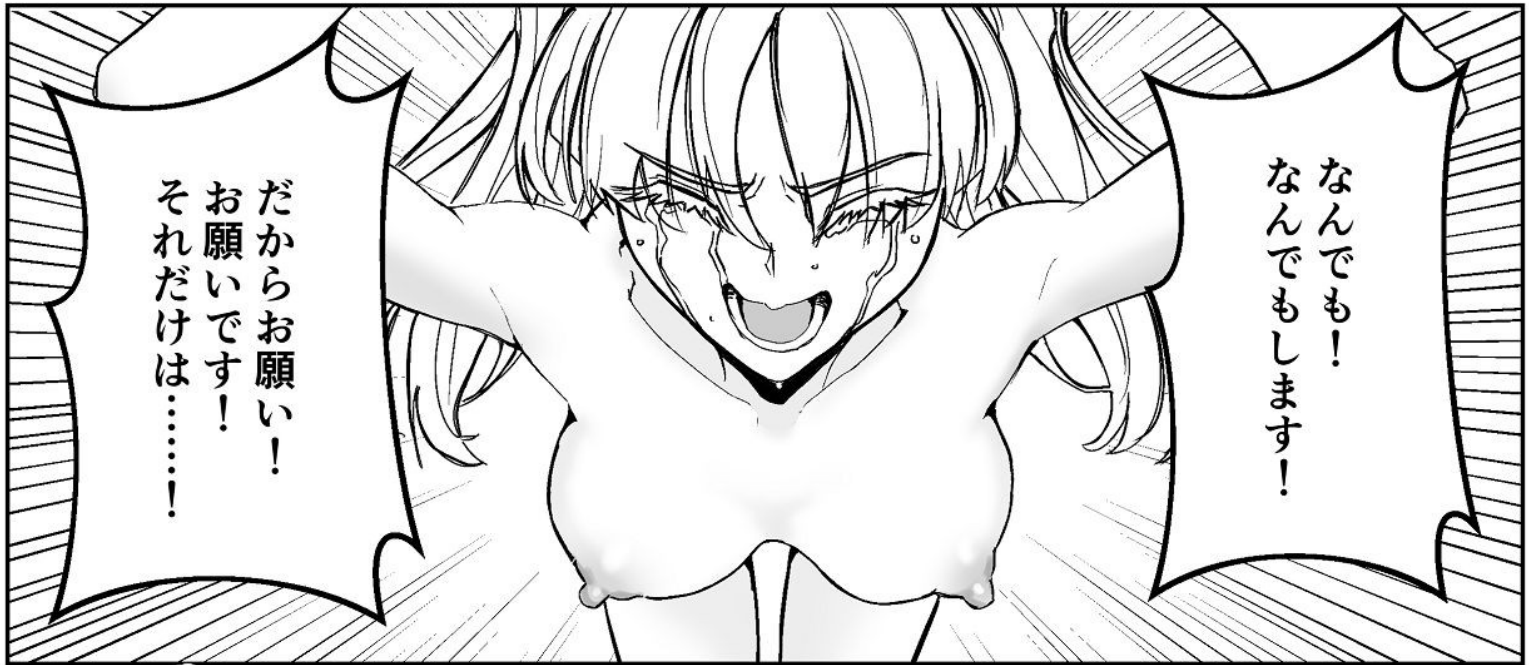
愛しの  
勇者様に

処女を散らす  
瞬間を見届けて  
もらおうとしよう



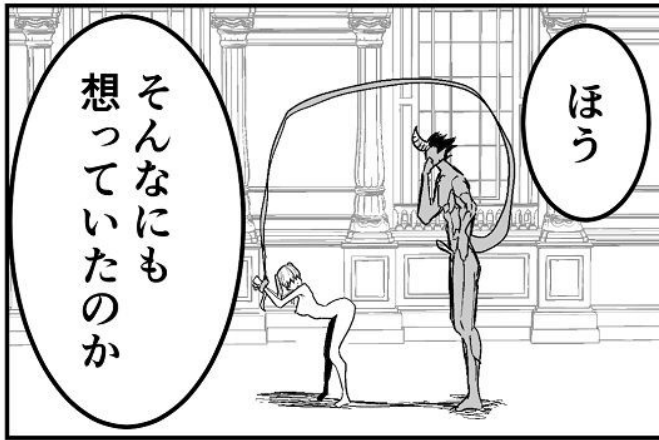
!!





なんでも！  
なんでもします！

だからお願い！  
お願いします！  
それだけは……！



ほう

そんなにも  
想っていたのか



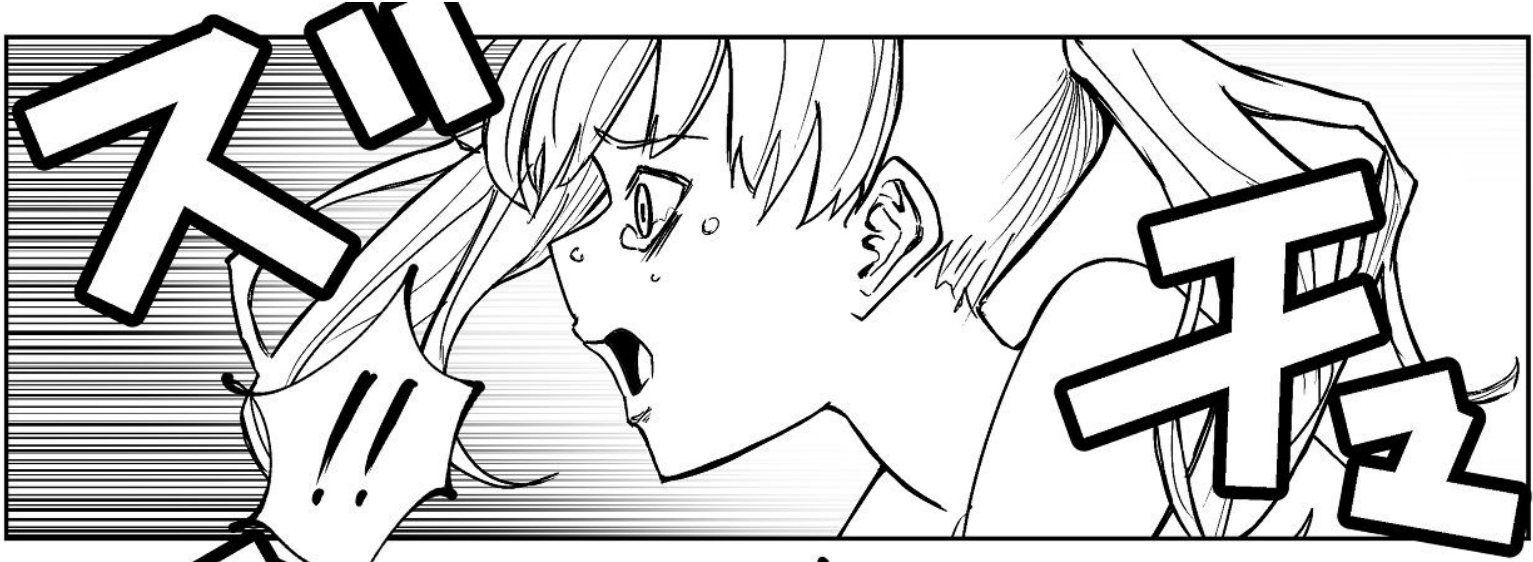
エ……  
ミ……



それは  
よかった

ニムチィ……

いせ……



この膜を  
つらぬくことが

より  
味わい深く  
なるからなあ……！

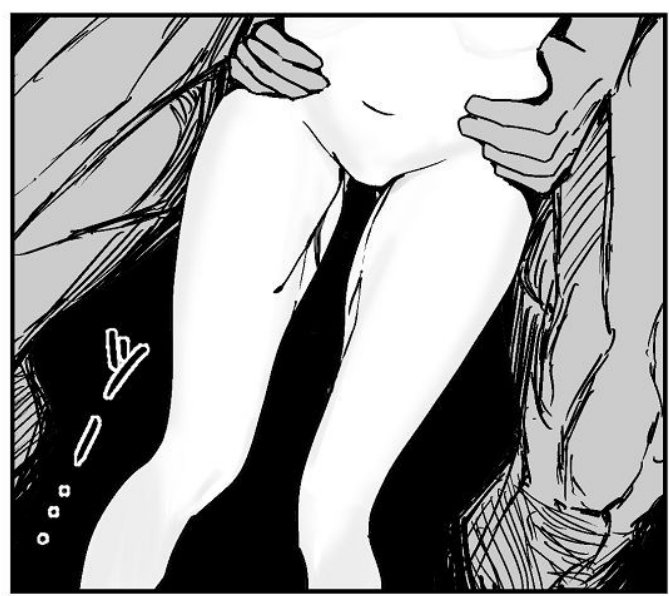
あッ

あッ……



どうだ

想い人の前で  
犯された  
気分は？



も……

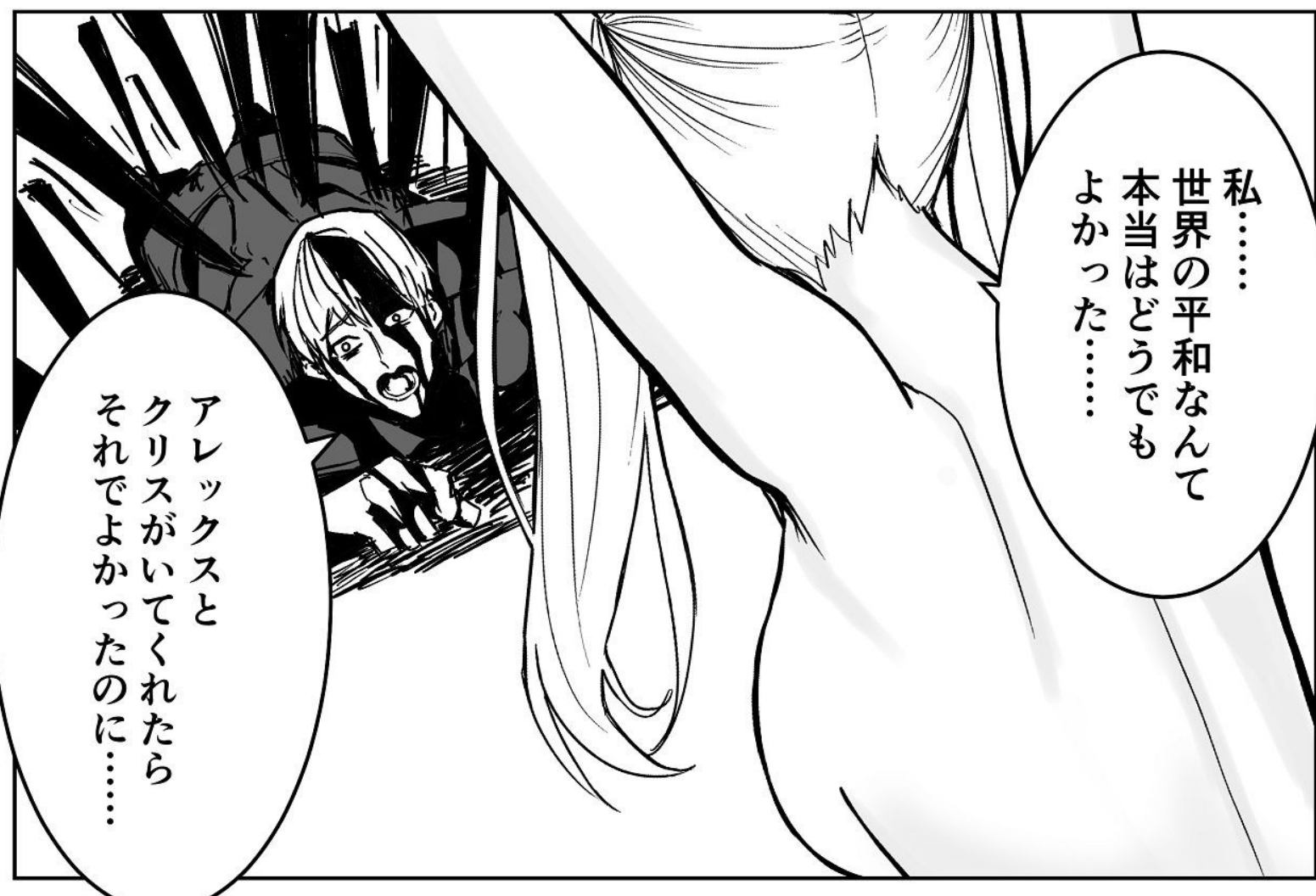
やだ……

なんで  
こんなことに……



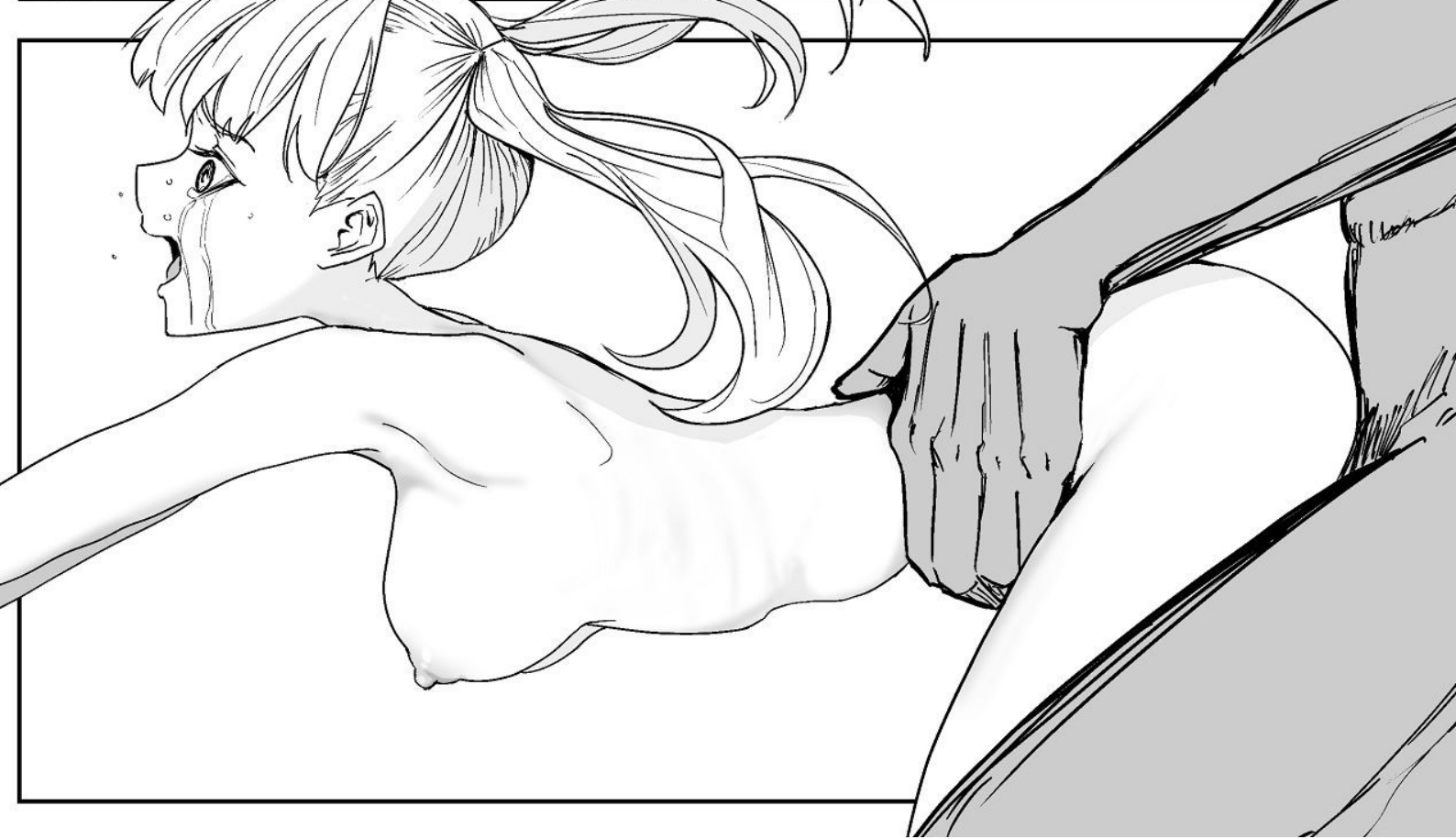
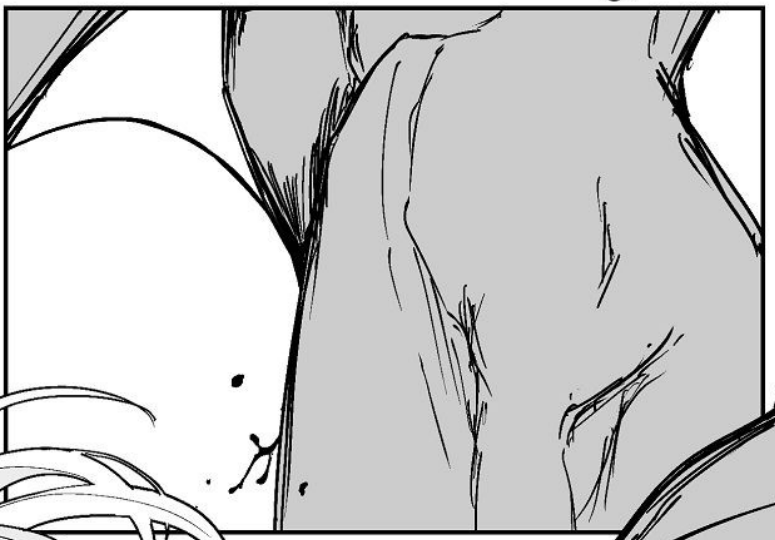
うっ

うぐ……

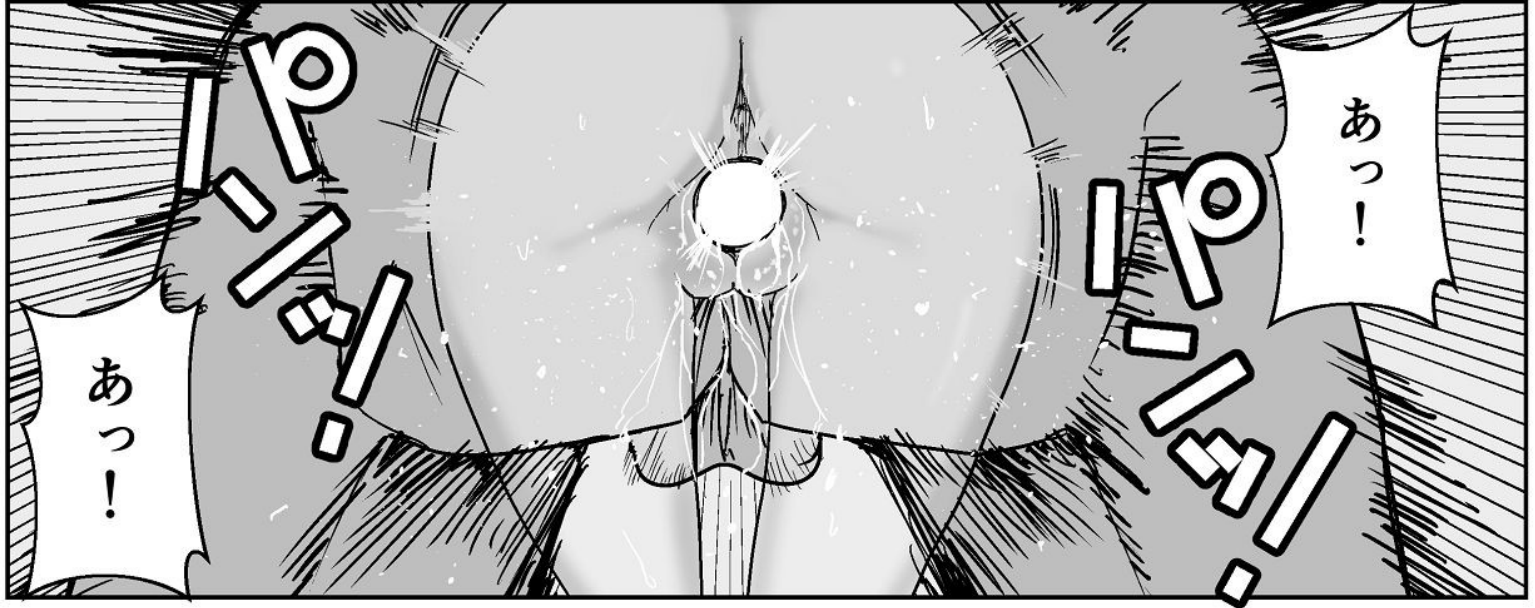
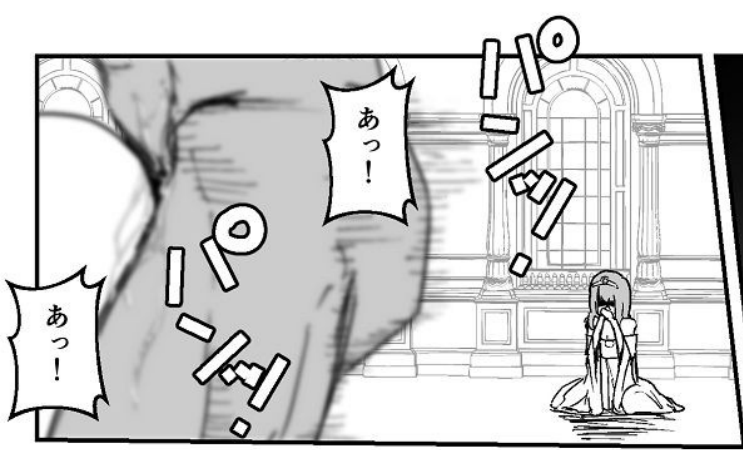


私……  
世界の平和なんて  
本当はどうでも  
よかった……

アレックスと  
クリスがいてくれたら  
それでよかったのに……









あっ!

いや!

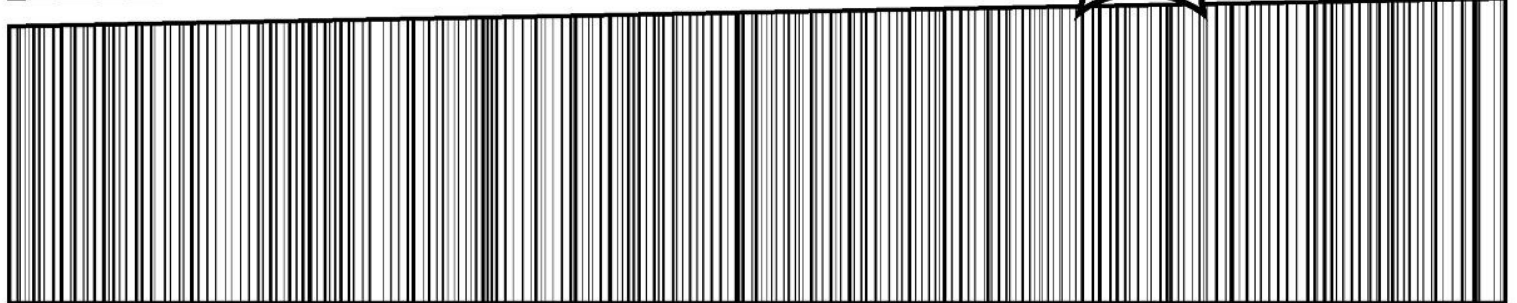
あっ!

いや!

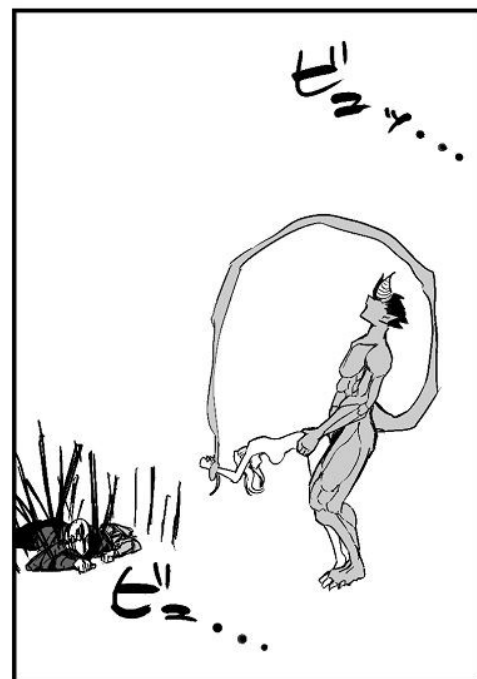
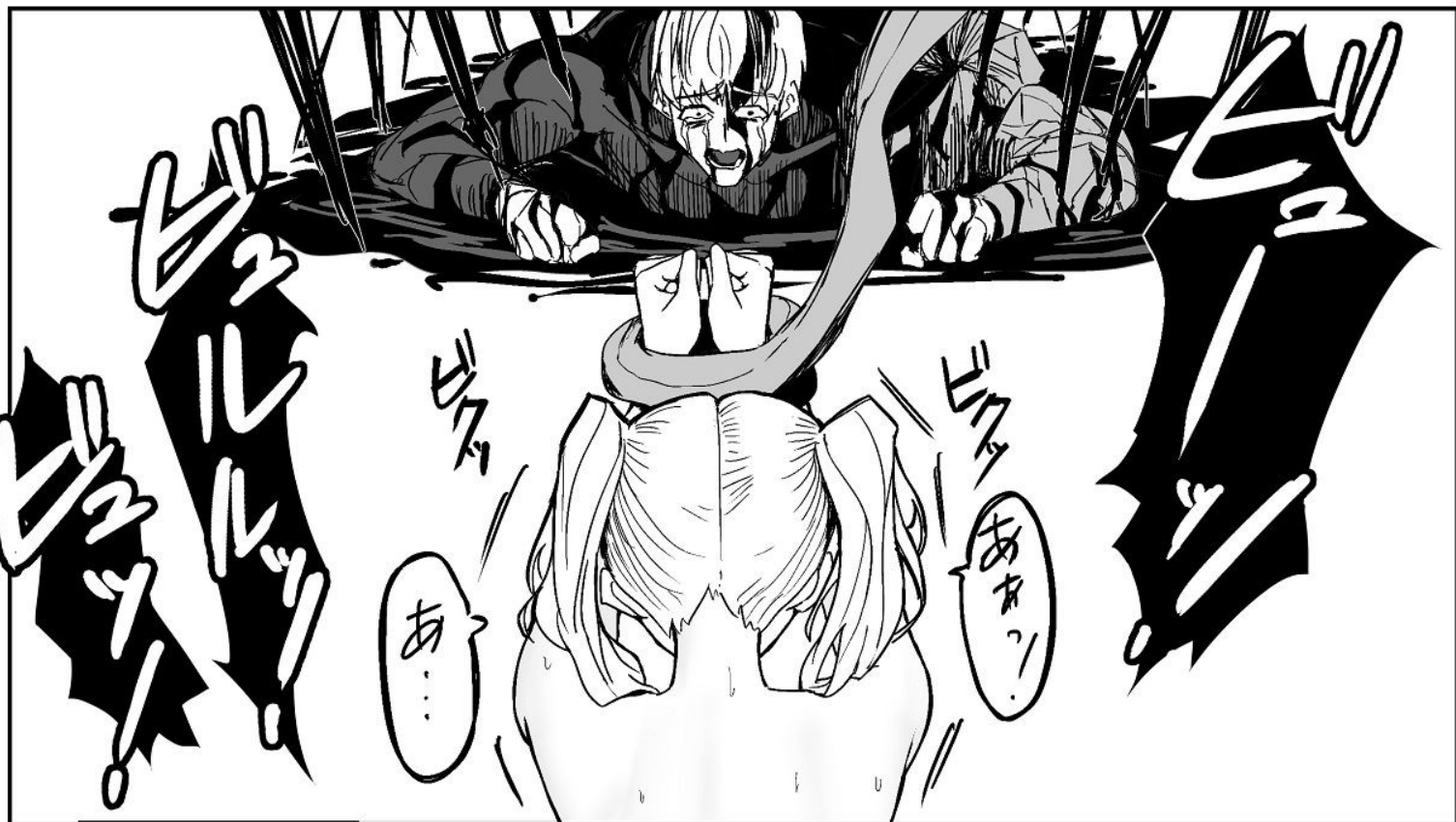
いや!

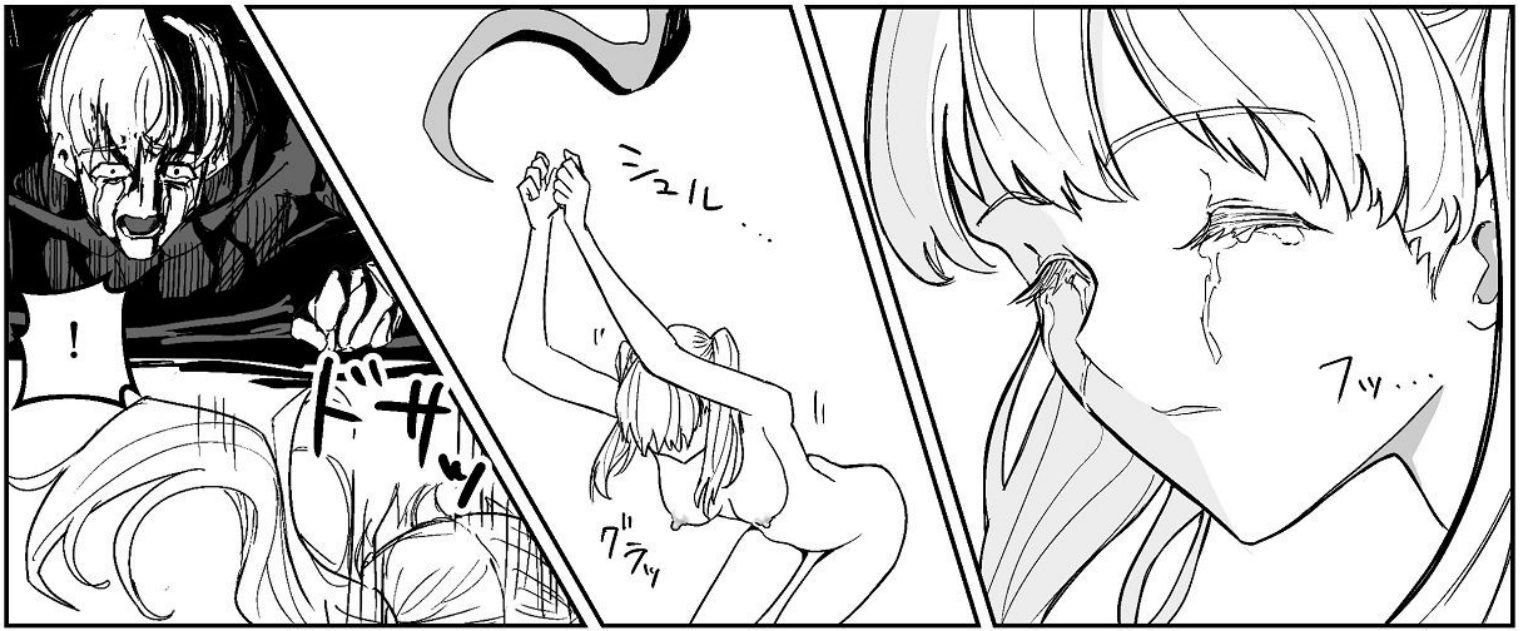
あっ!

いやあっ!







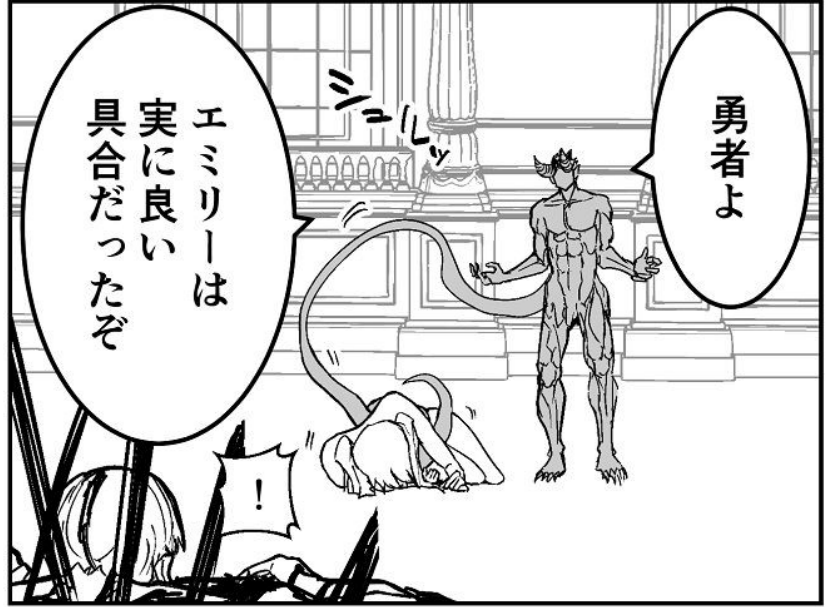




膺内は狭く  
搾り取られたわ

肌はすべらかで  
柔らかく

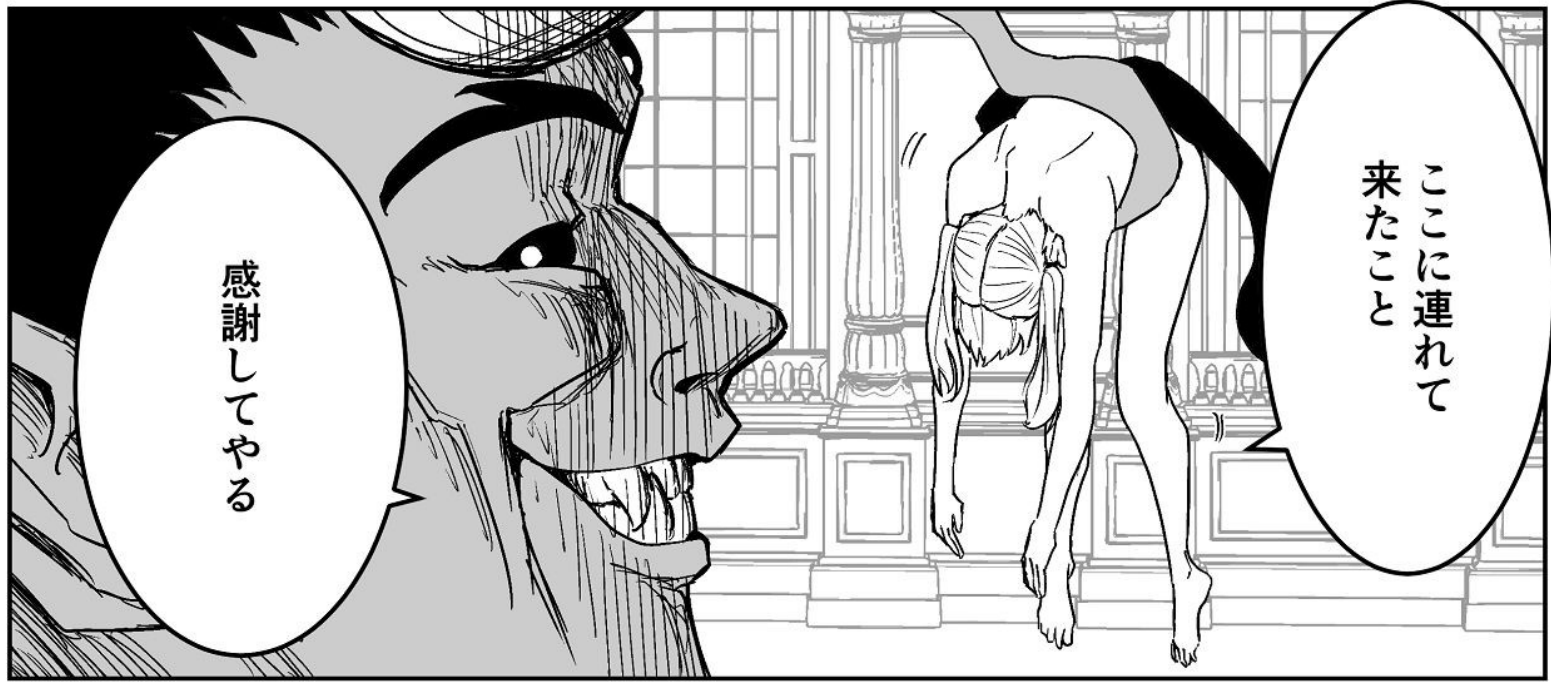
グイッ



勇者よ

エミリーは  
実に良い  
具合だったぞ

ニャルッ



感謝してやる

ここに連れて  
来たこと



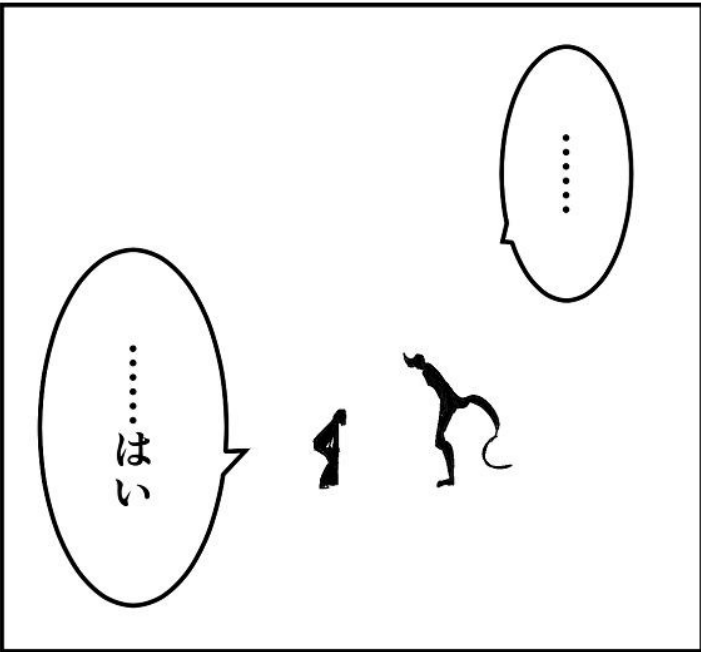
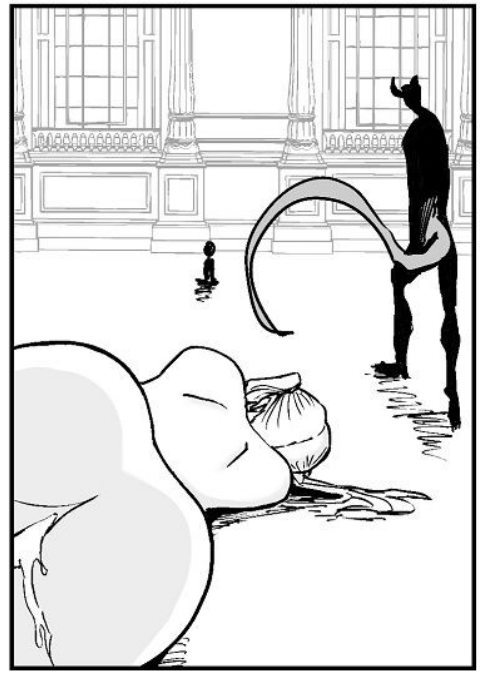
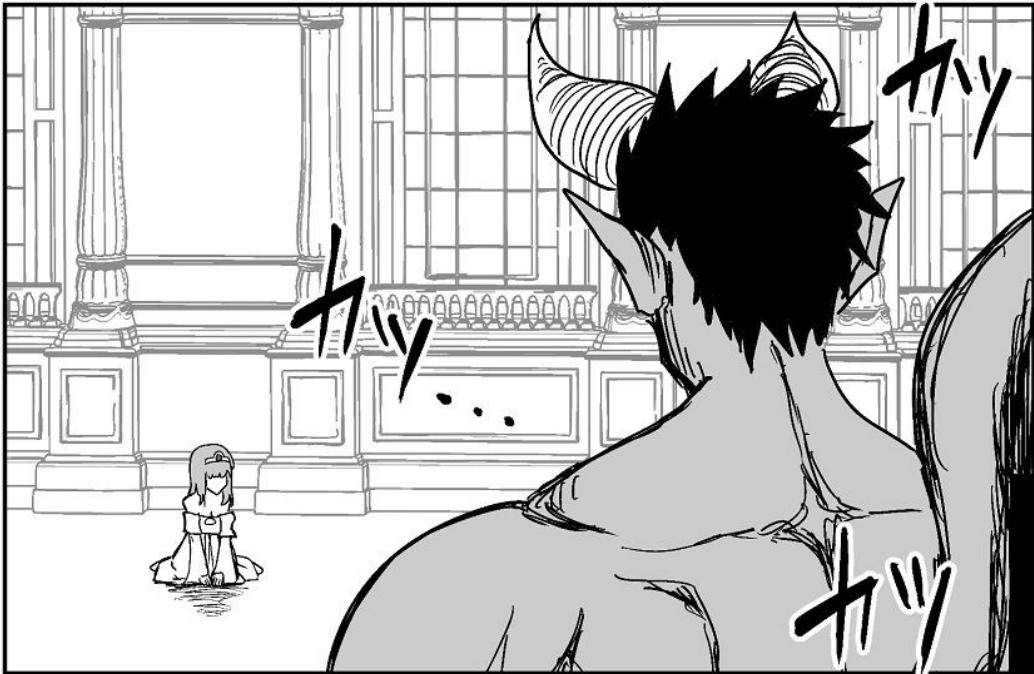
ははははは！

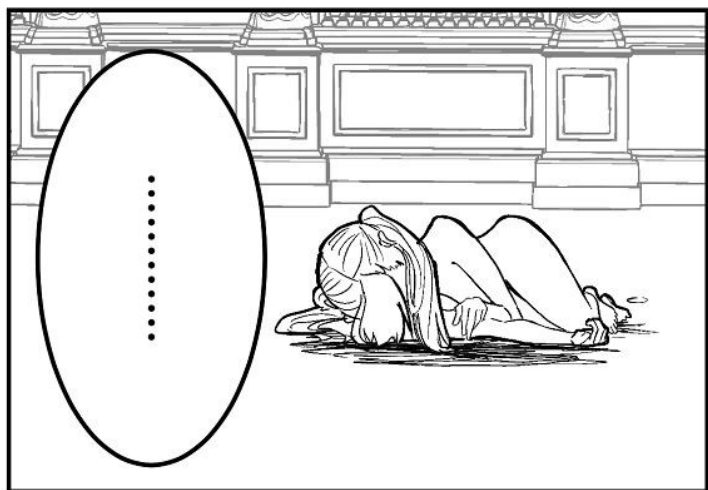
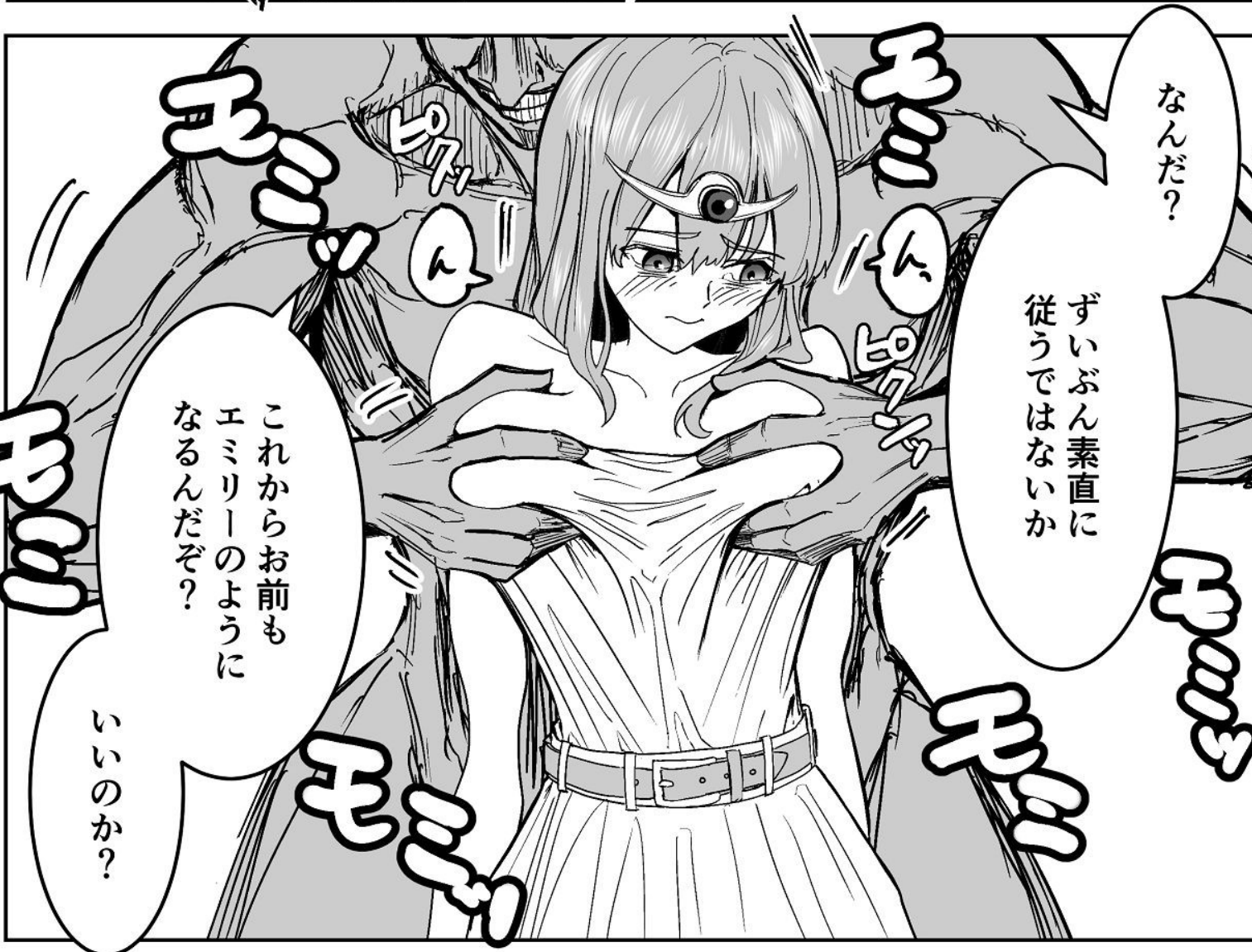
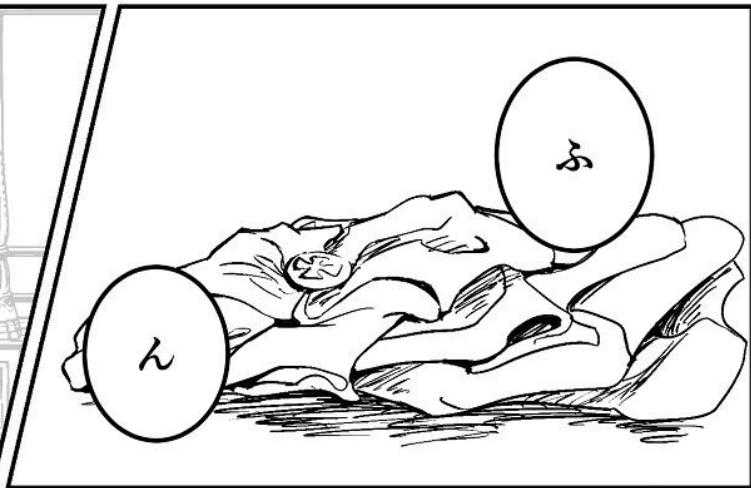
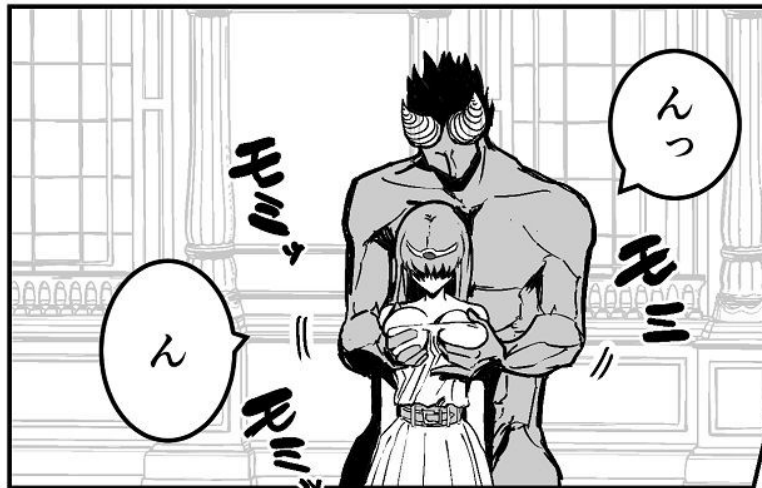
ははははは  
ははは！

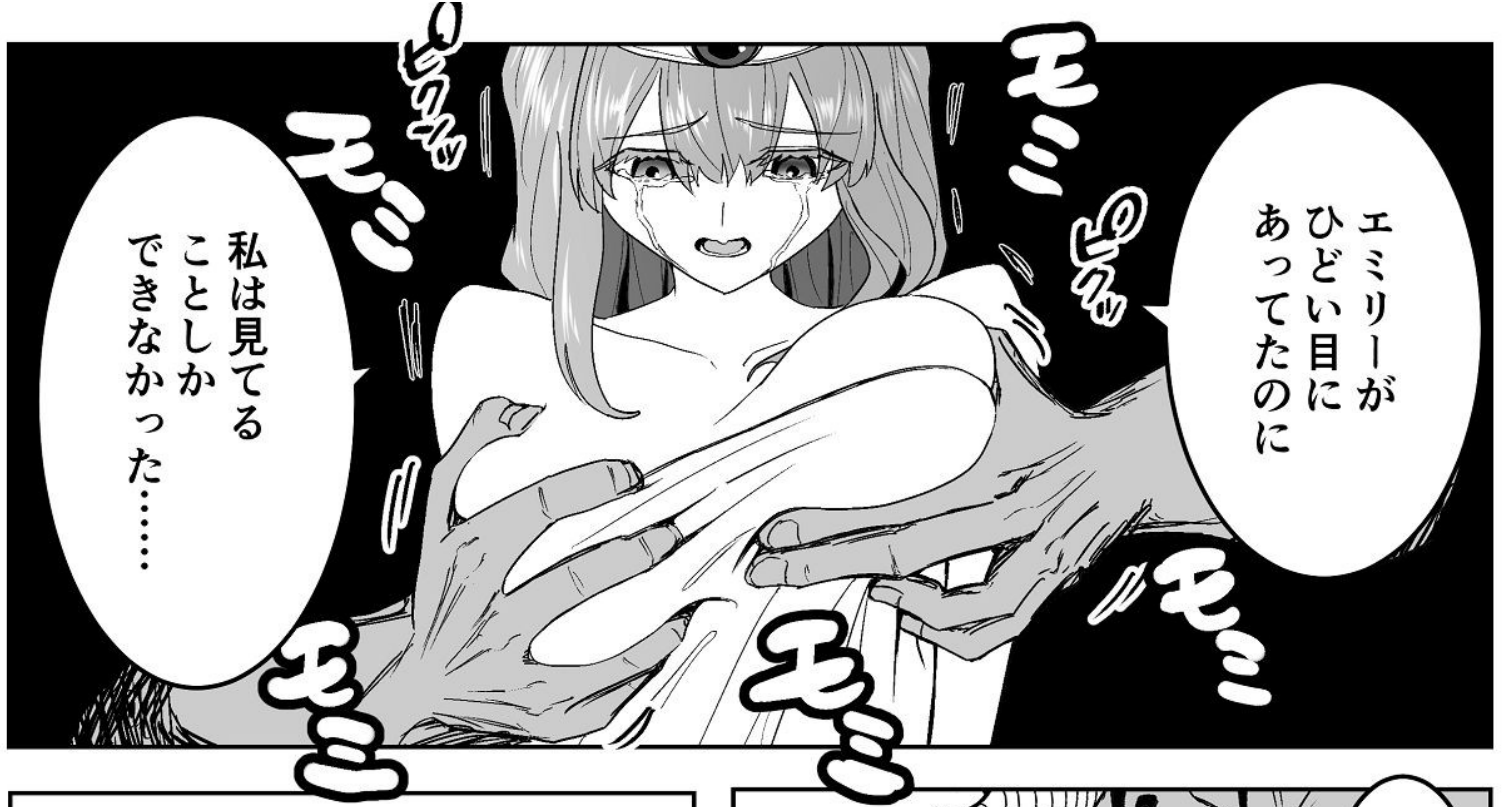


エミリー...

！







エミリーが  
ひどい目に  
あったのに

私は見てる  
ことしか  
できなかった……



そうか



……だが



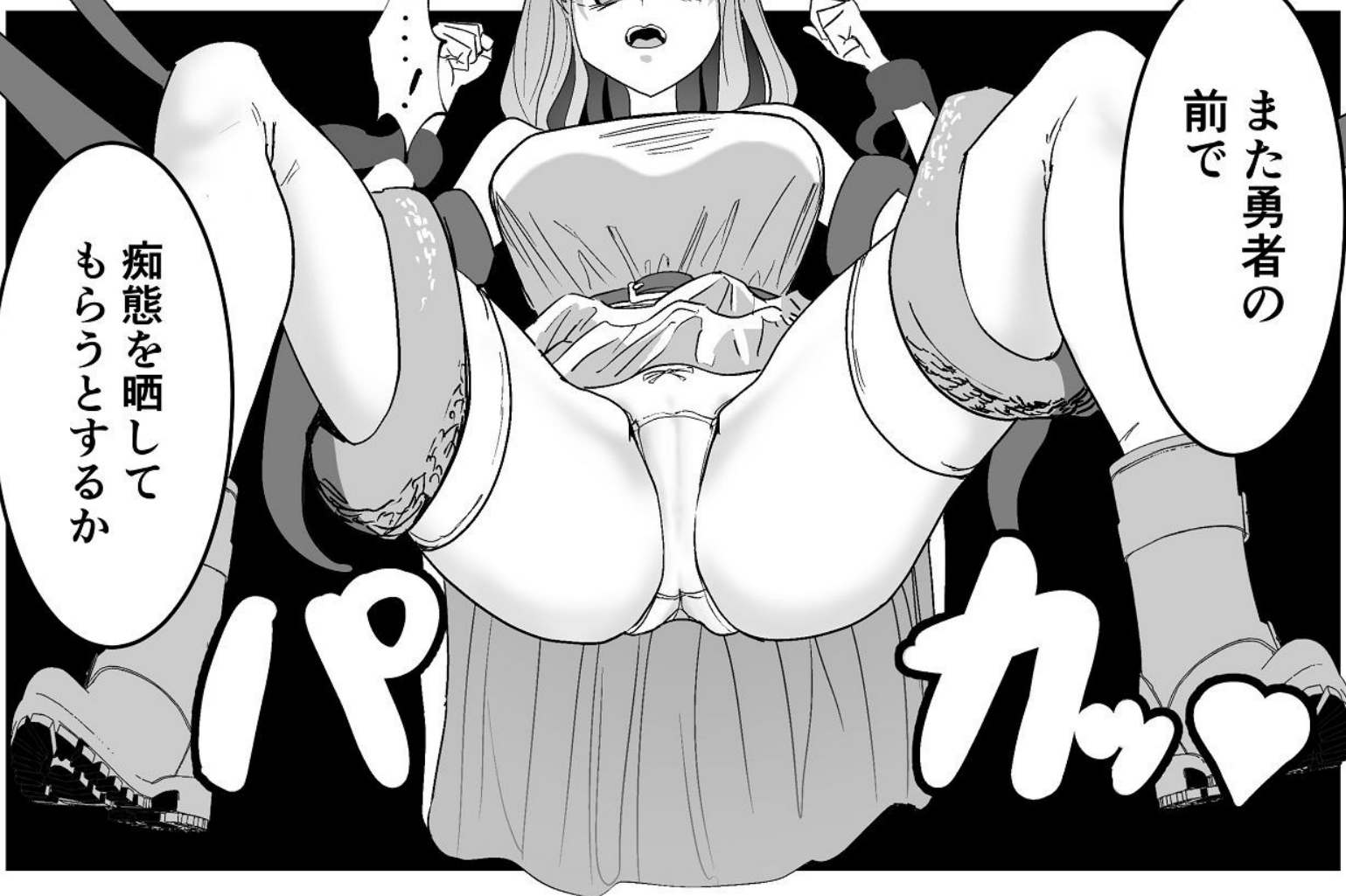
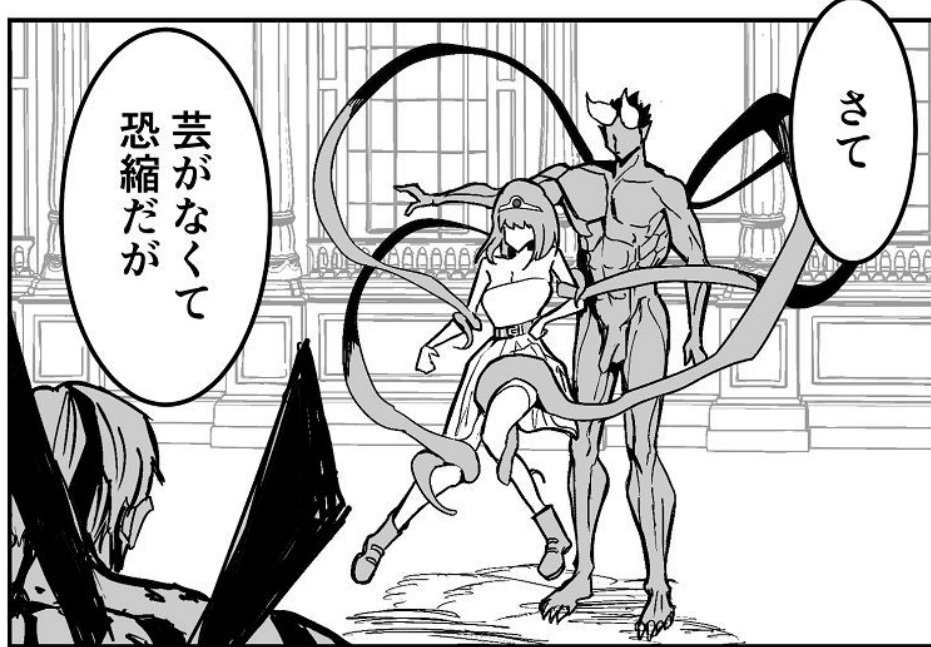
今さら

私だけ  
助かろうなんて  
思わない……



あまりに  
従順でも  
興が削がれると  
いうものだ

!?









お前は何度も男と寝たことがあるな？

膜もない



愛液がしたたって下着から溢れてくるぞ

.....!

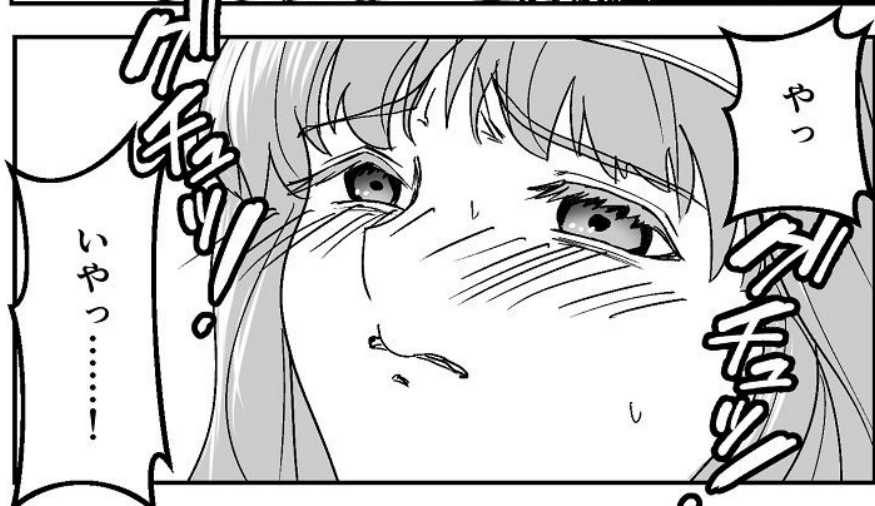


おい勇者よ 残念だったな

んっ！

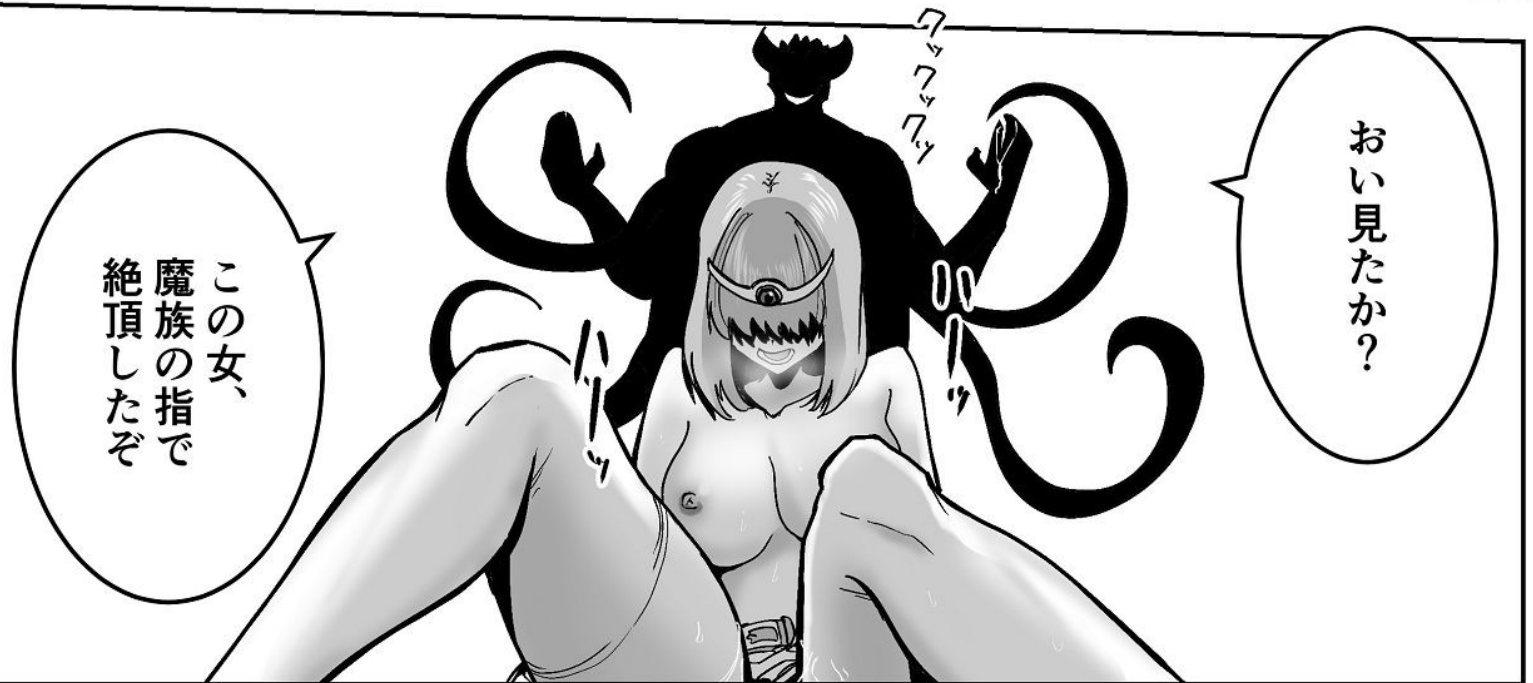
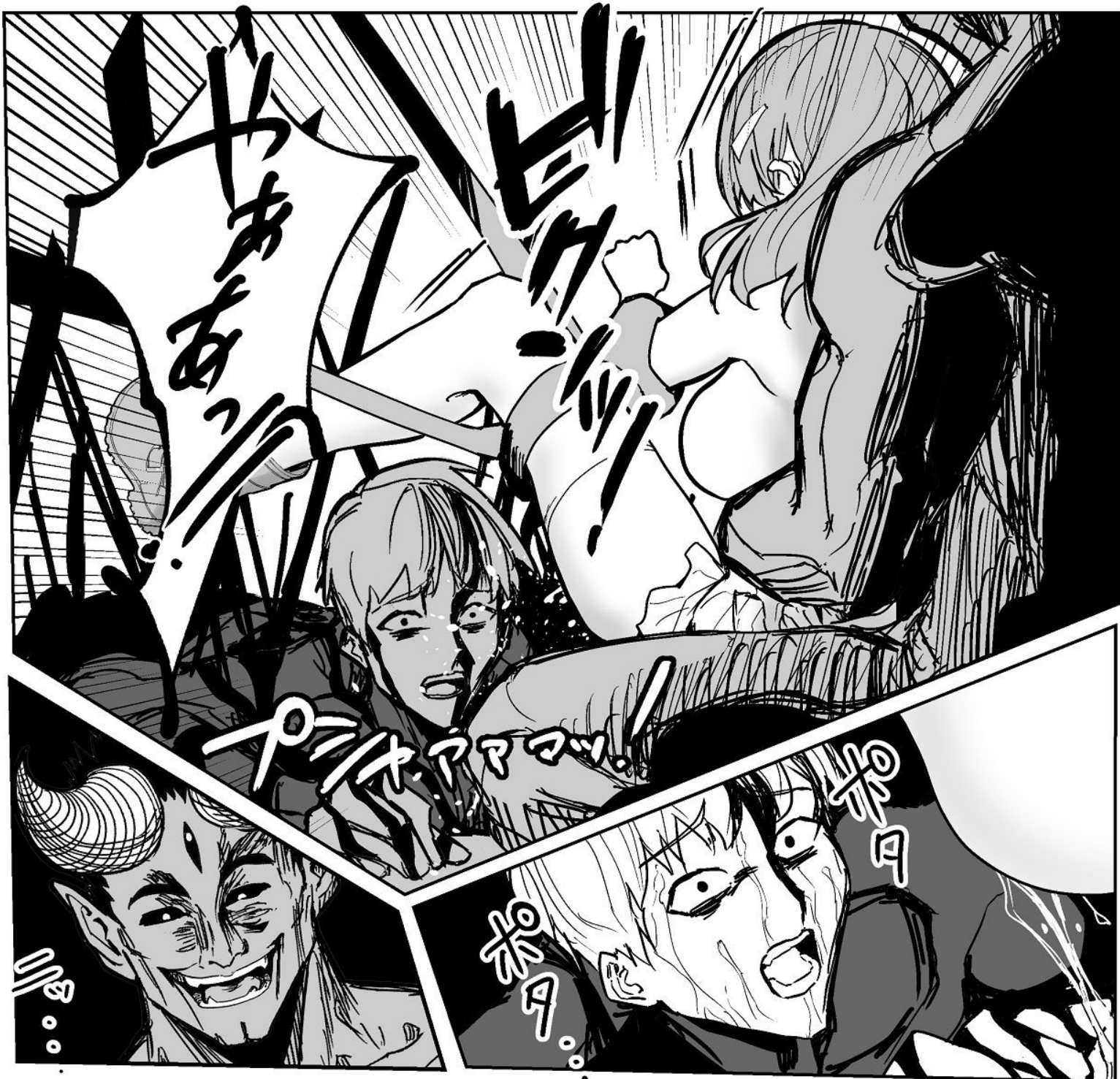
この女は他にも想い人がいるようだぞ

んっ！



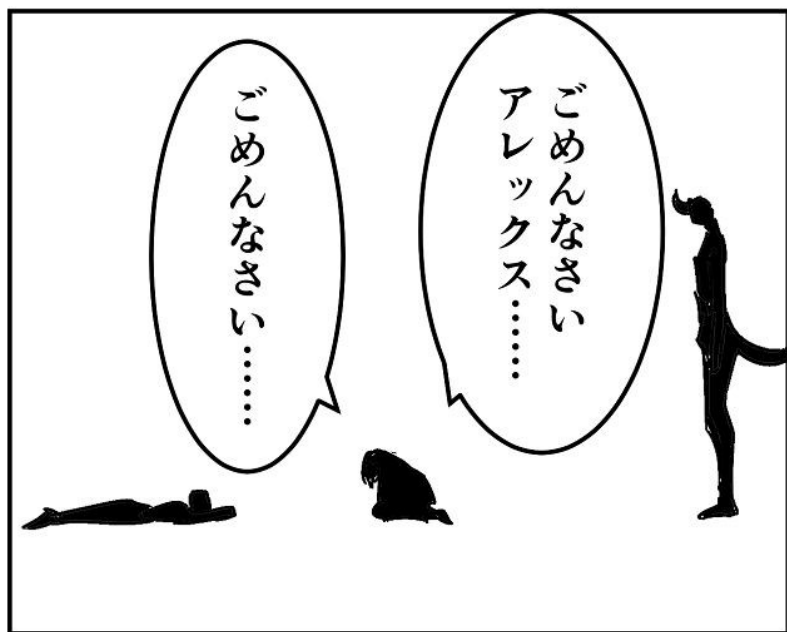
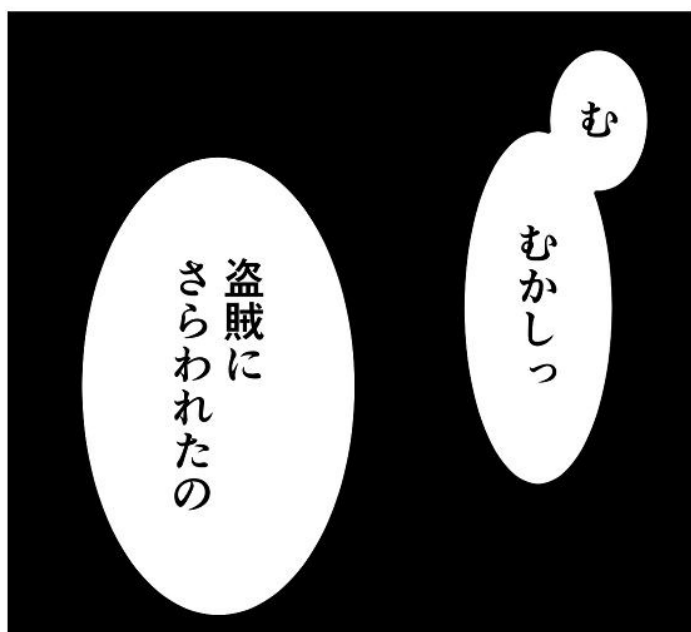
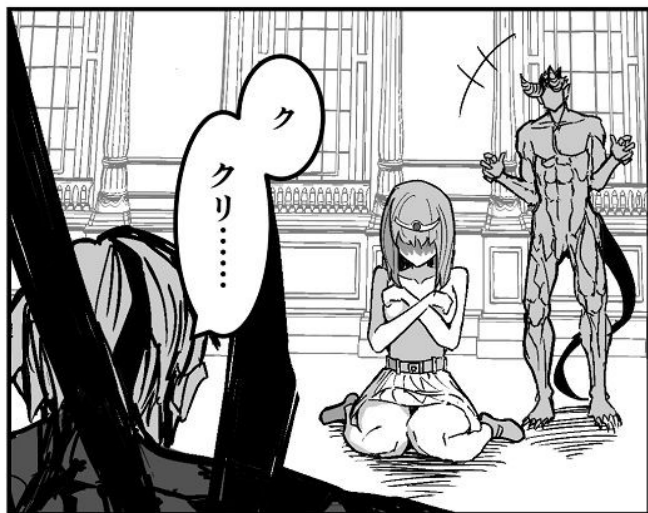
いやっ.....!





この女、  
魔族の指で  
絶頂したぞ

おい見たか？



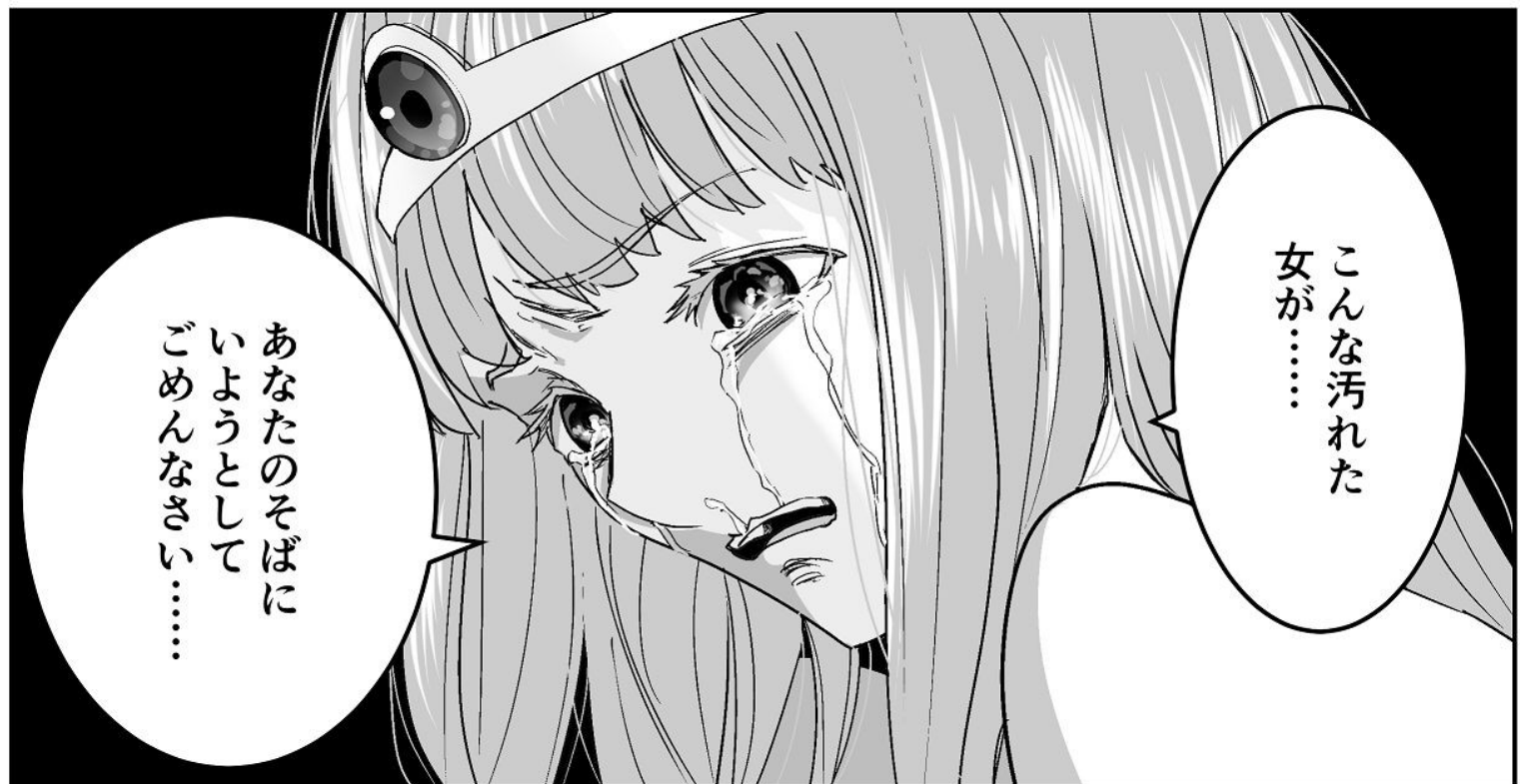


助けられるまで  
ずっと……  
されてて……

嫌だった！  
嫌だったの！  
でも……

生きて帰れるかも  
分からなくて……  
心が壊れちゃい  
そうで……！

思いこもうとしたの！  
私は望んでここに  
いるんだって！  
つらいことなんて  
ないんだって！



こんな汚れた  
女が……

あなたのそばに  
いようとして  
ごめんなさい……



だいじょ……

クリ……



ズツツツ

あ、あ……

なかなか  
良かったぞ

勇者に  
気に入れよう  
と  
暗い過去を  
隠してここまで  
来たのだな

あ…

あ…

認めてやろう

お前の想いの  
尊さをな

認めるからこそ  
踏みこむ  
楽しみが  
味わえるというもの

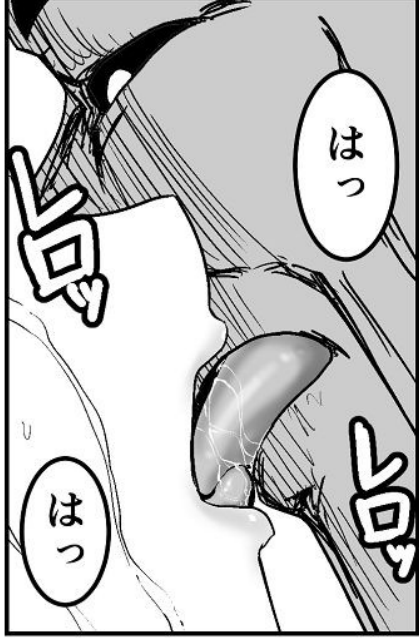
思いが  
上等なほど  
良い

女を汚すのは  
この瞬間が  
たまらんだ

では  
始めよう

んっ  
んっ  
んっ







あっ!

あっ!

あっ!

嫌なのに!  
感じたくないのに.....!

あっ!

ダメ!  
ダメ!

あっ!



なんで……

あの時の

記憶が……



しめつけが  
きつく  
なってきたぞ

あっ!

おっ?

ああっ!

イキそう  
なのか?

イク時は  
ちゃんと  
言うんだぞ？

いやっ！

パチュンッ！

あっ！

パチュンッ！

イキたくない！

イキたくない……

パチュンッ！

パチュンッ！

あっ！

あっ！

パチュンッ！

あっ！

あっ！

パチュンッ！

あっ！

パチュンッ！

突きたびに  
締めつけて  
きおって！

我もそろそろ  
イキそうだ！

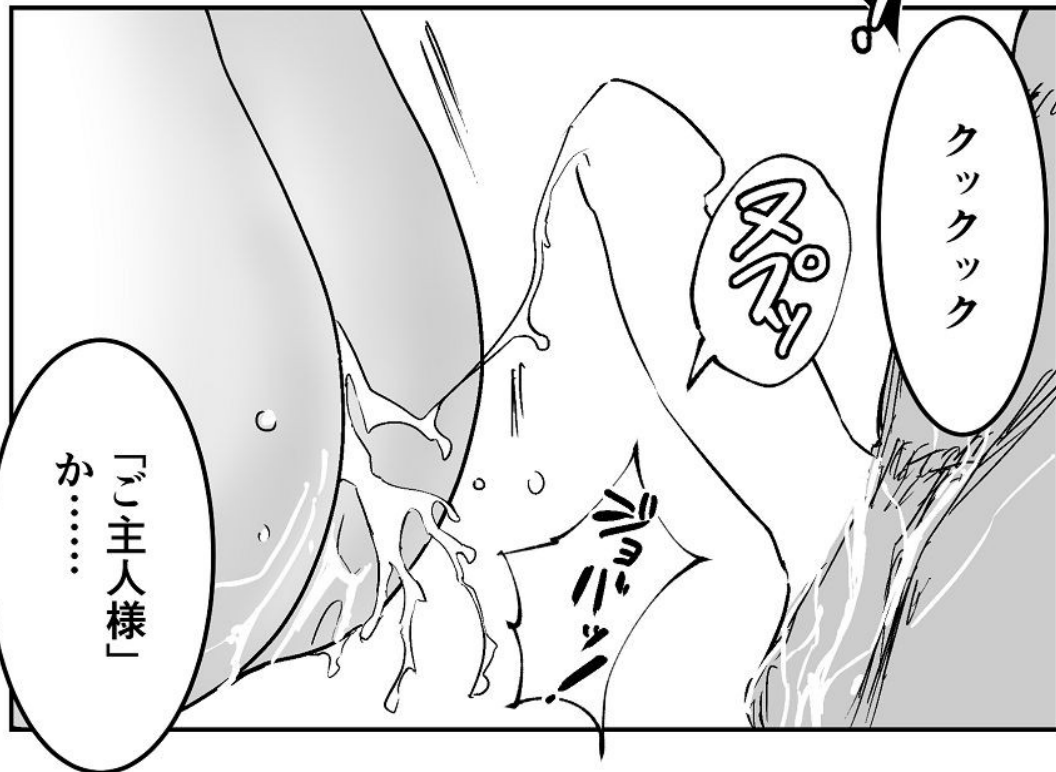
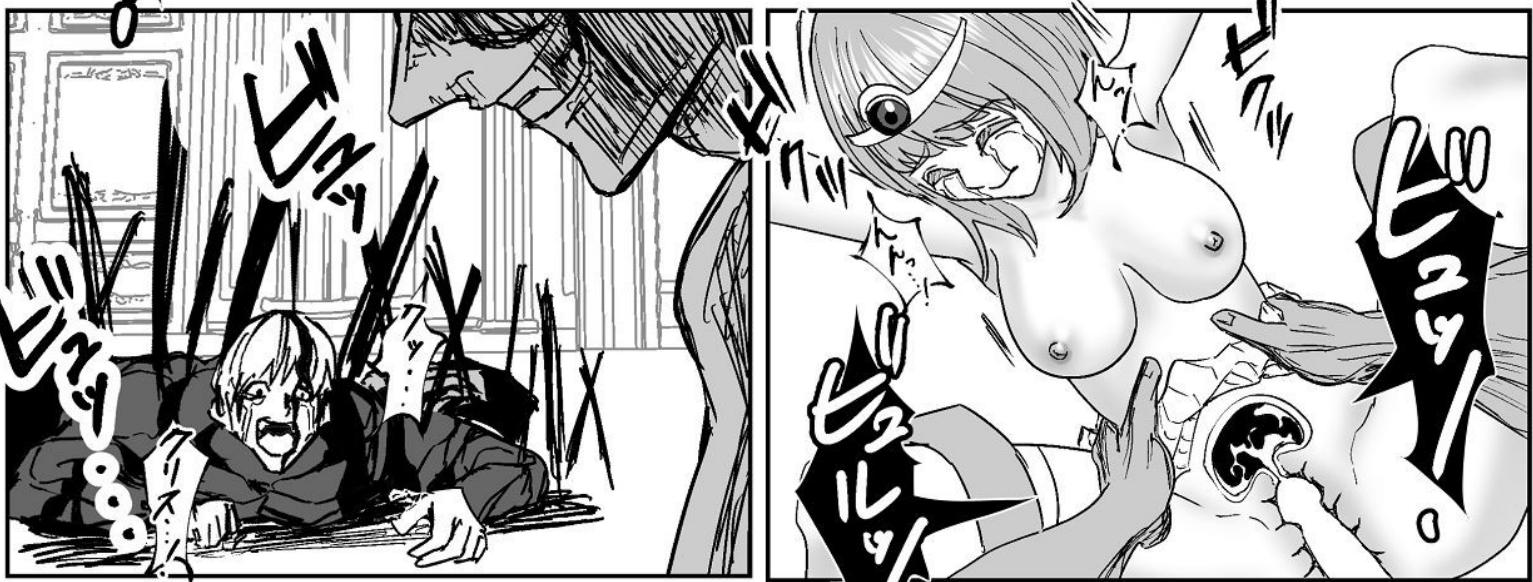
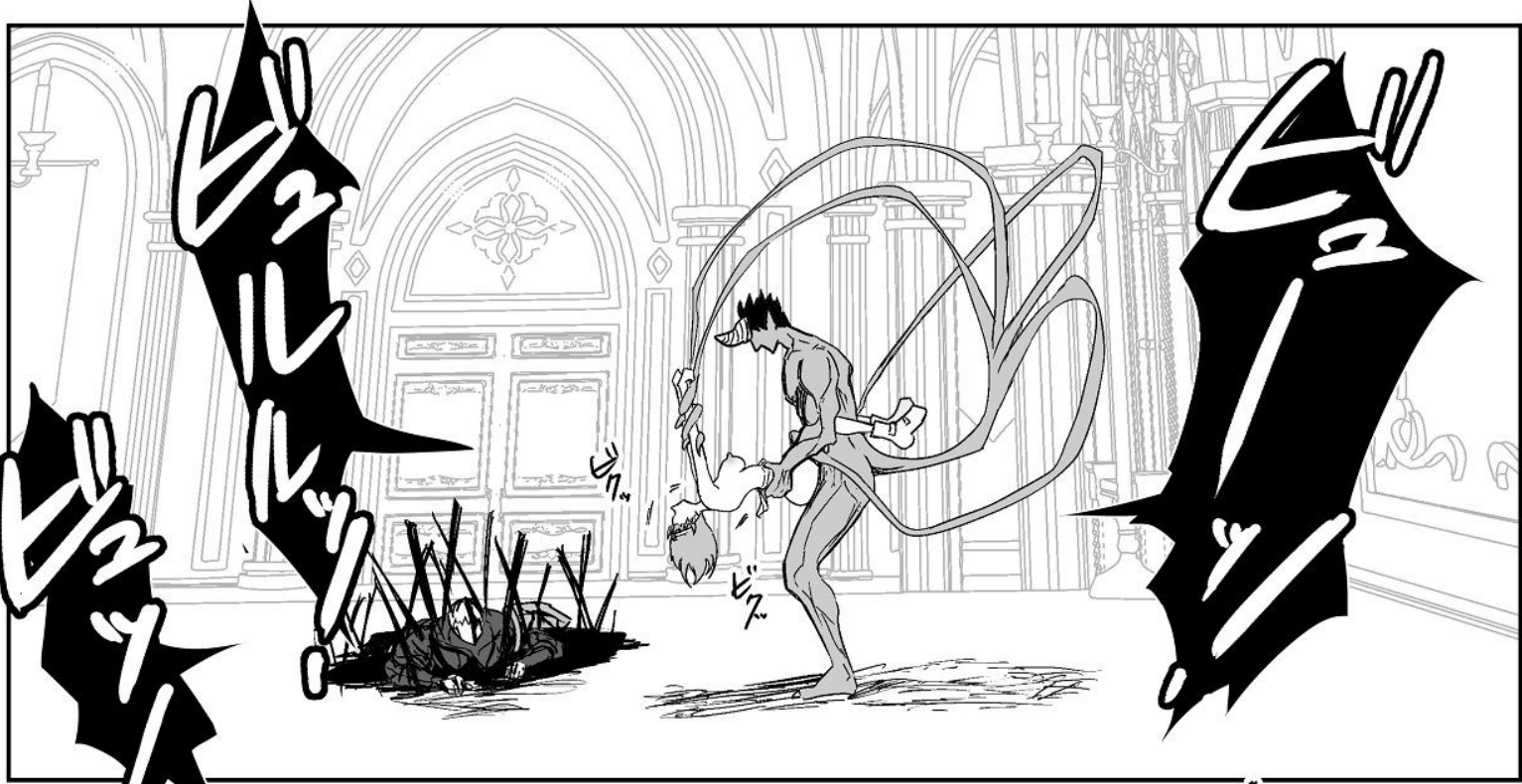
嫌なのに……！

もう……  
ダメ……！

イク時はちゃんと  
言わないと……

また  
叩かれちゃう……

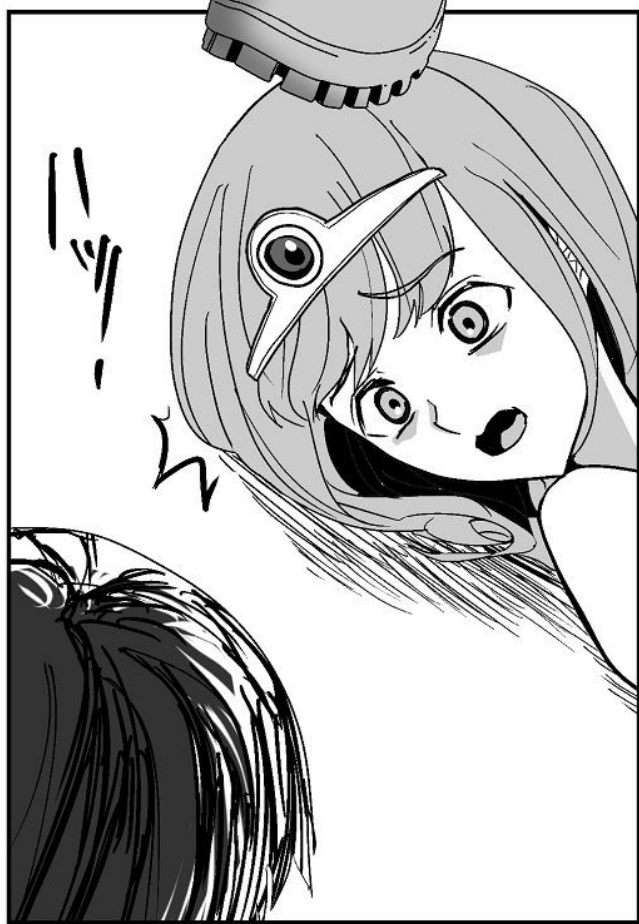


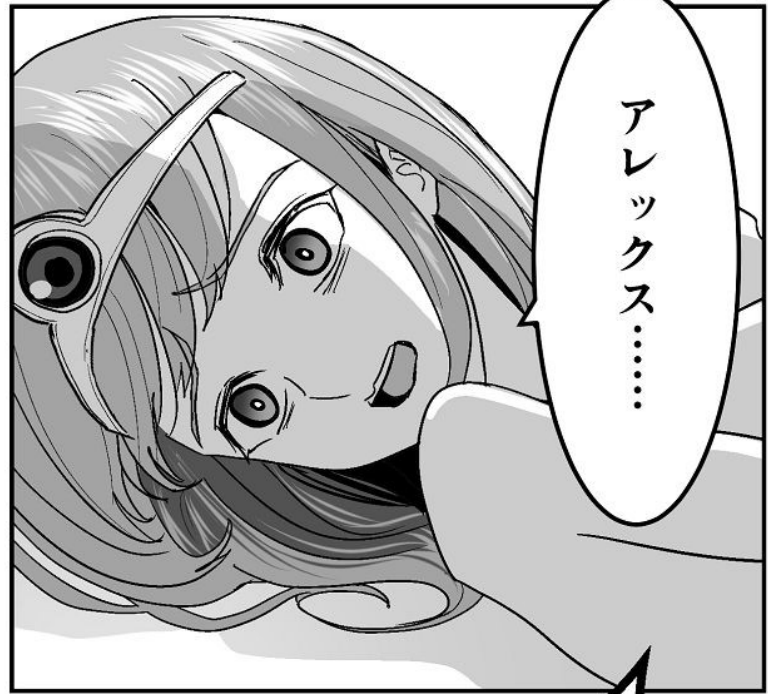
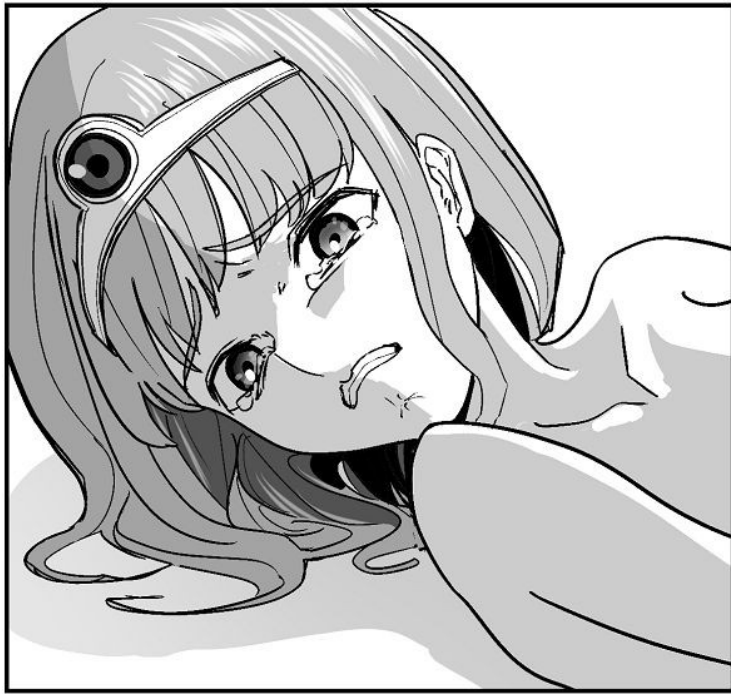




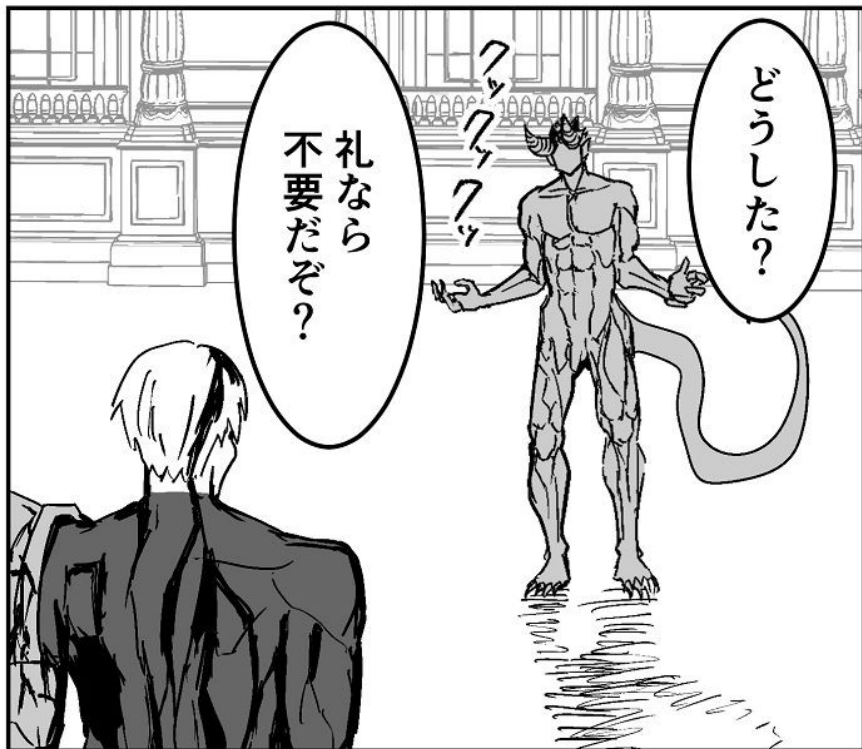
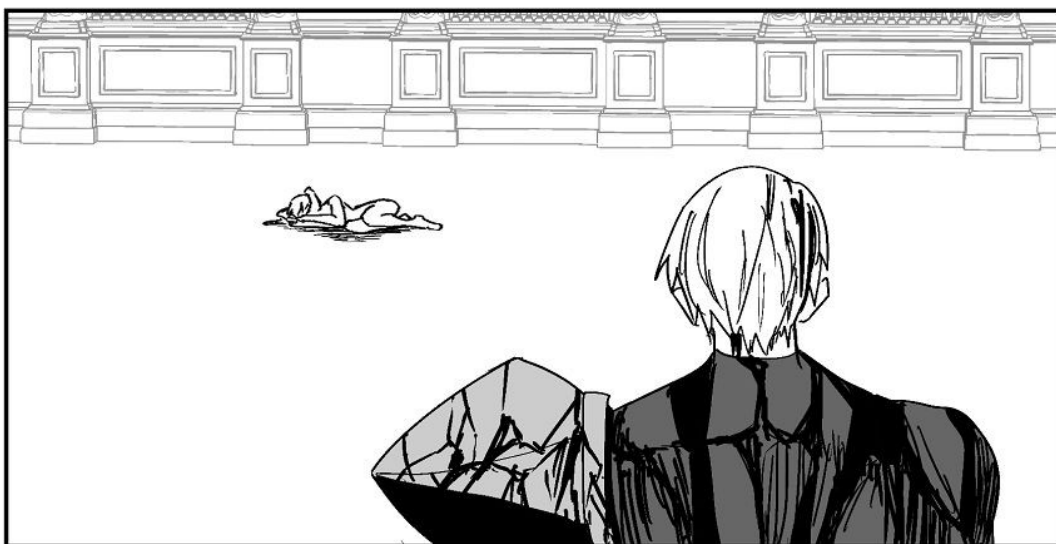
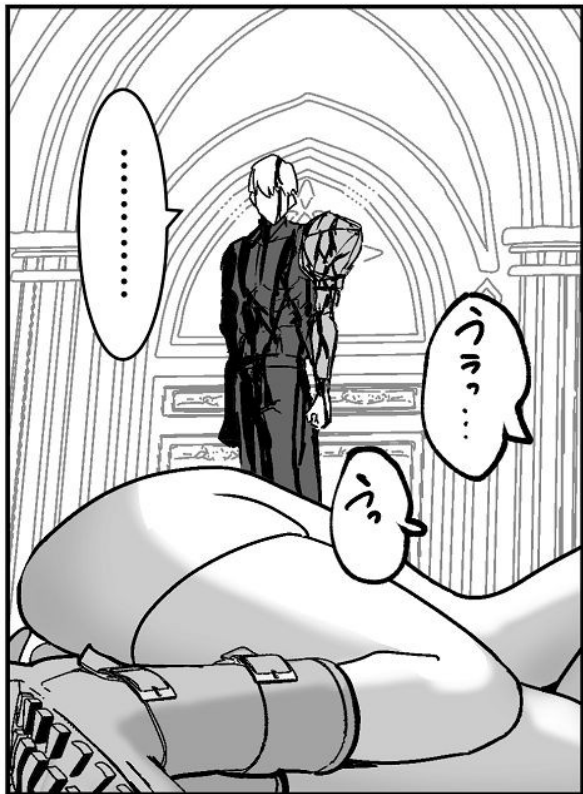
盗賊どもに  
言わされて  
いたのか？

なかなか  
良かったぞ  
クリス



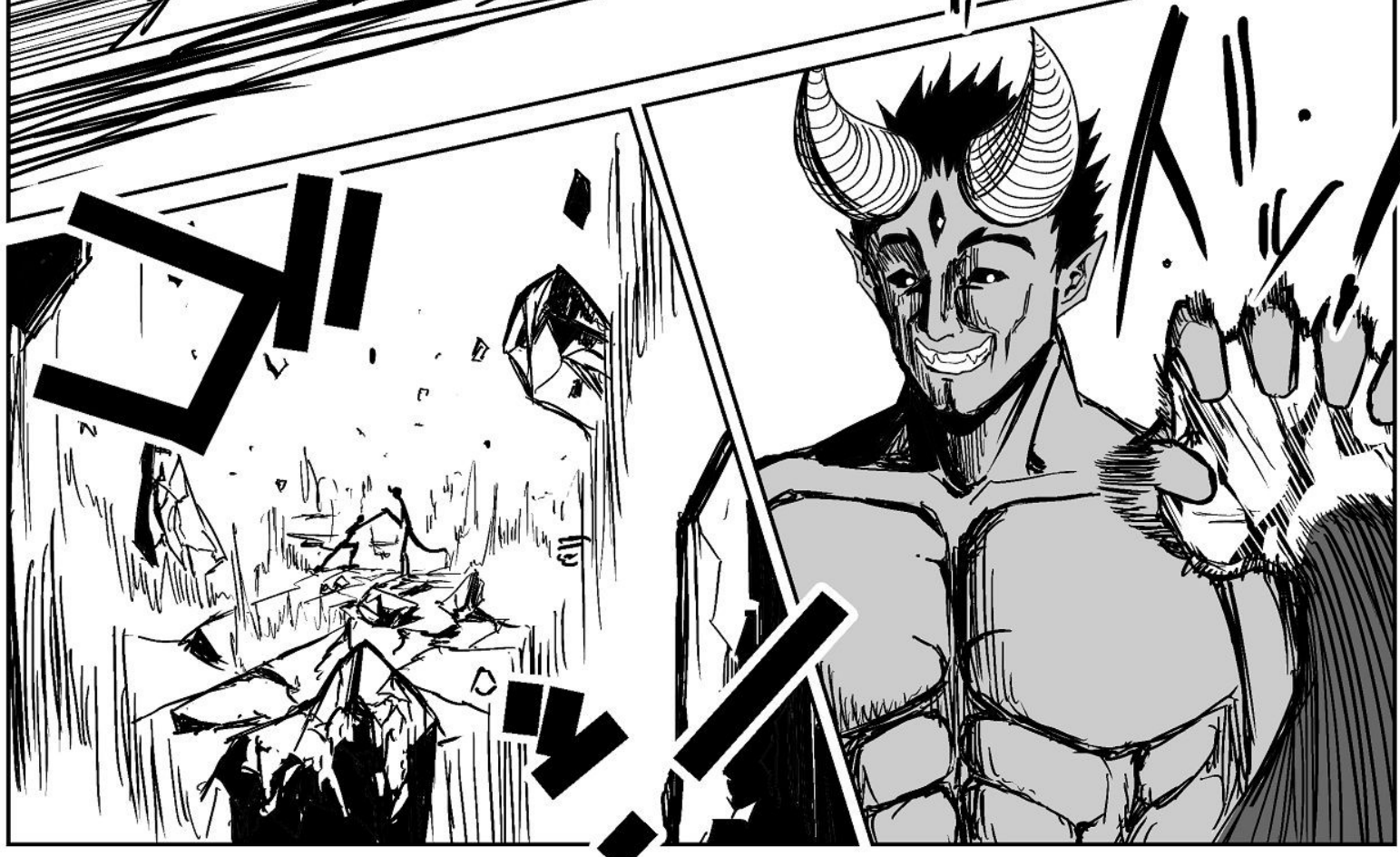








死ねっ!



クッ

クッ



お前だけは  
……!

お前だけは  
絶対に  
許さない……!



今すぐに  
去るなら女達を  
連れて帰って  
いいぞ

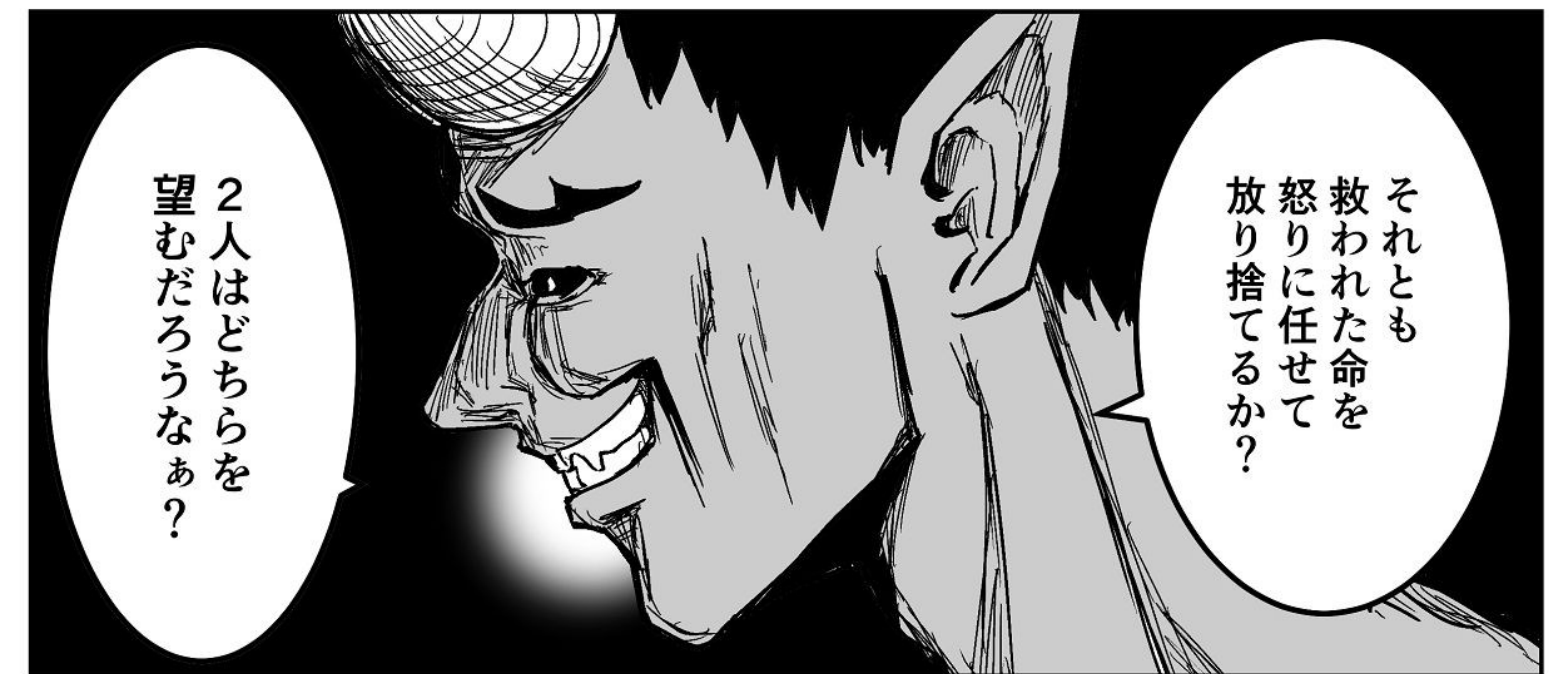
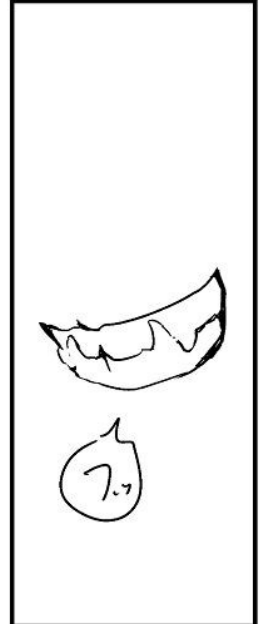
破格の条件だと  
思うが?

!



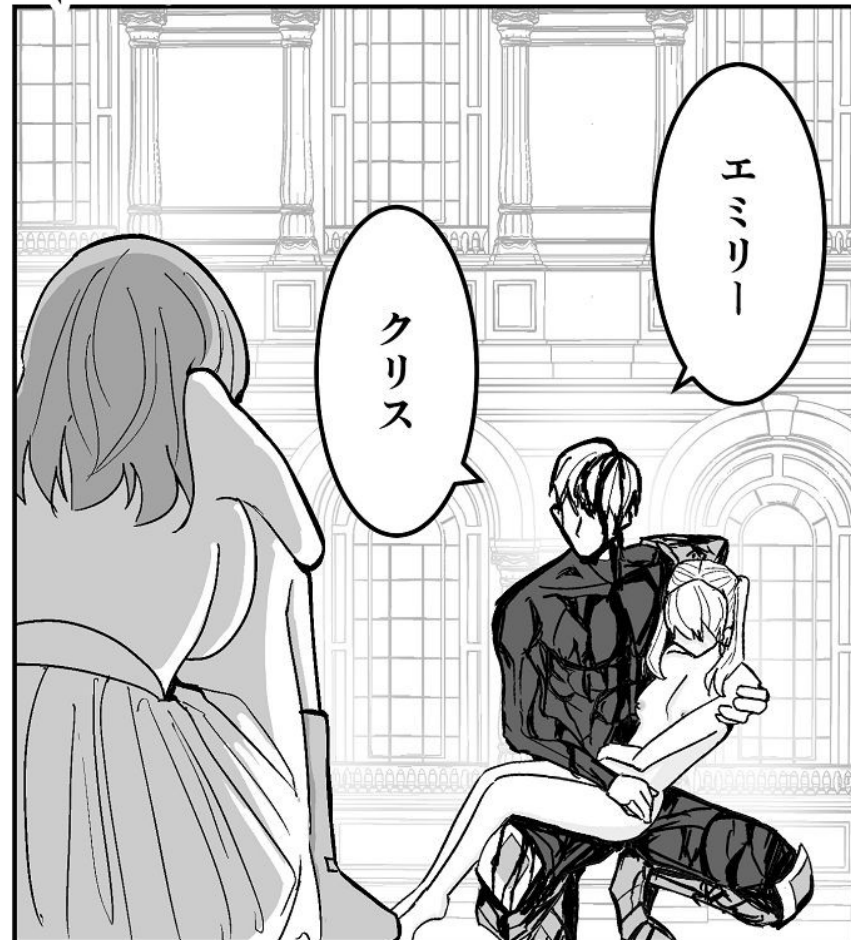
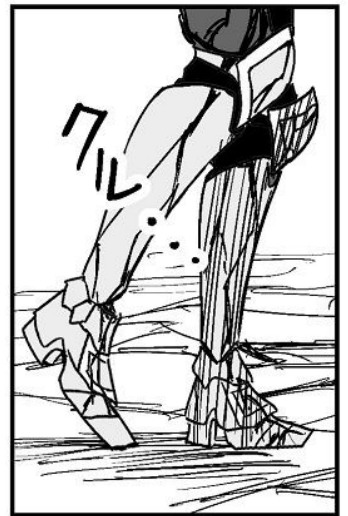
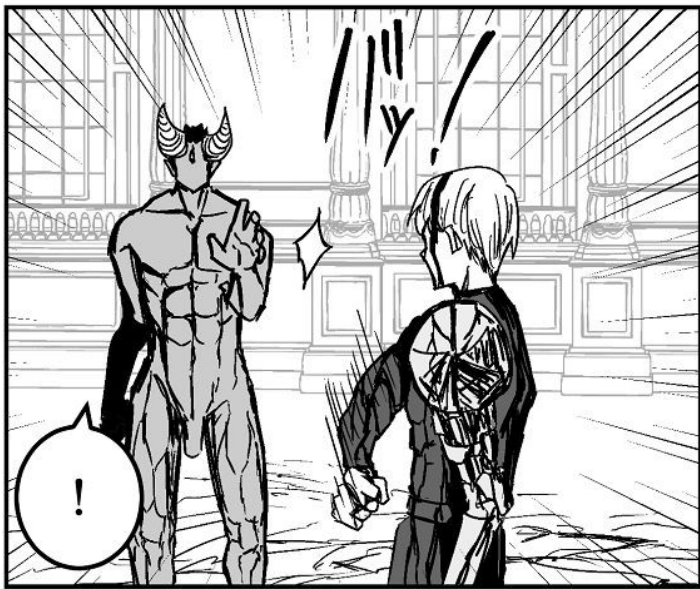
まあ落ち着け  
勇者よ

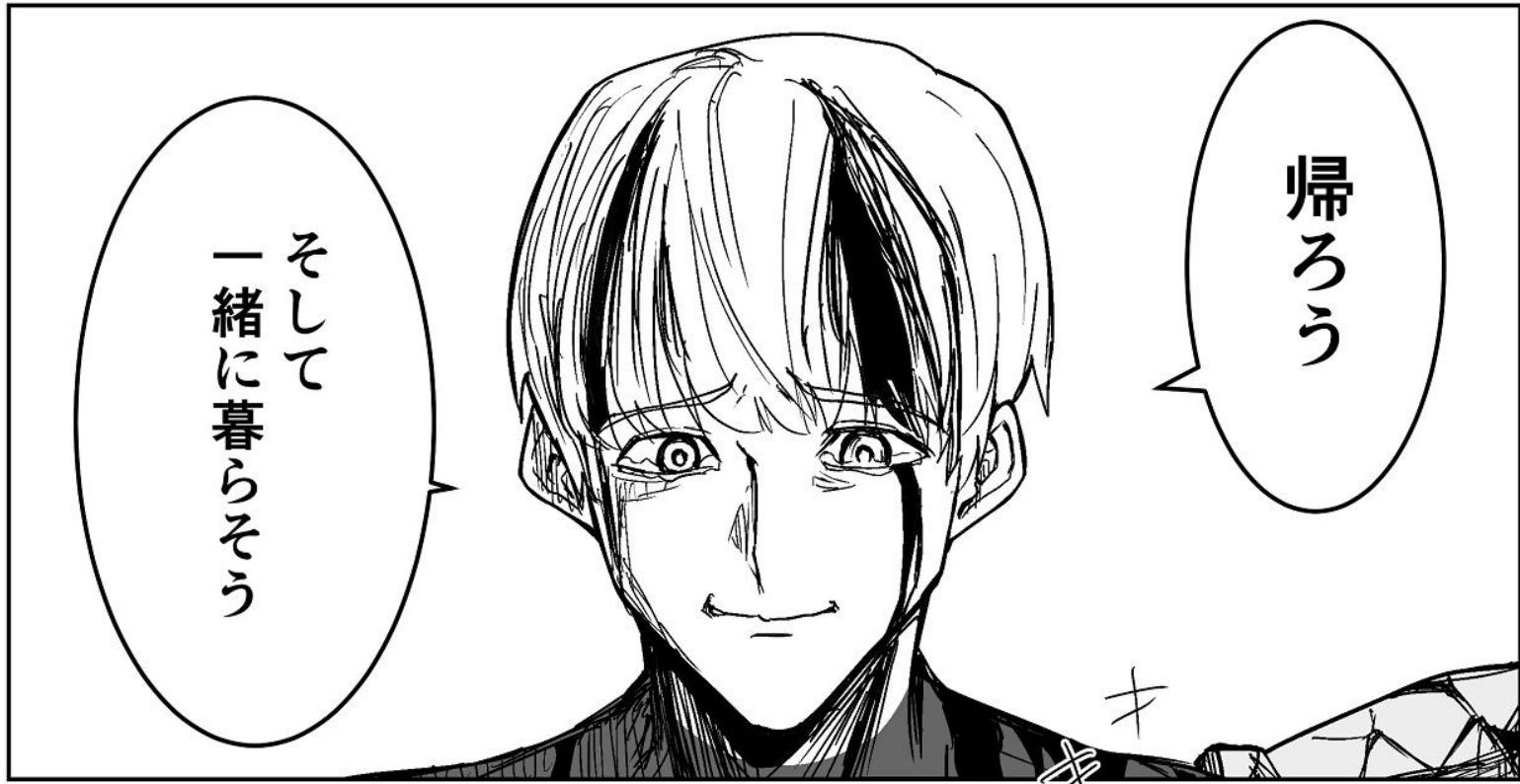
我は  
満足したのだ



それとも  
救われた命を  
怒りに任せて  
放り捨てるか?

2人はどちらを  
望むだろうなあ?





帰ろう

そして  
一緒に暮らそう



.....

.....?



エミリー!

よかった  
起きたね

ハッ



.....  
エミリー?

?



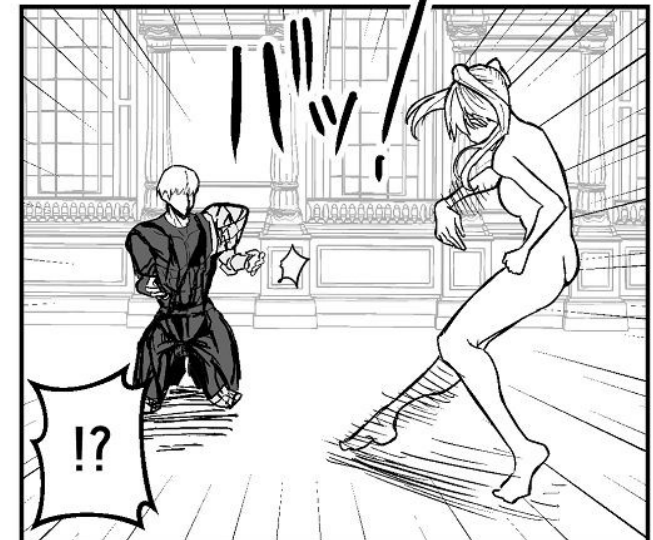
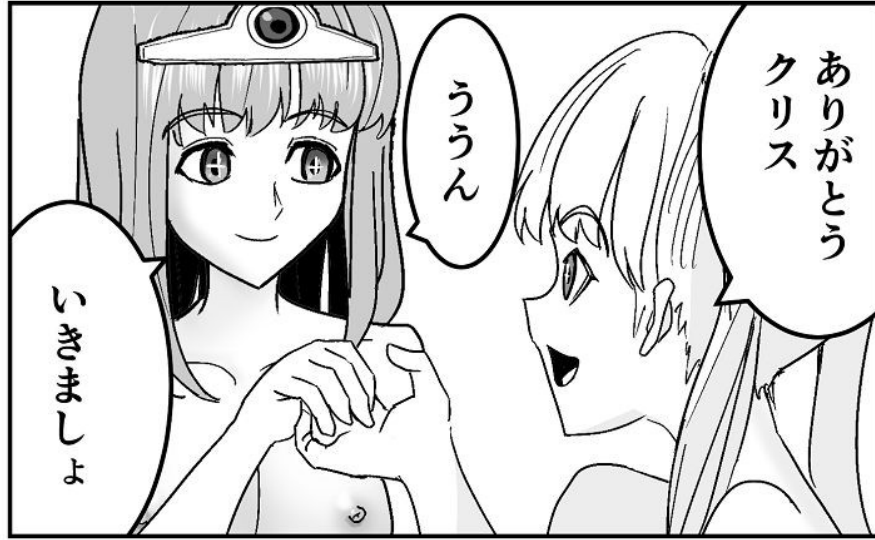
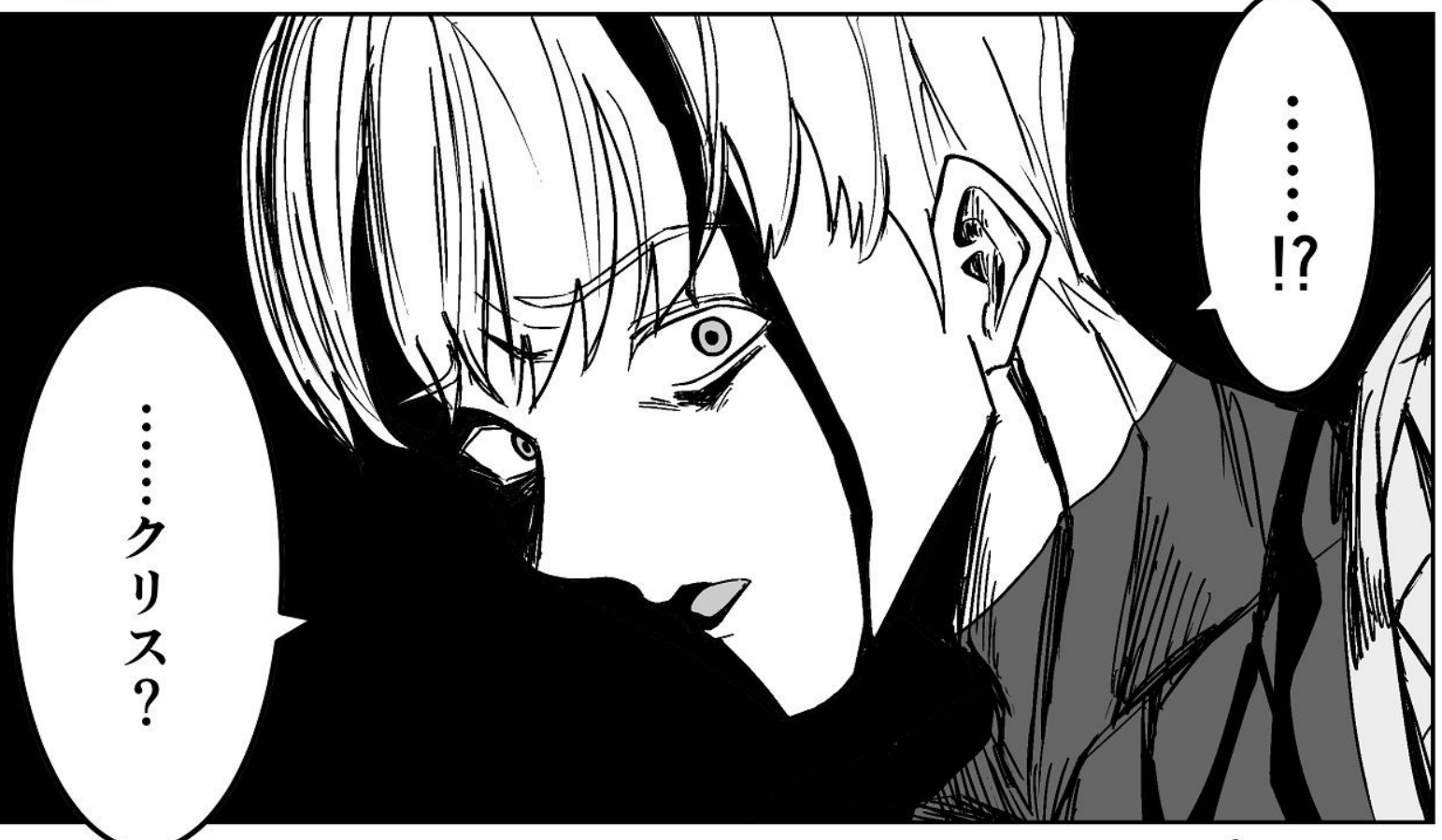
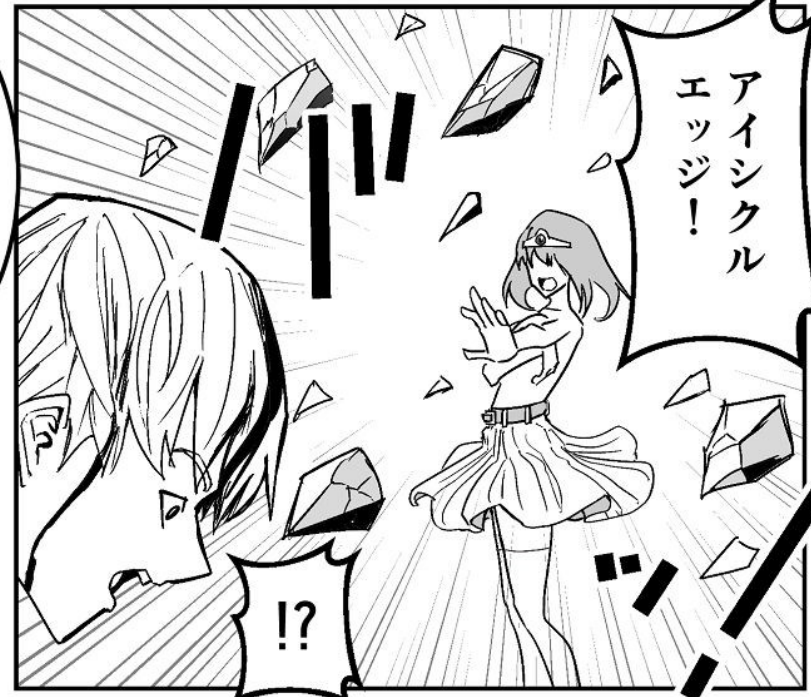
あなた

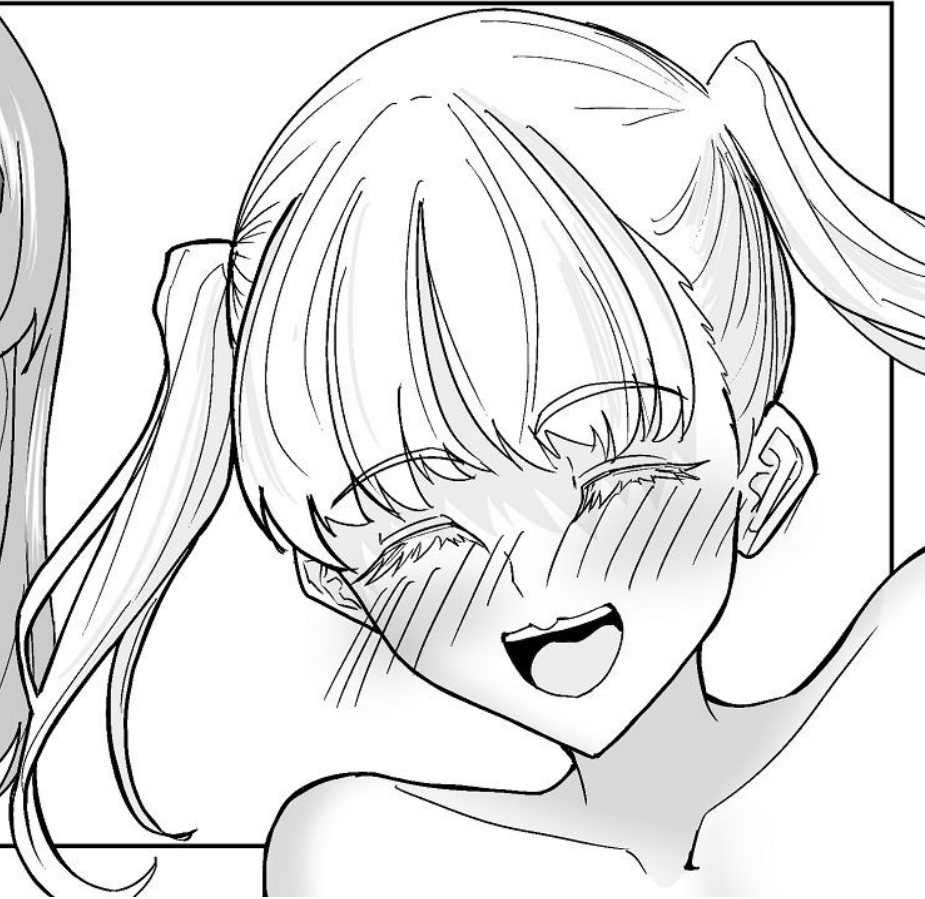
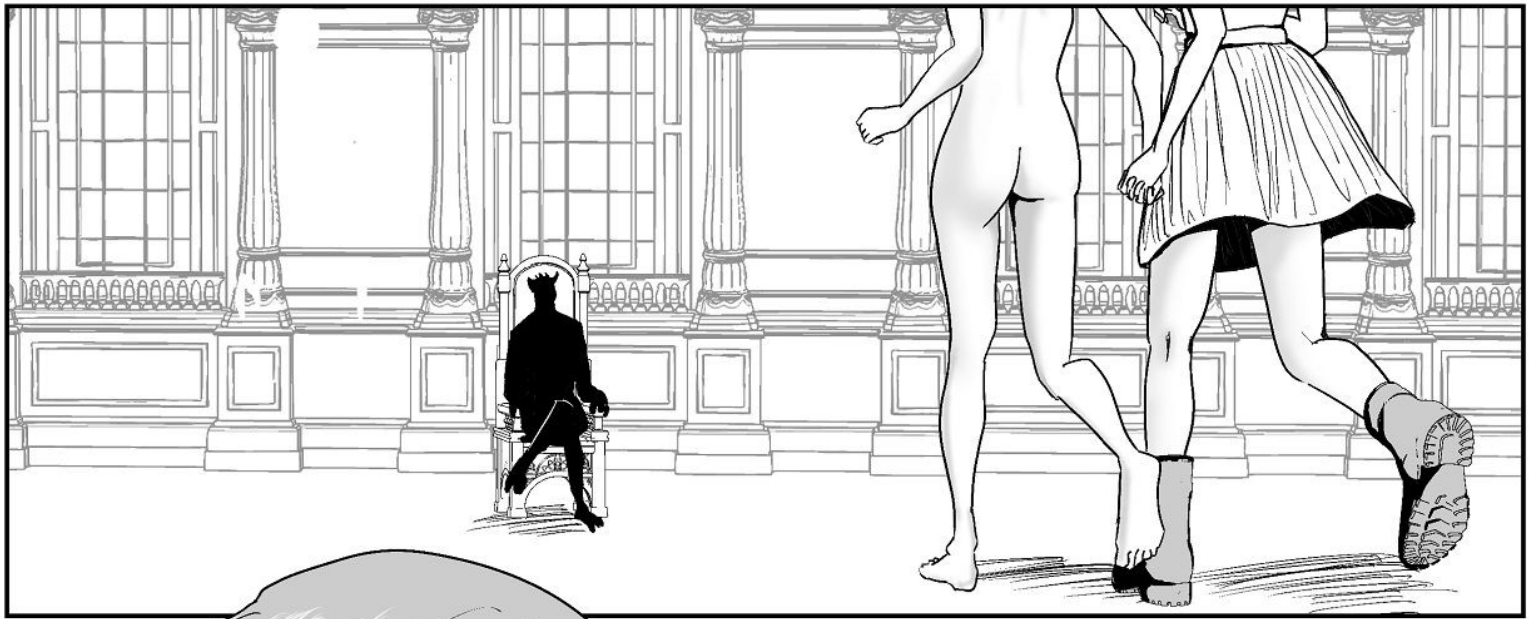
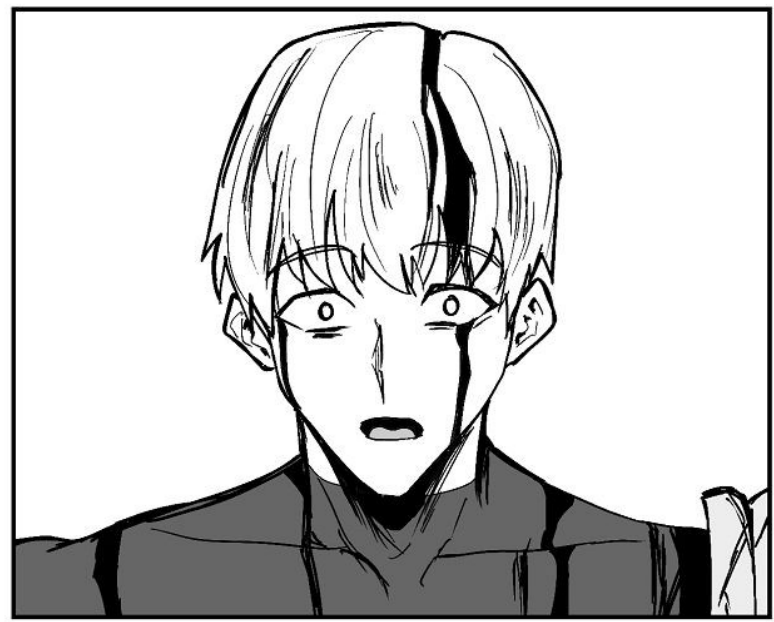
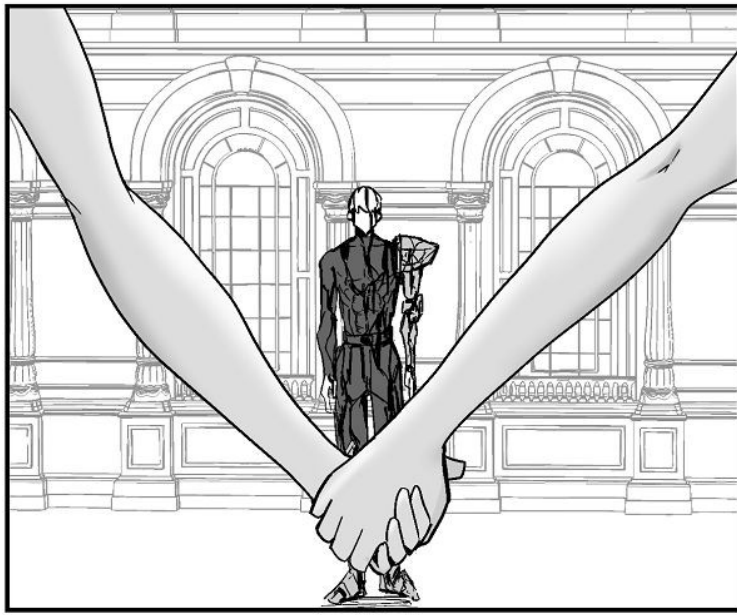


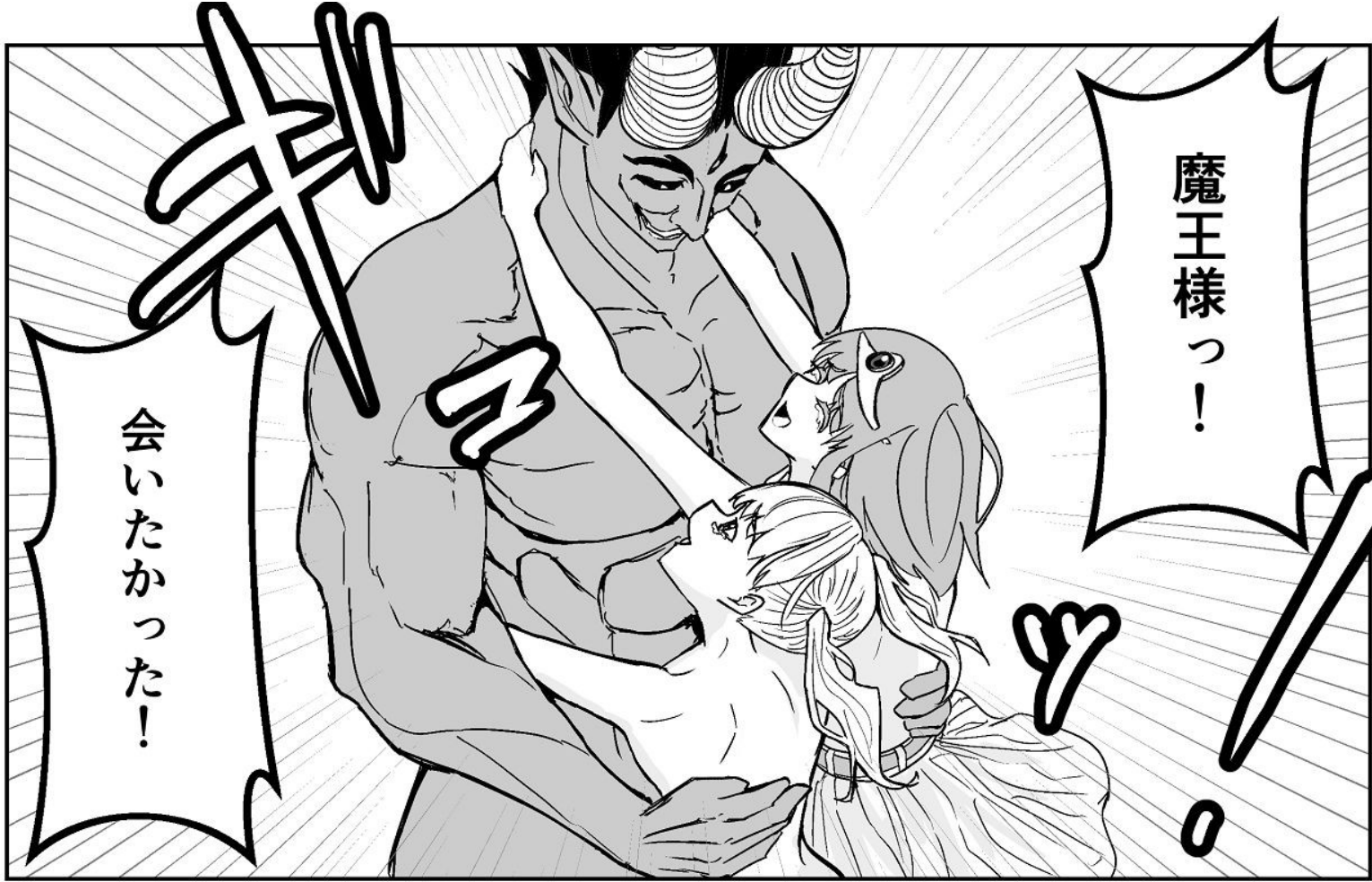
だれ？

.....

.....え？







魔王様っ！

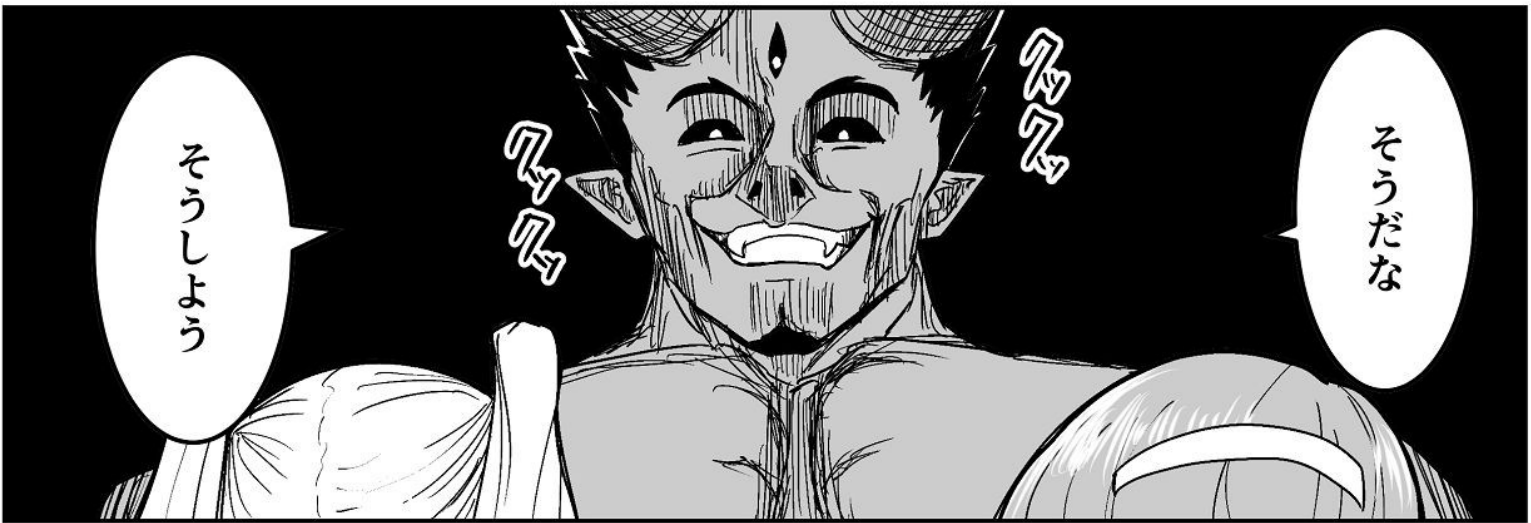
会いたかった！



約束通り、みんなと一緒に暮らしましょう！

どこでもいいわ

あなたさえいるなら



そうだな

そうしよう

勇者よ

すまん  
1つ伝え忘れていた

私の精液を  
子宮に  
注がれた女は

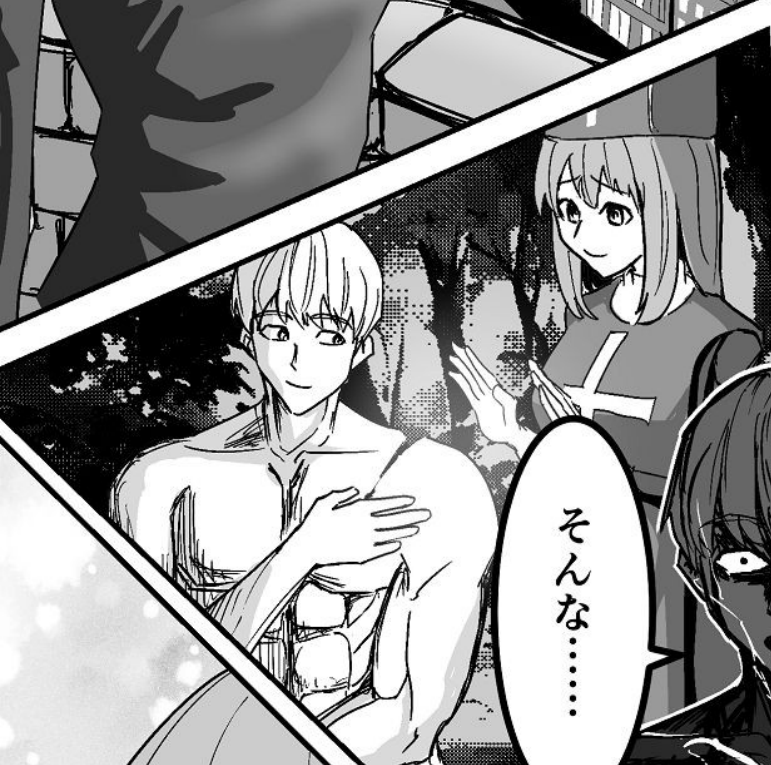
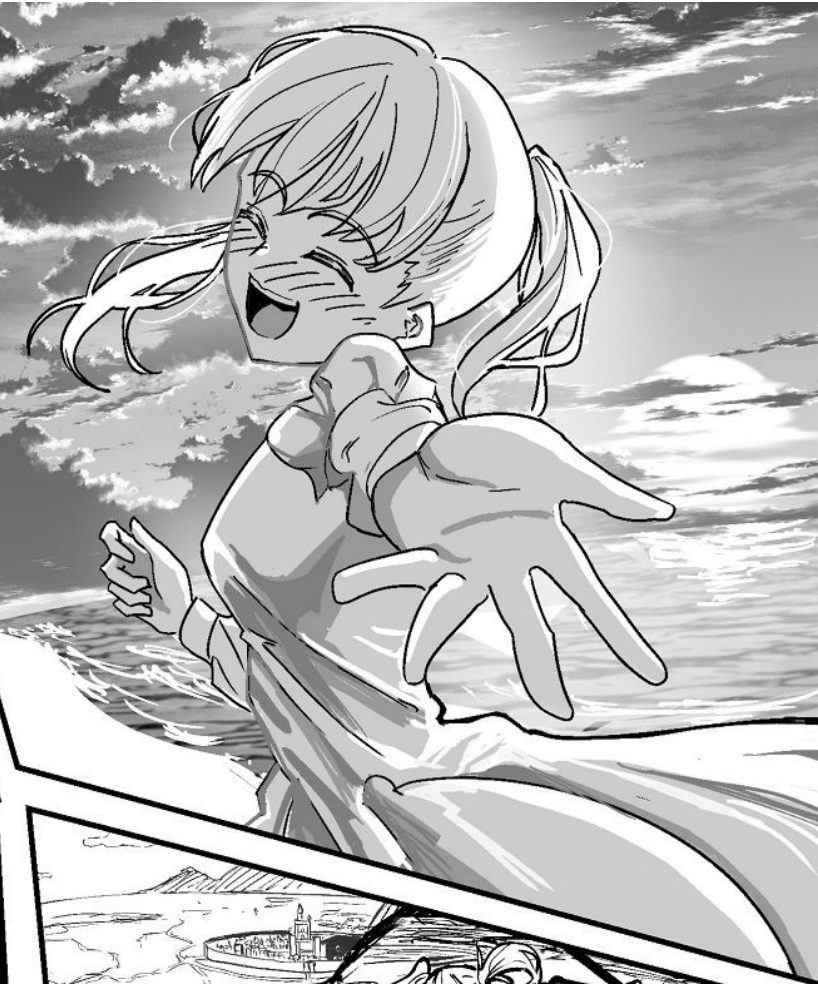
我を最愛の  
存在だと  
誤認する  
魅了<sup>チャーム</sup>がかかるのだ

この2人は  
私のことを  
お前だと  
思っているのだろう

矛盾は  
全て我に  
都合がいいように  
解釈される

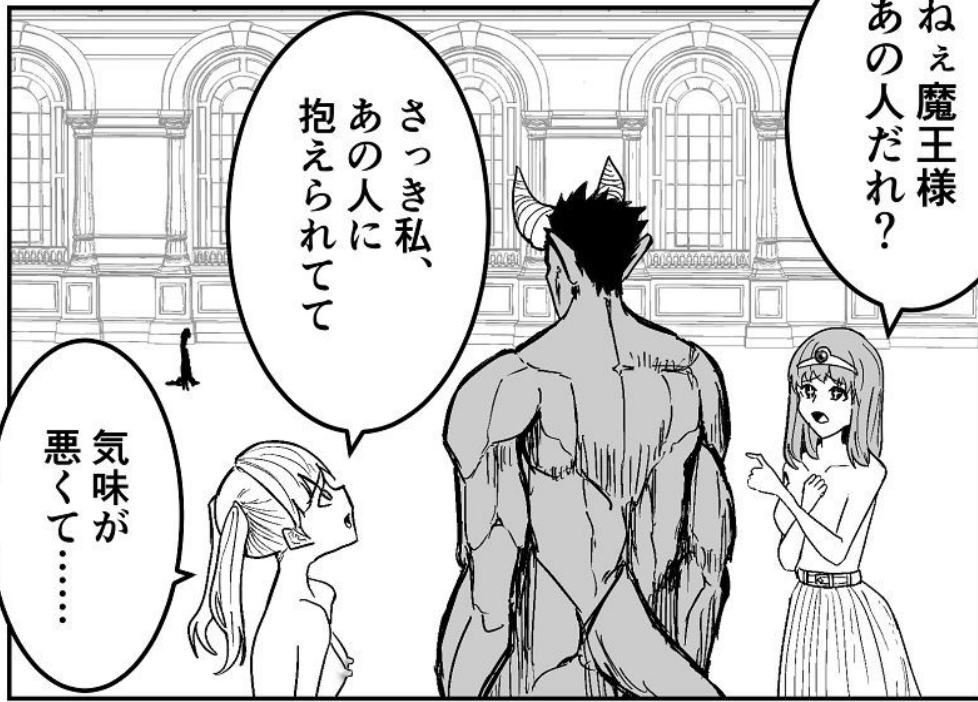
この魅了<sup>チャーム</sup>は  
生涯解ける  
ことはない

お前を愛した  
エミリーとクリスは  
もう戻ってこない



そ  
.....

そんな.....



ねえ魔王様  
あの人だれ？

さっき私、  
あの人に  
抱えられてて

気味が  
悪くて……



それより——



心配はない

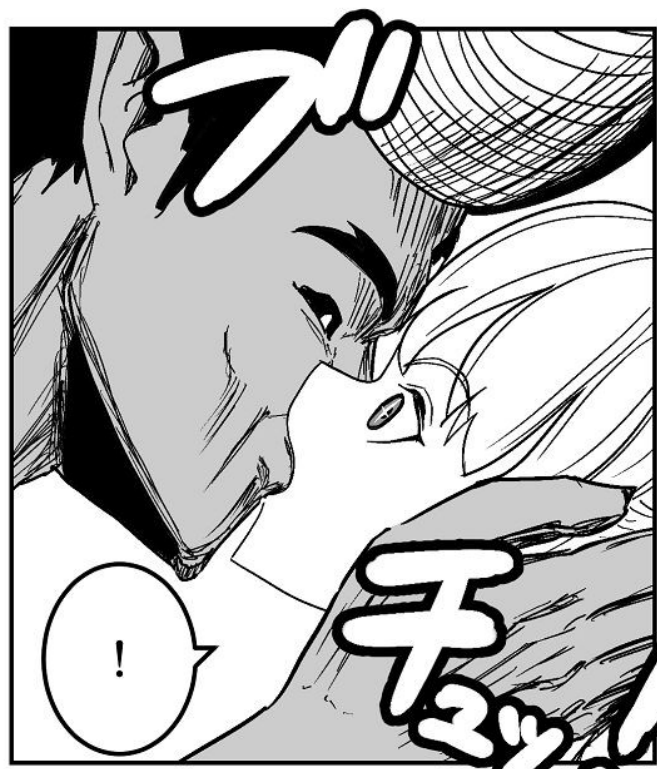
害がある  
ようなら  
我が殺して  
やる



もう……

したいの？

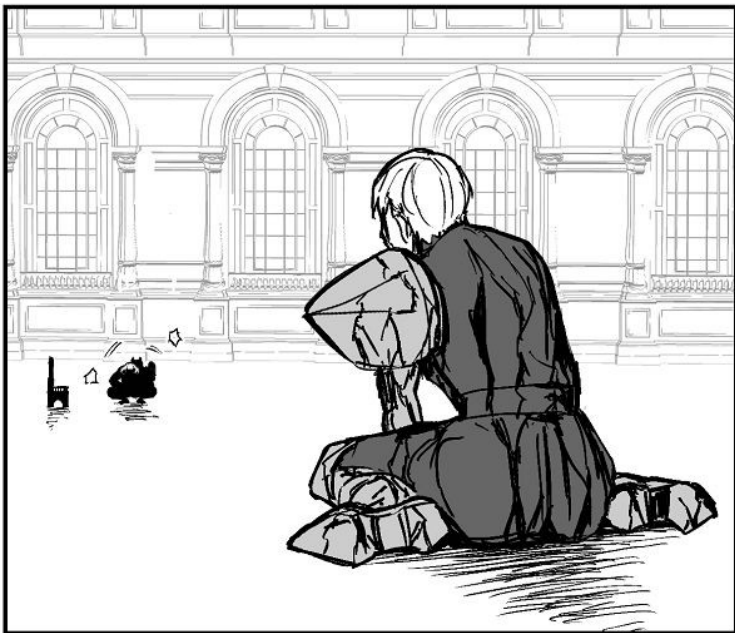
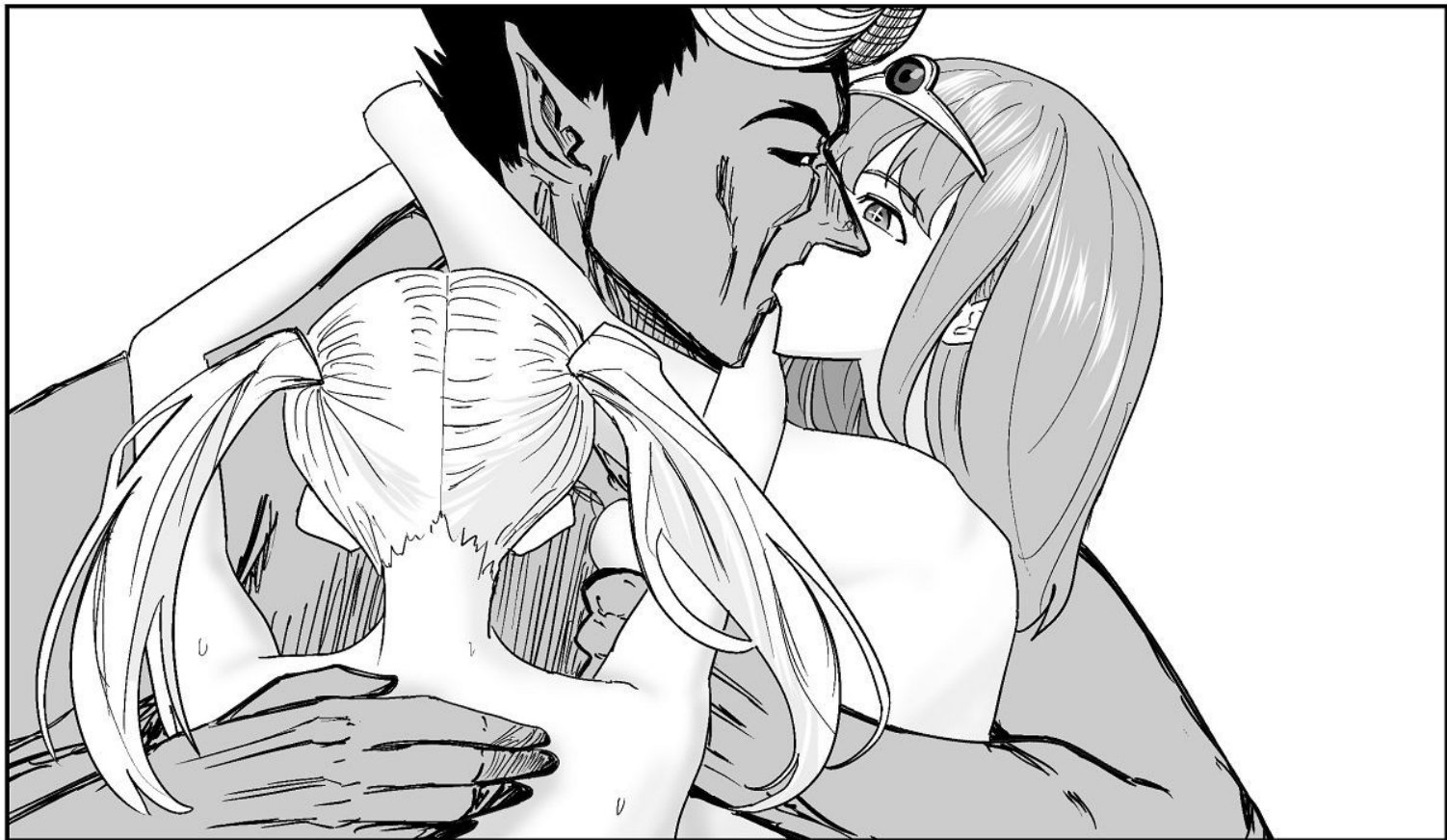
はい……

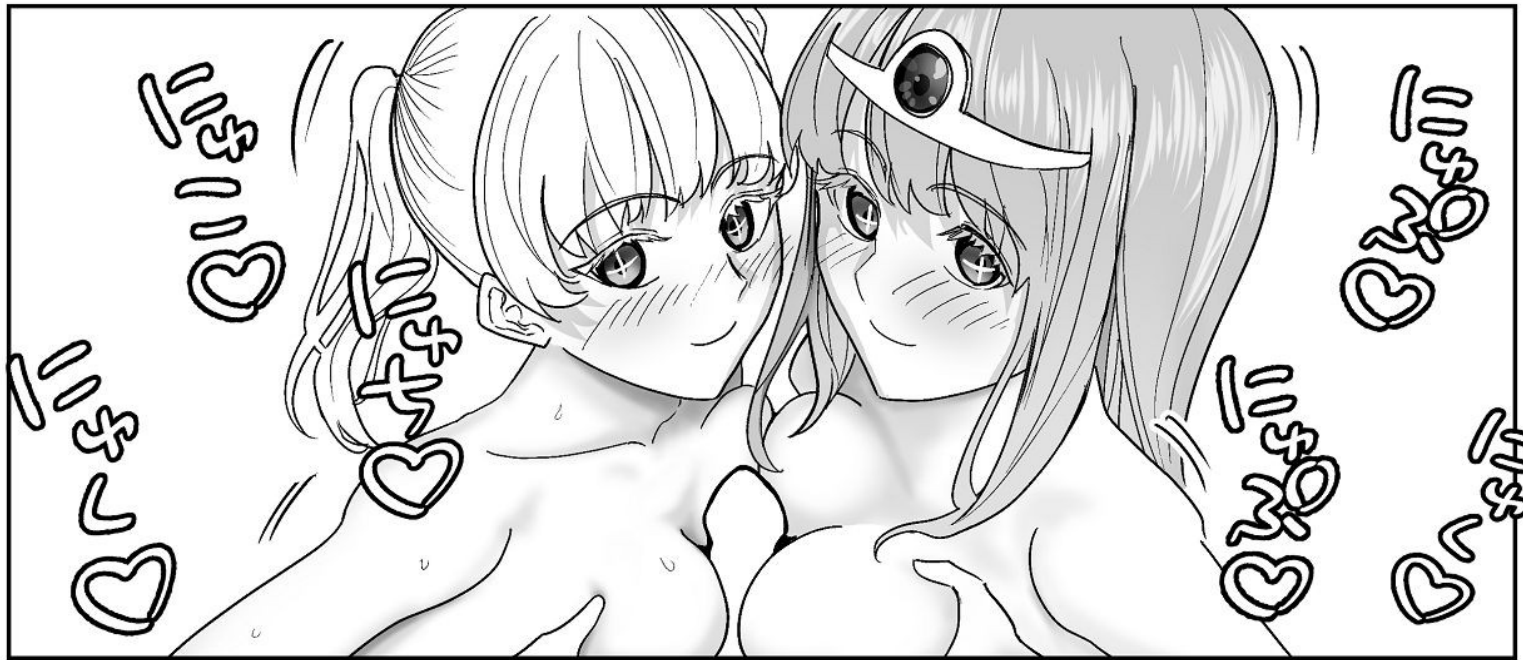


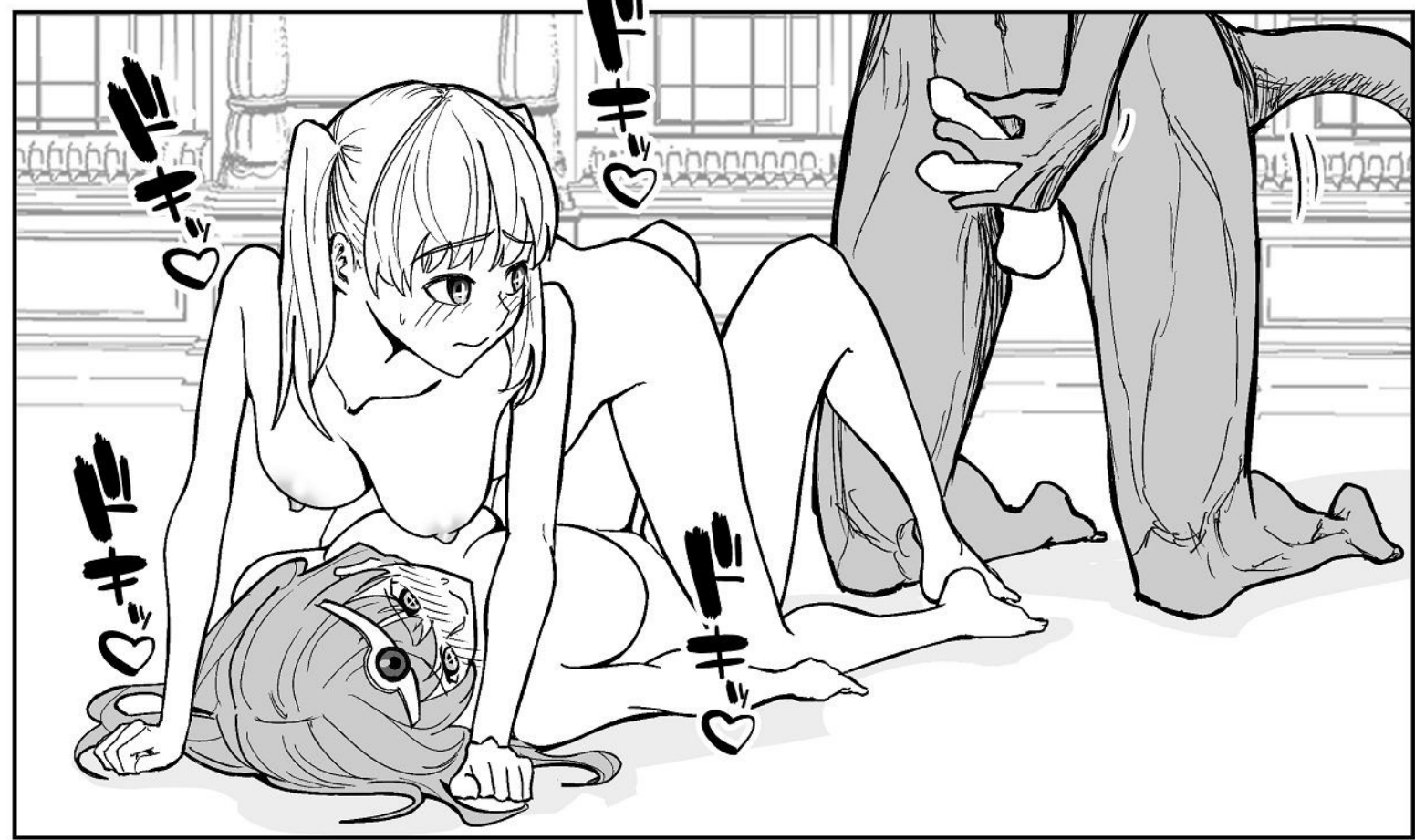
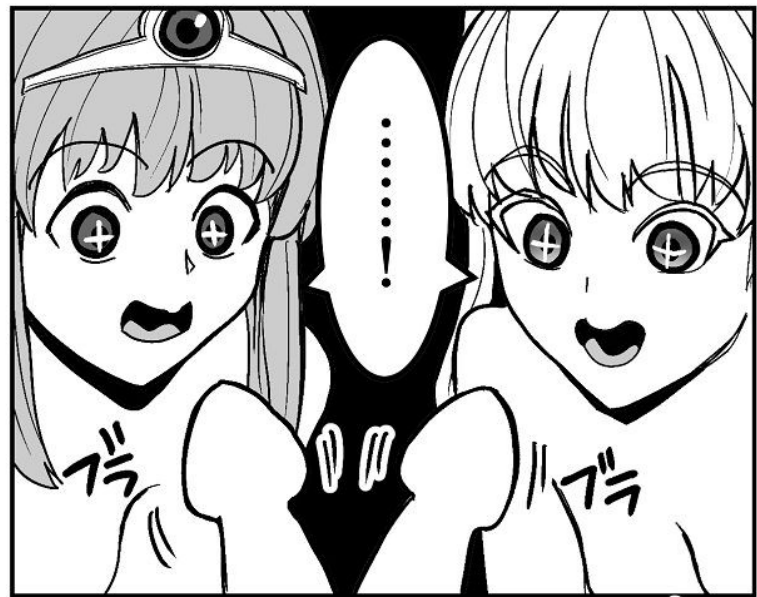
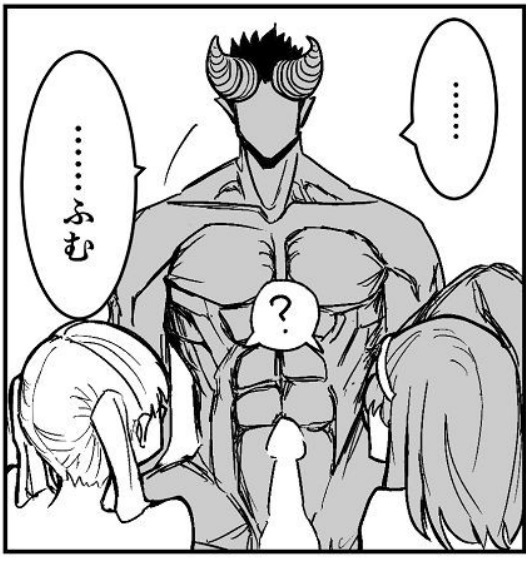
!

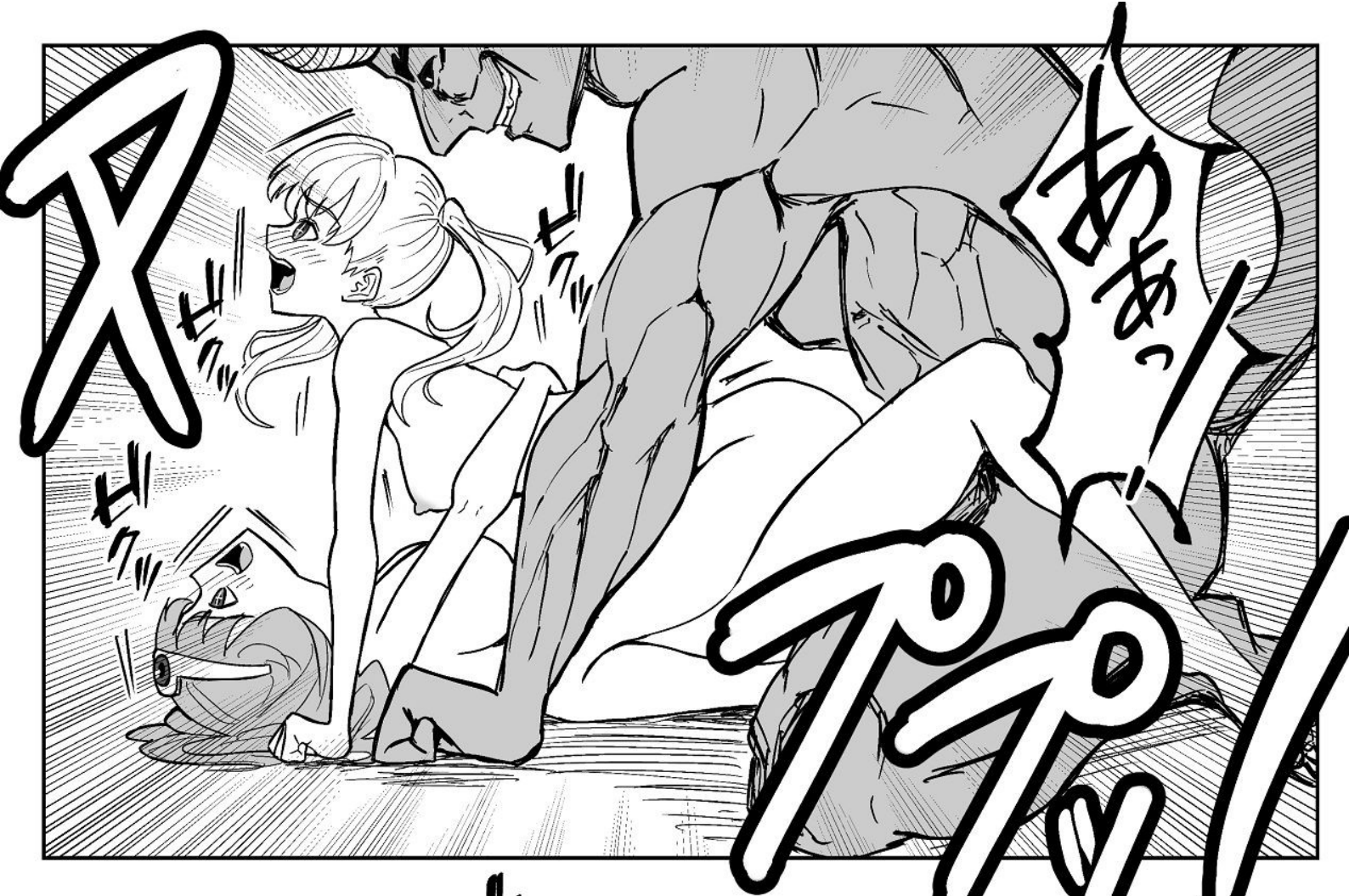
キムッ!



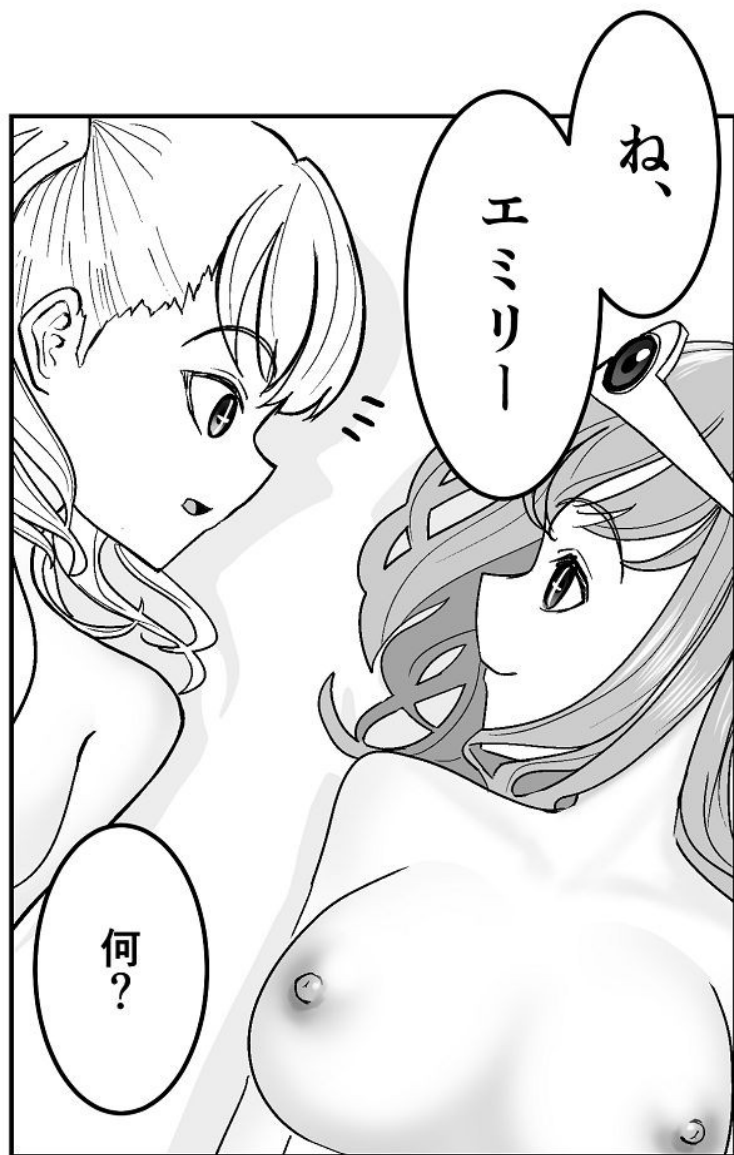
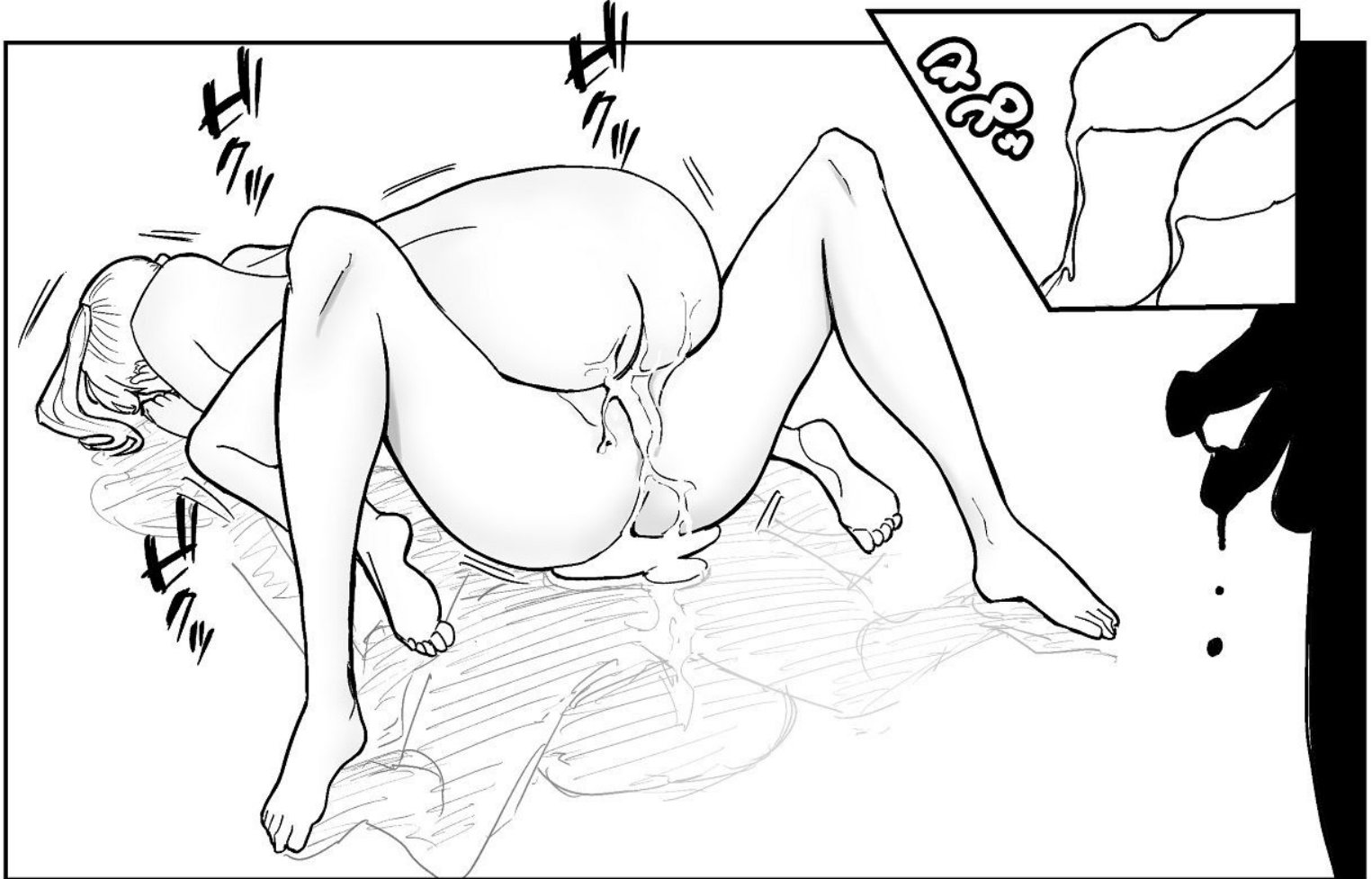


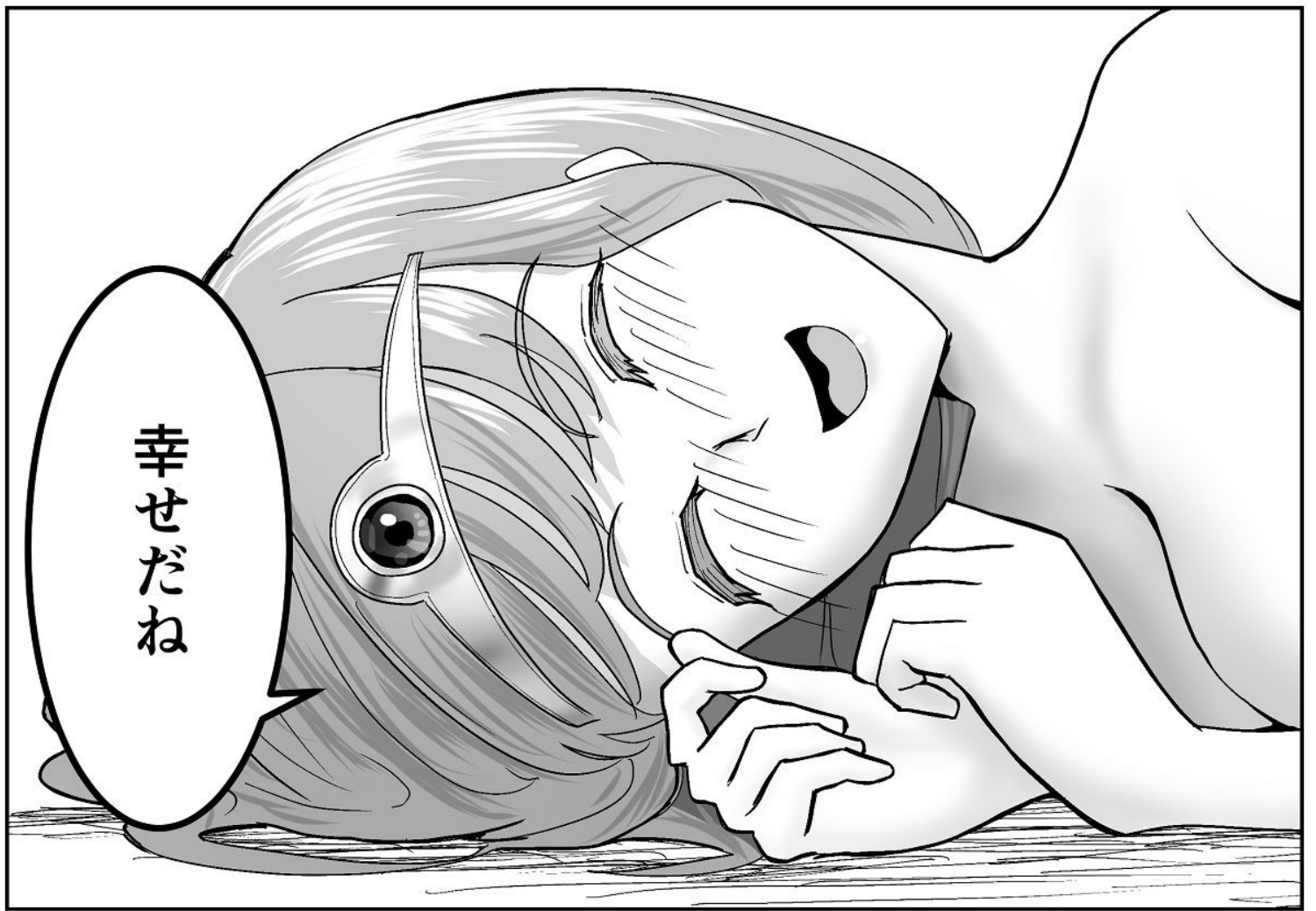




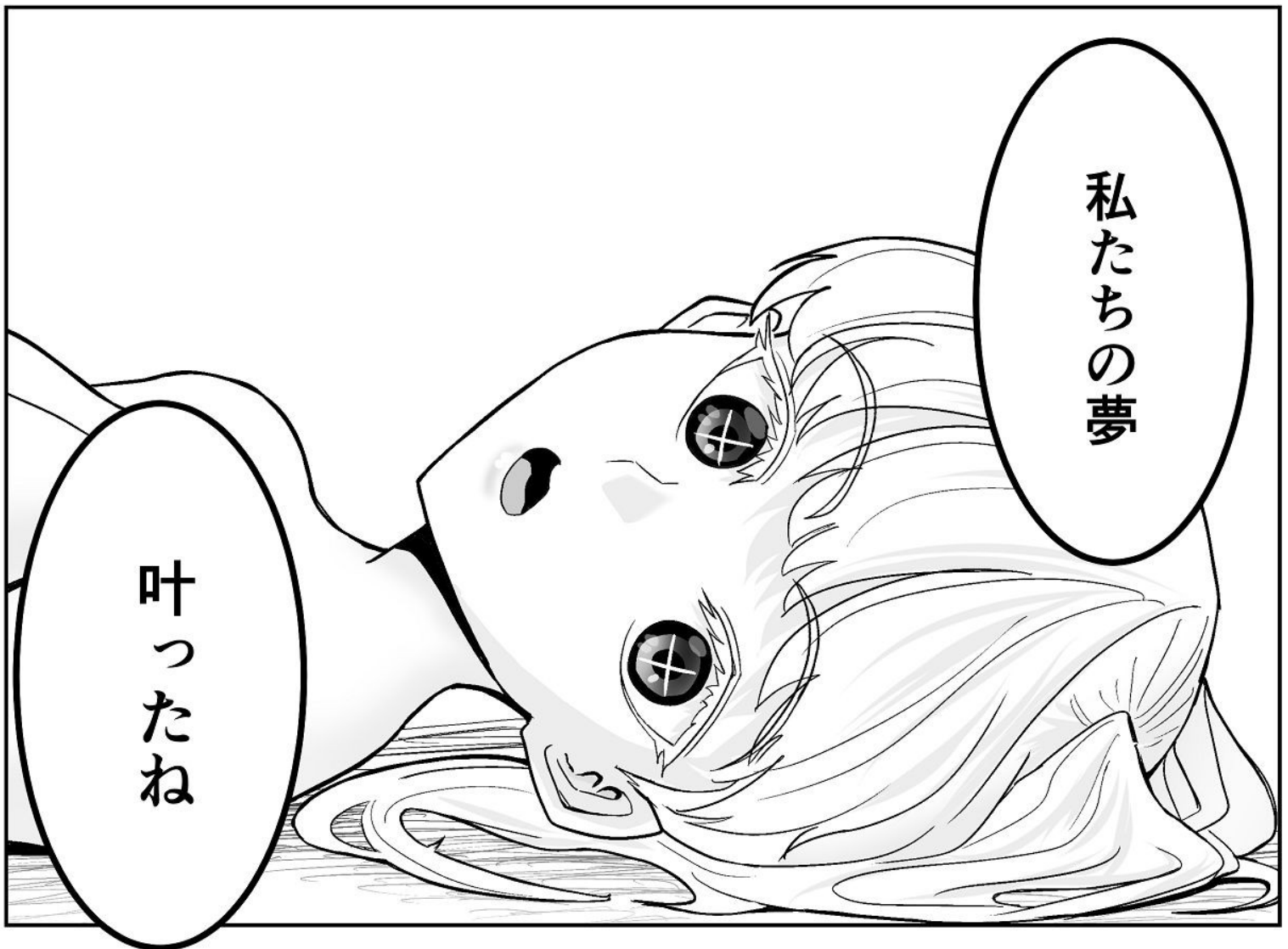








幸せだね



私たちの夢

叶ったね



うん……!!



……うん……

うん……